元総社蒼海遺跡群（103）

2016.3

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群（103）

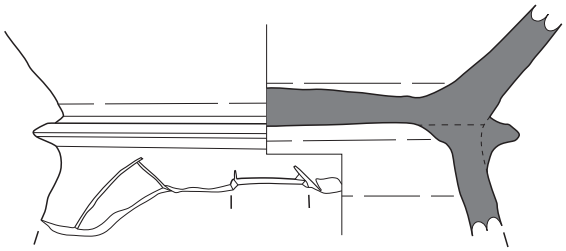
前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１６.３

前　橋　市　教　育　委　員　会

元総社蒼海遺跡群（103）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



H-6 出土有鍔台付鉢

２０１６.３

前　橋　市　教　育　委　員　会

遺跡全景　北から

遺跡全景　東から

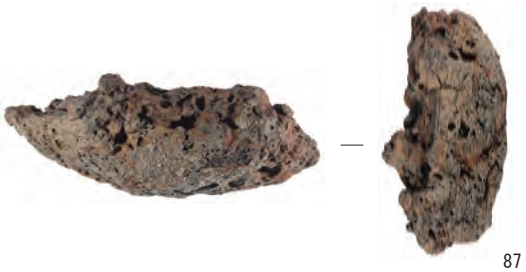
H-2 カマド

H-4 炉

J-1 炉

縄文土器集中（X-1）

55



87

97

115

はじめに

上越国境にそびえる谷川連峰をその源とし、赤城山系・榛名山系のはざまを抜けて南流する利根川が、関東平野へ向かって開けるところに、ふるさと前橋市は存在します。市域は豊かな自然環境にも恵まれ、２万年前から人々が生活を始めました。そのため市内いたる所に、人々の息吹が感ぜられる歴史遺産が存在します。

稲作文化は利根川水系の多くの河川を遡上するようにここ前橋にも伝播し、その生産基盤の安定が、東国の中心としての「毛の国」を誕生させることとなり、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれました。律令時代に入ってからも上野国の中心地として、総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは「前橋シルク」の名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告する元総社蒼海遺跡群（１０３）は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国分尼寺に隣接することから、調査成果は多くの注目を集めております。今回の調査では、縄文時代および古代の多くの竪穴住居跡を検出しました。残念ながら、現状のままでの保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進めることができました。また、寒風吹きすさぶ中、発掘調査にあたった発掘調査担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成２８年３月

前橋市教育委員会

教育長　　佐　藤　博　之

例　言

１．　本書は、前橋土地計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
２．　発掘調査から報告書刊行に至るまでの一連の作業は、前橋市の負担によって行われた。
３．　発掘調査、及び整理・報告書作成は委託業務として有限会社歴史考房まほらが実施した。
４．　発掘調査の事項は以下のとおりである。
遺 跡 所 在 地　群馬県前橋市元総社町 1693-1、1712、1613-1･2･3、1614-1
発掘調査担当者　笠原仁史（㈲歴史考房まほら）
発掘調査補助員　大谷正芳（山下工業㈱）
発 掘 調 査 期 間　平成 27 年 3 月 2 日　～　平成 27 年 4 月 22 日
調　査　面　積　470 ㎡
整理作業担当者　笠原　仁史（㈲歴史考房まほら）
整　理　期　間　平成 27 年 11 月 26 日　～　平成 28 年 2 月 29 日
５．　本書の編集は笠原仁史が行った。執筆は第１章第１節を藤坂和延が、付編を高橋実果が、その他を笠原が担当した。
６．　本書に使用した遺構写真は笠原、大谷が、遺構高所撮影・遺物写真は山際哲章が撮影した。
７．　本書で使用した遺構平面図は電子平板測量よるデジタルデータを編集し､断面図は手取り計測･作図したものをデジタルトレース編集したものである。なお、遺構の平面測量はタナカ設計（田中隆明）に委託した。
８．　発掘調査資料、出土遺物は、一括して前橋市教育委員会において保管してある。
９．　発掘調査及び本書の作成にあたって下記の方々の御助言・御教示を賜った。記して感謝いたします。（順不同、敬称略）
前橋市区画整理課　近隣の方々　桜岡正信　神谷佳明　永井智教　山下工業㈱　山際哲章
日沖剛史
１０．発掘調査、整理作業に従事した者は次のとおりである。（順不同、敬称略）
発掘調査　滝原忠男　阿久津滋　小井土攻　金沢健治　松島忠夫　田島守　稲田康夫
浅見和真　小和瀬深夏　田子富子　山田友子　森下綾子　田村美知子　多田ひさ子
整理作業　川島かおり　高橋実果　板垣陽子　星野綾子　栗山佐江子　杉本めぐみ　堀江洋子
渡辺寿美子　福田ツヤ子　山田由美子　石澤ユキエ

凡　例

１．　掲載図の縮尺は原則として次のとおりである。全体図は 1/200、各遺構図は 1/60 であるが、部縮尺の異なるものは図中に縮尺を示した。
２．　遺構名は原則として、現場で付された名称を継承した。
３．　掲載遺物の縮尺は縄文土器・土師器・須恵器・鉄滓は 1/3、石器・鉄製品は 1/2・1/1、瓦は 1/5 を基本に、縮尺が異なるものは図中に縮尺を示した。なお、遺物写真は図面と同等な縮尺とした。
４．　遺構平面図の北方向は座標北を示す。座標は旧日本測地系Ⅸ系である。
５．　出土遺物観察表に示す色調は『標準土色帖』を参照した。また、石器・石製品実測・石材鑑定は山﨑芳春が行った。
６．　出土遺物観察表の計測値に示した（　）は復元推定値を、〈　〉は残存値を表す。

目　　次

序　例言　凡例

第１章　調査に至る経緯と調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・１
　第１節　調査に至る経緯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
　第２節　調査の経過　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

第２章　遺跡の立地と環境及び基本土層・・・・・・・・・・・・５

第３章　遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
　第１節　住居　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
　第２節　土坑・集石・ピット・縄文集中・・・・・・・・・・・・・・・２８
　第３節　遺構外出土遺物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
　出土遺物観察表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５２

第４章　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６０
　第１節　遺構の概観　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６０
　第２節　H-6 出土の有鍔台付鉢について・・・・・・・・・・・・・・６２

付編　元総社蒼海遺跡群(103)から出土した盤状坏について・・・６４

写真図版
報告書抄録

第１章　調査に至る経緯と調査の経過

第１節　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、その１５年目にあたる。本調査地は、周辺において埋蔵文化財発掘調査が長年に亘って実施されており、遺跡地であることが周知されている。

平成２７年２月１７日付けで前橋市長　山本　龍（区画整理第二課）より埋蔵文化財発掘調査業務依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、市教委の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することとなり、同年３月２日付けで前橋市と民間調査組織である有限会社歴史考房まほらとの間で業務委託契約が締結され、同年３月２日に発掘調査が開始された。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（１０３）」（遺跡コード：26A200）の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、「（１０３）」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

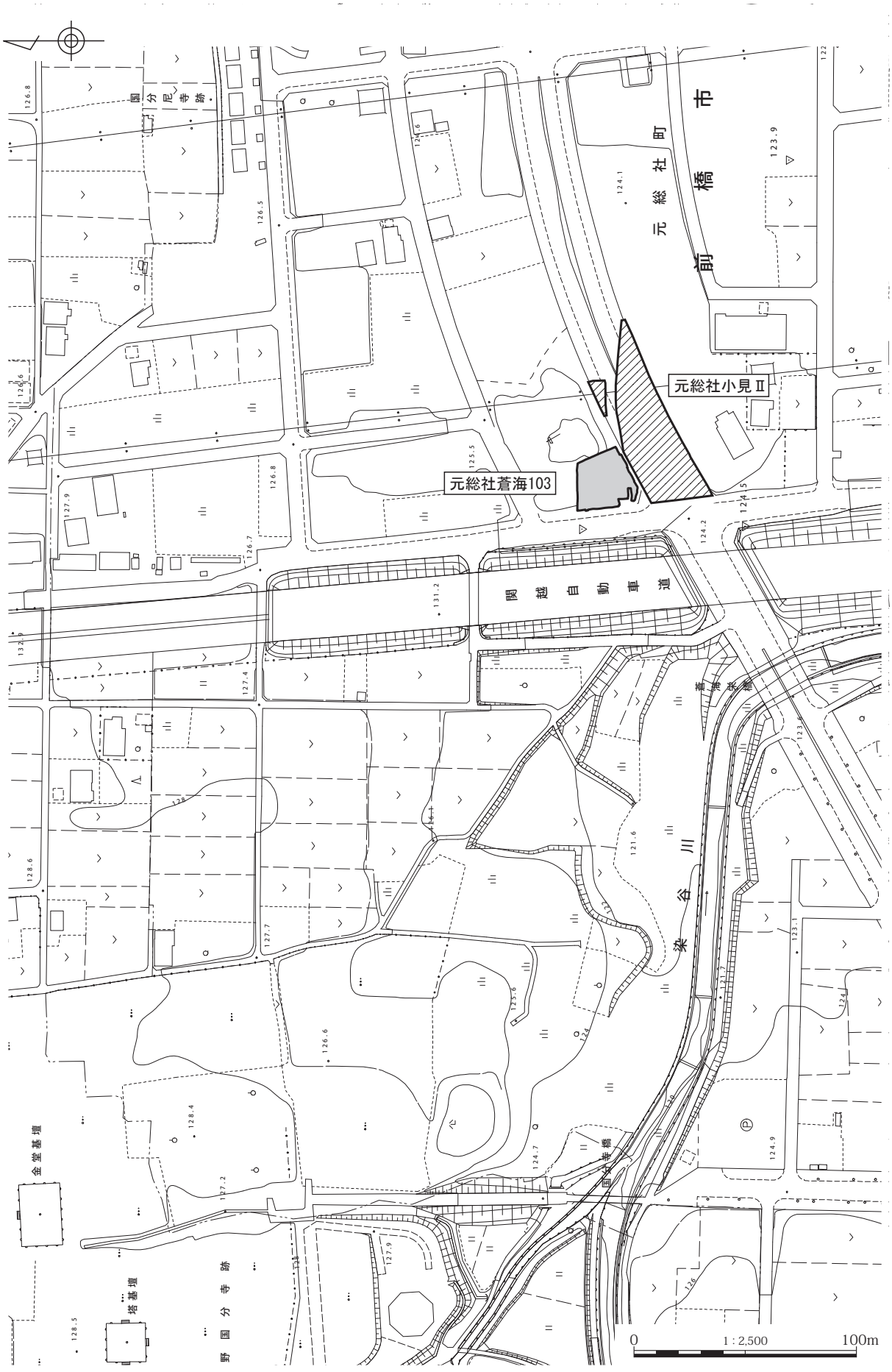
第２節　調査の経過

●発掘調査

発掘調査は平成 27 年 3 月 2 日　～　平成 27 年 4 月 22 日まで実施された。

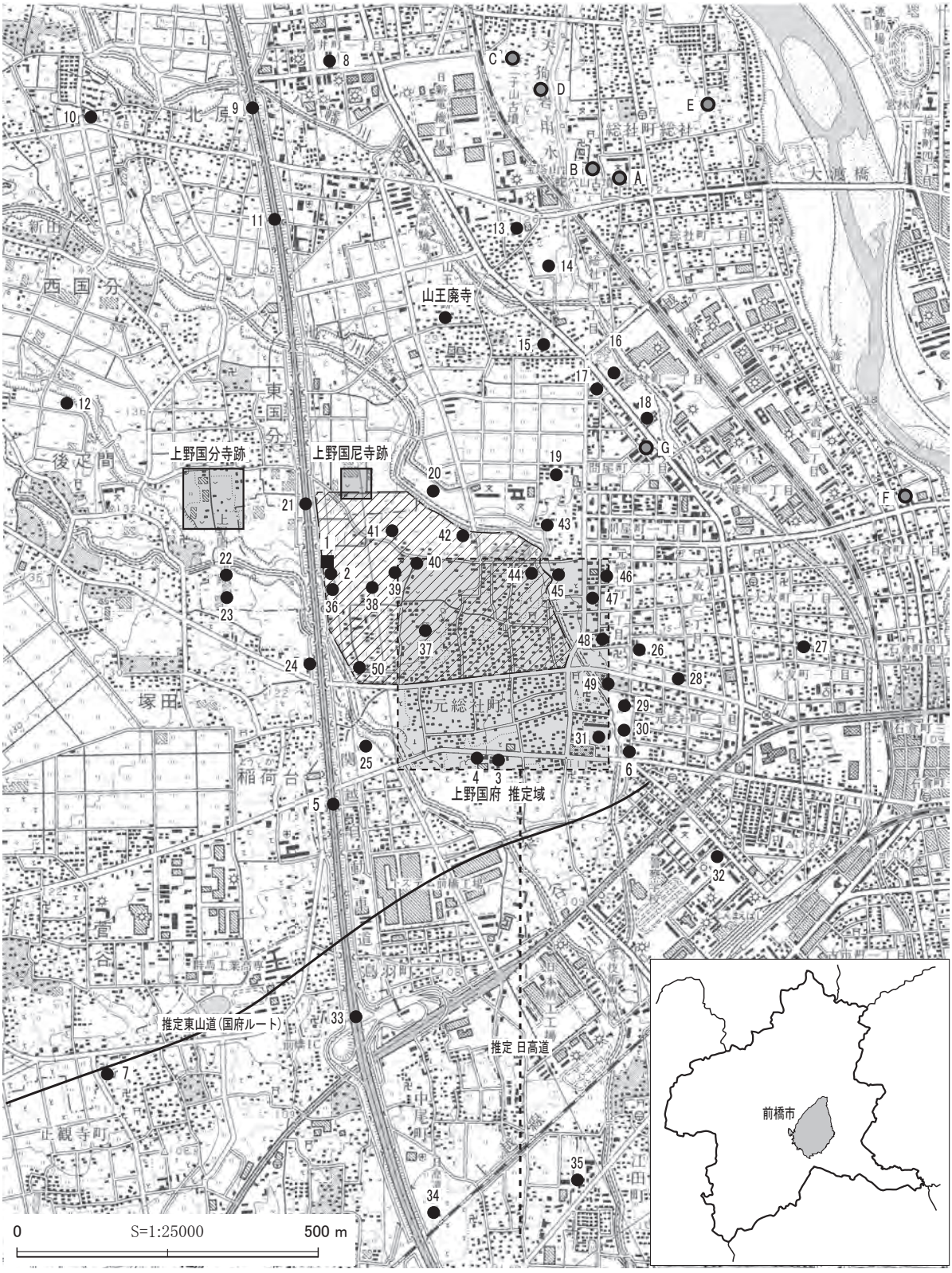
調査経過の概略は下記のとおりである。

3 月　2 日 ： 調査着手　計画・準備。
3 月　4 日 ： 現地打合せ。
3 月　6 日 ： 重機搬入、整地作業。
3 月 10 日 ： 仮設トイレ設置。器材搬入。
3 月 11 日 ： 表土掘削開始。
3 月 13 日 ： 遺構確認作業開始。遺物洗浄開始。
3 月 18 日 ： 遺構調査（掘下げ）開始。
3 月 19 日 ： 重機搬入、再掘削開始。
3 月 23 日 ： 再掘削範囲の遺構確認作業。遺構測量開始。
4 月　2 日 ： 高所撮影。現場完了検査。
4 月　6 日 ： 現地調査終了。
4 月　7 日 ： 器材搬出。
4 月 10 日 ： 遺構測量終了。
4 月 13 日 ： 埋め戻し。遺物注記開始。
4 月 14 日 ： 遺物洗浄終了。遺構写真・図面整理等開始。
4 月 21 日 ： 遺物注記終了。
4 月 22 日 ： 遺構写真・図面整理終了。



第１図　遺跡位置図

「前橋市現況図」を使用



第 2 図　周辺遺跡分布図（『国土地理院 1:25,000』を使用）

第１表　周辺遺跡一覧

No.	遺　跡　名	時　期　・　種　別
1	元総社蒼海地区遺跡群 103	本遺跡
2	元総社小見Ⅱ遺跡	本遺跡隣接、縄文・古墳・奈良・平安時代の集落、中世の溝・道路
3	天神Ⅲ遺跡	奈良・平安時代の集落、八稜鏡出土
4	天神遺跡・Ⅱ遺跡	奈良・平安時代の集落
5	鳥羽遺跡	古墳・奈良・平安時代の集落、神殿、鍛冶
6	寺田遺跡	平安時代の溝
7	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ	弥生・古墳・奈良・平安時代の集落、中世の溝
8	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	奈良・平安時代の集落
9	北原遺跡	縄文時代の土坑・集石、古墳時代の水田、奈良・平安時代の集落
10	熊野谷・Ⅱ・Ⅲ遺跡	縄文・平安時代の集落
11	国分寺境遺跡～Ⅲ遺跡	古墳・奈良・平安時代の集落
12	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ	古墳・奈良・平安時代の集落
13	村東遺跡	古墳・奈良・平安時代の集落
14	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	縄文・古墳・奈良・平安時代の集落、中世の掘立・地下式坑
15	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	奈良・平安時代の集落
16	産業道路東遺跡	縄文時代の集落
17	産業道路西遺跡	縄文時代の集落
18	稲荷塚道東遺跡	古墳・奈良・平安時代の集落、竈構築材採掘跡
19	総社甲稲荷塚大道西遺跡・Ⅱ遺跡	奈良・平安時代の集落、中世の畠、近世の溝
20	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ・Ⅳ遺跡、総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	縄文・古墳・奈良・平安時代の集落
21	上野国分寺・尼寺中間地域	縄文時代の集落・配石、弥生時代の集落・方形周溝墓、古墳・奈良・平安時代の集落
22	元総社西川遺跡	古墳・奈良・平安時代の集落
23	上野国分寺参道遺跡	古墳・平安時代の集落
24	塚田村東遺跡	平安時代の集落
25	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	古墳・平安時代の集落
26	堰越Ⅱ遺跡	平安時代の集落
27	大友宅地添遺跡	As-B 下水田
28	堰越遺跡	奈良・平安時代の集落
29	元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ	古墳時代の集落・水田、奈良・平安時代の集落、中世の住居
30	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ	古墳・奈良・平安時代の集落
31	元総社小学校校庭遺跡	平安の掘立柱建物
32	元総社稲葉遺跡	縄文時代の土坑、平安時代の集落、瓦塔出土
33	中尾遺跡	奈良・平安時代の集落
34	日高遺跡	As-C 下水田、方形周溝墓
35	勝呂遺跡	As-B 下水田
36	元総社小見遺跡Ⅳ	奈良・平安時代の集落、中世の土坑墓
37	草作遺跡	古墳・奈良・平安時代の集落
38	元総社草作遺跡Ⅴ	古墳・奈良・平安時代の集落
39	元総社小見Ⅸ遺跡	奈良・平安時代の集落
40	元総社小見内Ⅹ遺跡	古墳時代の集落、奈良・平安時代の集落・工房・粘土採掘坑
41	元総社小見内Ⅶ遺跡	縄文・奈良・平安時代の集落、中世の畠・溝
42	元総社小見内Ⅲ遺跡	古墳・奈良・平安時代の集落、中世の掘立・溝
43	総社閑泉明神北Ⅲ	縄文・奈良・平安時代の集落
44	総社閑泉明神北Ⅴ	古墳時代の水田、奈良・平安時代の集落
45	総社閑泉明神北遺跡	古墳時代の畠・水田、中世の溝
46	閑泉越遺跡	奈良・平安時代の溝
47	閑泉越南遺跡	古墳・奈良・平安時代の集落
48	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	古墳・平安時代の集落、中世の堀・石敷
49	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	古墳・平安時代の集落、地下式坑
50	元総社蒼海地区遺跡群 8	古墳・奈良・平安時代の集落、緑釉陶器出土
A	蛇穴山古墳	方墳　8c 初
B	宝塔山古墳	方墳　7c 末
C	総社二子山古墳	前方後円墳　6c 末～ 7c 初
D	愛宕山古墳	円墳　7c 初
E	遠見山古墳	前方後円墳　5c 後半
F	王山古墳	前方後円墳　6c 中
G	稲荷山古墳	円墳　6c 後半

第２章　遺跡の立地と環境及び基本土層

「遺跡の立地と環境、及び基本土層」については、すでに元総社蒼海遺跡群として数多くの発掘調査が隣接地域で実施され、報告書が刊行されているものも多く、内容的に重複することから簡略化することとした。

周辺の環境についての概略については第２図と表１ に示したとおりである。

基本土層については、撹乱の影響ををを大きく受けており、基本的な層序が観察できたのは東壁の一部のみであるが、周辺遺跡と堆積状況が大きく変わるところは認められなかった。基本的にはHr-FP・As-C 含有黒褐色土が遺構確認面になるが、その下層に堆積する総社砂層や黄褐色粘質土が露呈している部分が多く認められた。

第３図　遺構配置図

第３章　遺構と遺物

第１節　住居

J-1　（遺構：第 4･5 図、図版 8 ／遺物：第 26 図、第 3 表、図版 12）

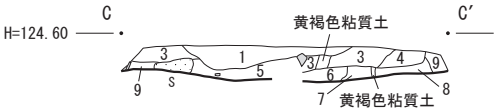
重複：H-11 に切られる。J-4 との新旧関係は不明瞭であるが、遺物の出状況から J-4 より新しいと考えられる。　**形態・確認規模**：東西 5.2 ×南北（残存）4.3 ｍ、深さ（残存）16 ㎝程を測り、円形と推定される。　**主軸方向**：N-29°　-E。　**炉**：中央部に敷設。長軸 94 ×短軸 86 ×深さ（残存）17 ㎝程の方形に礫を配し、中央底にを深鉢を埋設している。　**床面**：上部撹乱により不明瞭ではあるが、総社砂層上面を平坦に整えた床と考えられる。　**覆土**：黄褐色土粒含有暗褐色土を主体とする自然堆積と考えられるが、覆土が薄く埋没状況の判断は難しい。　**遺物**：掲載遺物 7 点。炉付近に比較的まとまって出土している。　**所見**：残存状態が悪く出土遺物も少ないが、遺構形態・出土遺物から縄文時代中期後半の住居と推定される。

J-2　（遺構：第 6 図、図版 8･9 ／遺物：第 26 図、第 3 表、図版 12）

重複：H-13･14 に切られる。　**形態・確認規模**：東西（残存）2.4 ×南北（残存）5.0 ｍ、深さ（残存）9 ㎝程を測り、円形と推定される。　**主軸方向**：不明。　**炉**：中央部に敷設。径 70 ×深さ（残存）10 ㎝程の円形に礫を配している。　**床面**：不明瞭ではあるが、黒色粘質土上面を平坦に整えた床と考えられる。　**覆土**：黄褐色粘質土粒含有黒褐色土を主体とするが、覆土が薄く埋没状況の判断は難しい。　**遺物**：掲載遺物 7 点。炉付近から少量出土している。　**所見**：残存状態が悪く出土遺物も少ないが、遺構形態・出土遺物から縄文時代中期後半の住居と推定される。

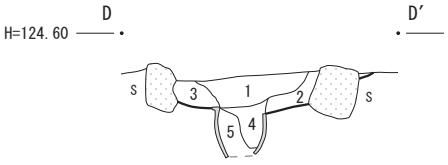
J-3　（遺構：第 7 図、図版 8 ／遺物：第 27 図、第 3 表、図版 12）

重複:H-3･5､D-1･2､S-1 に切られる。　**形態･確認規模**:東西（残存）4.0 ×南北（残存）4.2 ｍ､深さ（残存）7 ㎝程を測り、円形と推定される。南西部に長さ 45 ×幅 66 ㎝程の方形状突出部が認められる。



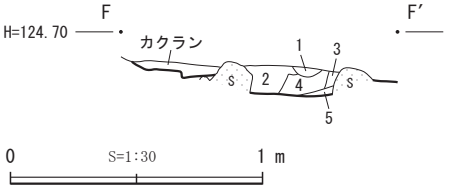
J-1 炉

1. 黒褐色土。締まっている。粘質。As-C・橙色粒若干含有。
2. 黒褐色土。締まっている。粘質。As-C 僅か含有。
3. 黒褐色土。締まっている。粘質。総社層粒・焼土粒若干含有。
4. 暗褐色土。締まっている。粘質。総社層粒若干含有。
5. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。焼土粒少量含有。
6. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。焼土粒僅か含有。
7. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。総社砂層粒若干含有。
8. 暗褐色土。硬く締まっている。粘質。総社砂層混在。
9. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 僅か含有。



J-2 炉掘り方

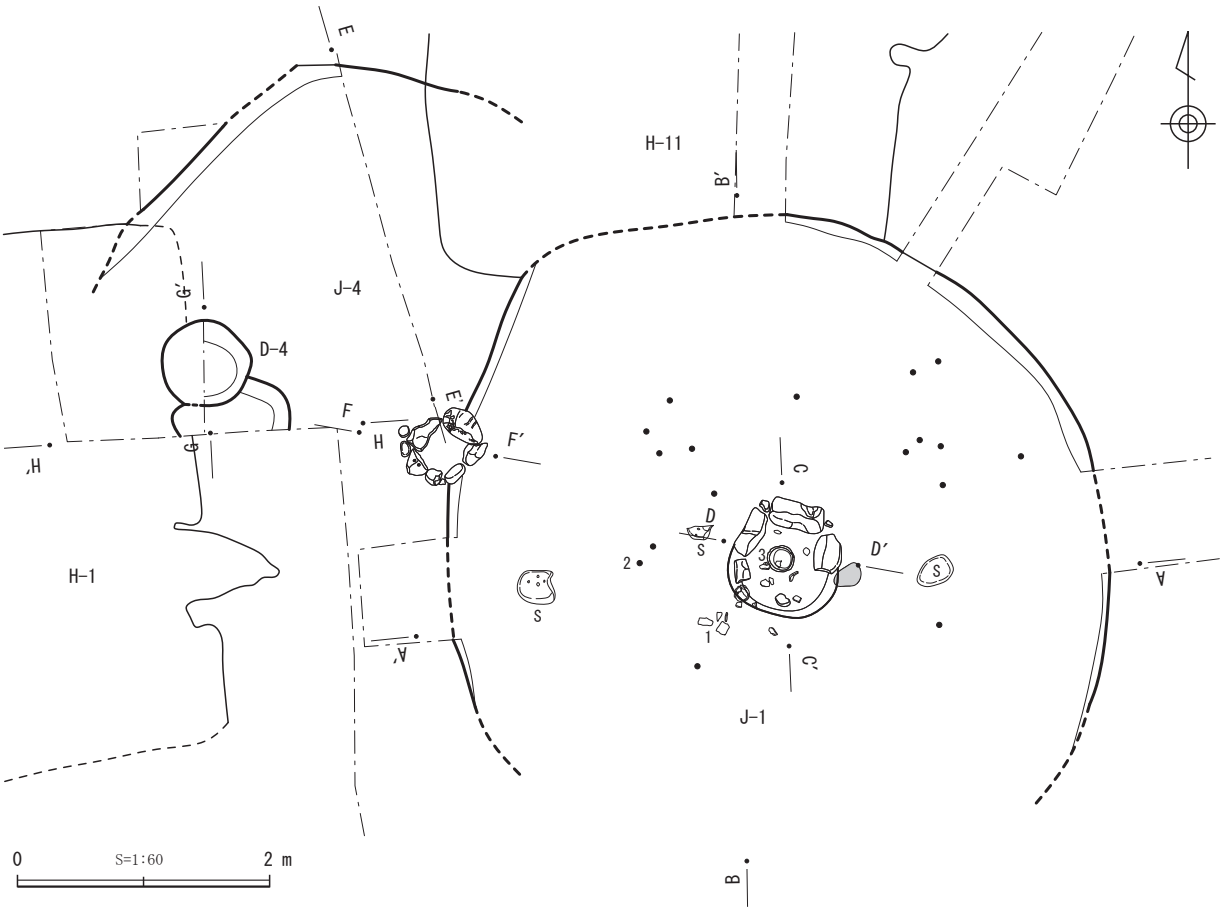
1. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。焼土粒僅か含有。
2. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。褐色粘質土ブロック少量含有。
3. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。褐色粘質土ブロック多量含有。
4. 黒褐色土。締まりなし。粘性なし。炭化粒・褐色粒僅か含有。
5. 暗褐色土。締まりなし。粘性なし。褐色土ブロック多量含有。

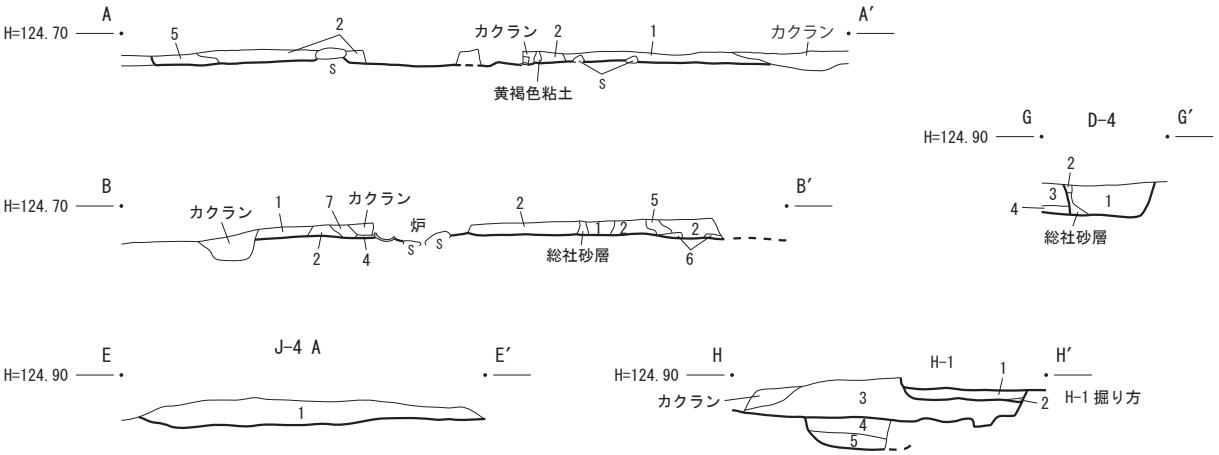


J-4 炉

1. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。焼土僅か含有。
2. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。黄褐色土粒少量、炭化粒僅か含有。
3. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。黄褐色土粒僅か含有。
4. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。茶褐色粒多量含有。
5. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。茶褐色粒含有。

第 4 図　J-1 炉





J-1

1. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 若干含有。
2. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。黄褐色土粒少量、As-C 僅か含有。
3. 褐色土。締まっている。粘性なし。黄褐色土粒多量含有。
4. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。焼土粒多量含有。
5. 褐色土。締まっている。粘性なし。黄褐色土粒多量、As-C 含有。
6. 黄褐色粘質土。総社砂層含有。
7. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。焼土粒・炭化粒僅か含有。

J-4

1. 暗褐色土。硬く締まっている。やや粘性。As-C・Hr-FP 少量、褐色粘質土小ブロック含有。

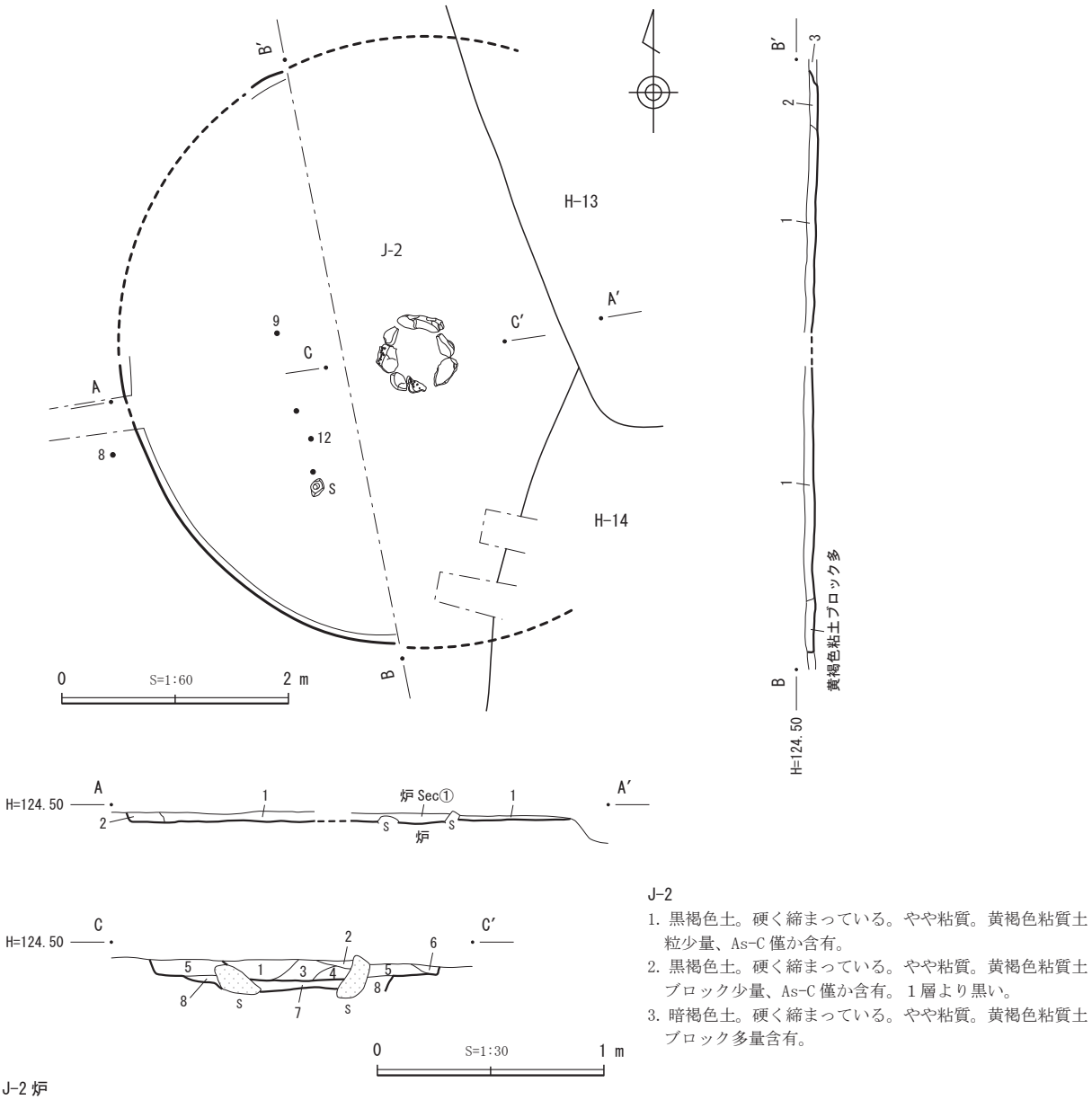
J-1・4 住掘り方

1. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。Hr-FP 若干、焼土粒・炭化粒僅か含有。H-1 掘り方。
2. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。粘土小ブロック含有。H-1 掘り方。
3. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。Hr-FP 多量、As-C 少量含有。
4. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。Hr-FP 若干含有。
5. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層少量含有。

D-4

1. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層・Hr-FP 少量含有。
2. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層多量含有。
3. J-4 住 B4 層と同じ。
4. J-4 住 B5 層と同じ。

第 5 図　J-1・4



J-2

1. 黒褐色土。硬く締まっている。やや粘質。黄褐色粘質土粒少量、As-C 僅か含有。
2. 黒褐色土。硬く締まっている。やや粘質。黄褐色粘質土ブロック少量、As-C 僅か含有。１層より黒い。
3. 暗褐色土。硬く締まっている。やや粘質。黄褐色粘質土ブロック多量含有。

J-2 炉

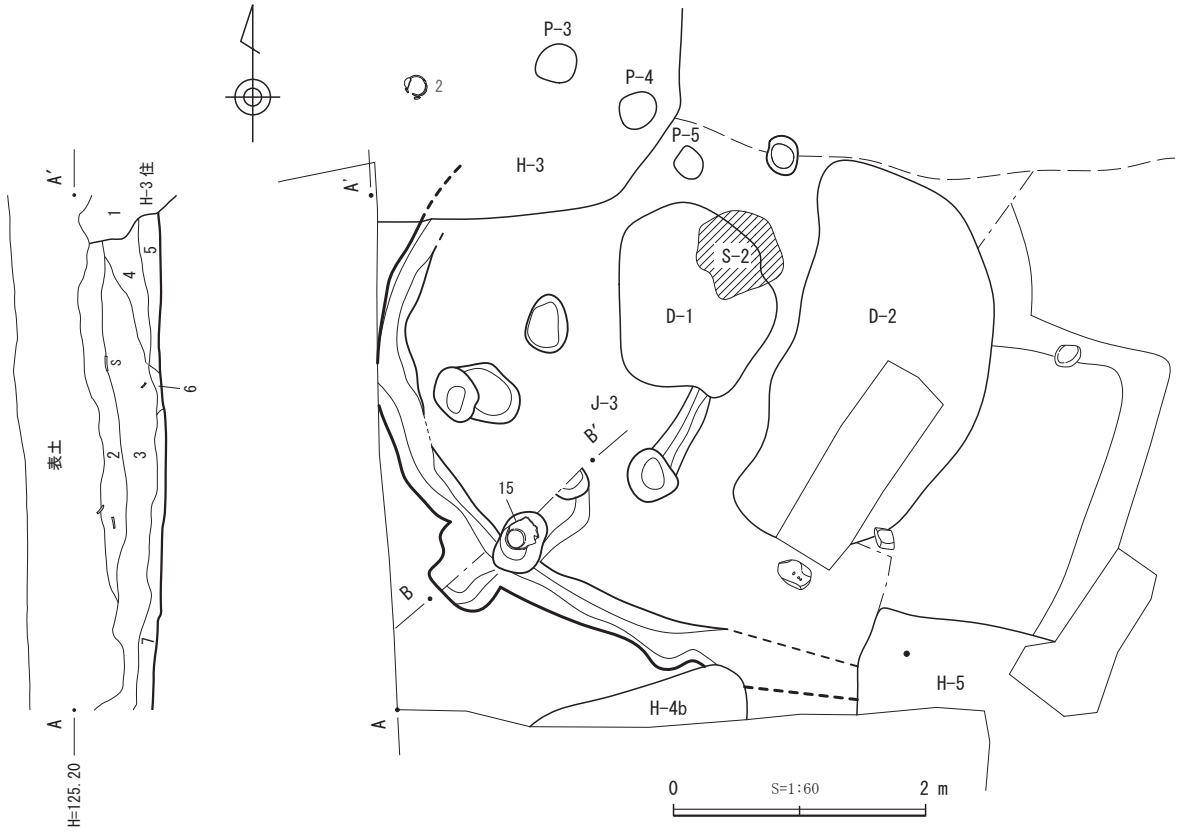
1. 黒褐色土。硬く締まっている。やや粘質。As-C 含有。
2. 黒色土。硬く締まっている。粘質。
3. 黒褐色土。硬く締まっている。粘質。焼土粒・炭化粒僅か含有。
4. 暗褐色土。硬く締まっている。粘質。炭化粒僅か含有。
5. 黒褐色土。硬く締まっている。粘質。As-C 僅か含有。
6. 灰褐色土。硬く締まっている。粘質。粘土。

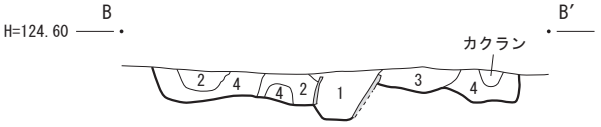
J-2 炉掘り方

7. 黒褐色土。硬く締まっている。やや粘質。焼土粒僅か含有。
8. 黒色土。硬く締まっている。粘質。黄褐色粘質土粒含有。

第 6 図　J-2

主軸方向:N-29°-E。　**炉**:中央部に敷設。径 70 ×深さ(残存)10 ㎝程の円形に礫を配している。　**埋甕**:**南西突出部手前に深鉢を埋設。**　**床面**：不明瞭ではあるが、総社砂層上面を平坦に整えた床と考えられる。　**周溝**：壁下に幅 24 ～ 30 ×深さ 26 ㎝程の溝が巡っている。　**柱穴**：柱穴とは判断し難いが、床面に径 35 ㎝程の浅いピットがいくつか確認された。　**覆土**：総社砂層・焼土粒含有黒褐色土を主体とするが、覆土が薄く埋没状況の判断は難しい。　**遺物**：掲載遺物 2 点。床直上からの出土遺物は少ないが、遺構上層から多量の縄文土器がまとまって出土している（縄文遺物集中（X-1）として写真撮影のみ行った)。　**所見**：残存状態が悪く出土遺物も少ないが、遺構形態・出土遺物から縄文時代中期後半の住居と推定される。





J-3（調査区西壁）

1. 黒色土。締まっている。粘性なし。As-C 多量含有。3 住フク土。
2. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 少量含有。
3. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 若干含有。
4. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層若干含有。
5. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層含有。
6. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層若干、焼土粒僅か含有。
7. 褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層多量含有。

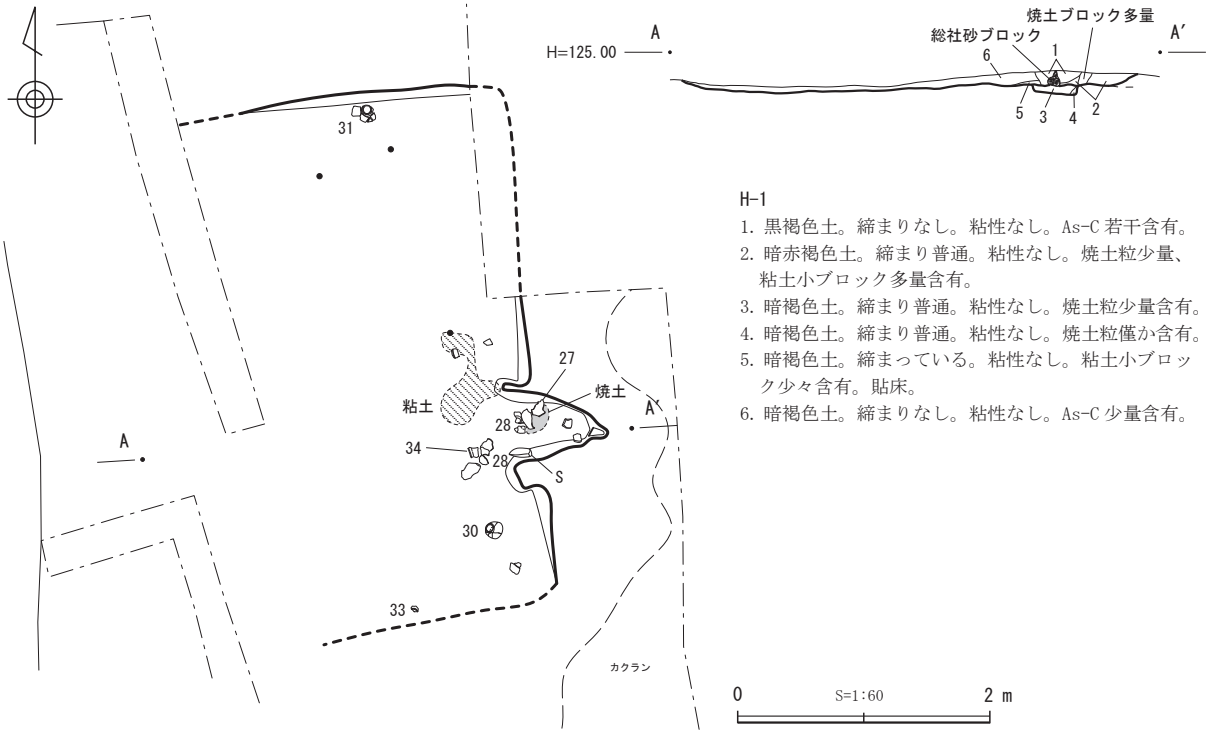
J-3 埋甕

1. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。橙色粒・炭化粒僅か含有。
2. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層含有。
3. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層をブロック状に含有。
4. 褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層拡充。

第 7 図　J-3

J-4　（遺構：第 5 図、図版 9 ／遺物：第 27 図、第 3 表、図版 13）

重複：H-1･11、D-4 に切られる。J-1 との新旧関係は不明瞭であるが、遺物の出状況から J-1 より古いと考えられる。　**形態・確認規模**：不明。　**主軸方向**：N-54°-E。　**炉**：中央部に敷設。長軸 67 ×短軸 53 ×深さ（残存）12 ㎝程の方形に礫を配している。　**床面**：不明瞭ではあるが、総社砂層上面を平坦に整えた床と考えられる。　**覆土**：褐色粘質土小ブロック含有暗褐色土を主体とするが、覆土が薄く埋没状況の判断は難しい。　**遺物**：掲載遺物 10 点。炉付近から少量出土している。　**所見**：残存状態が悪く出土遺物も少ないが、遺構形態・出土遺物から縄文時代中期後半の住居と推定される。



H-1
1. 黒褐色土。締まりなし。粘性なし。As-C 若干含有。
2. 暗赤褐色土。締まり普通。粘性なし。焼土粒少量、粘土小ブロック多量含有。
3. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。焼土粒少量含有。
4. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。焼土粒僅か含有。
5. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。粘土小ブロック少々含有。貼床。
6. 暗褐色土。締まりなし。粘性なし。As-C 少量含有。

第 8 図　H-1 断面図

H-1　（遺構：第 8 図、図版 1 ／遺物：第 28 図、第 3 表、図版 13）

重複：J-4、D-4 を切る。　**形態・確認規模**：西側は撹乱によって削平されているが、方形と推定される。南北 4.2 m、東西（残存）2.1 m、深さ 10 ㎝程を測る。　**主軸方向**：N-84° -E。　**カマド**：東壁南寄りに敷設。長さ 85 ×幅 64 ×深さ 10 ㎝程を測る。左袖手前に崩壊したと思われる粘土が検出された。

床面：不明瞭ではあるが、総社砂層上面を平坦に整えた床と考えられる。　**覆土**：焼土・As-C 含有暗褐色土を主体とする自然堆積と考えられるが、覆土の堆積が薄く不確定である。　**遺物**：掲載遺物 10 点。炉付近から少量出土している。　**所見**：残存状態が悪く出土遺物も少ないが、遺構形態・出土遺物から 10 世紀前半の住居と推定される。

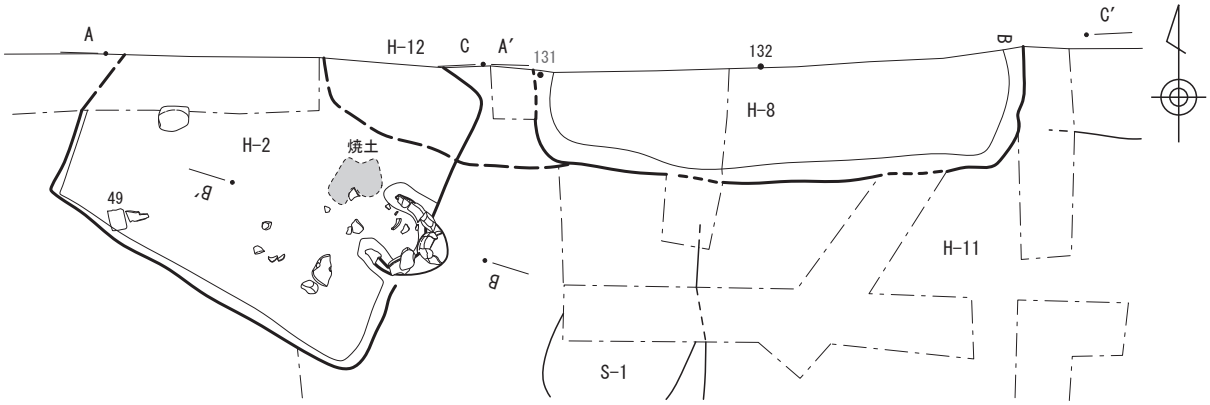
H-2　（遺構：第 9･10 図、図版 1 ／遺物：第 29 ～ 31 図、第 3 表、図版 14･15）

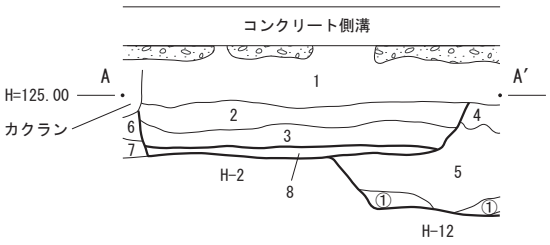
重複：H-12 を切る。　**形態・確認規模**：北西部は調査区外へ拡がっているが、方形と推定される。南北 2.5 m、東西 2.8 m、深さ 44 ㎝程を測る。　**主軸方向**：N-120° -E。　**カマド**：東壁中央やや南寄りに敷設。壁には礫を積み、煙出しには土師器甕を逆さに据付け構築している。長さ 62 ×幅 55 ×深さ 45 ㎝程を測る。左袖手前に焼土が検出された。　**床面**：灰褐色粘土ブロック多量含有暗灰褐色土を貼床として平坦に整えている。　**覆土**：As-C 含有黒色土を主体とする自然堆積と考えられる。

H-2
1. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。Hr-FP・As-C 多量含有。
2. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 多量、焼土粒僅か含有。
3. 黒色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 少量、褐色粘質土ブロック若干含有。
4. 灰黄褐色土。硬く締まっている。粘性なし。総社砂層ブロック多量混在。
5. 黒色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 多量含有。
6. 暗褐色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 多量含有。
7. 暗茶褐色土。硬く締まっている。やや粘質。As-C 若干、褐色粘質土混在。
8. 暗灰褐色土。硬く締まっている。やや粘質。灰褐色粘土ブロック多量含有。

H-12（調査区北壁）
①. 暗褐色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 少量、黄褐色土粒若干含有。
②. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。黄褐色土ブロック含有。

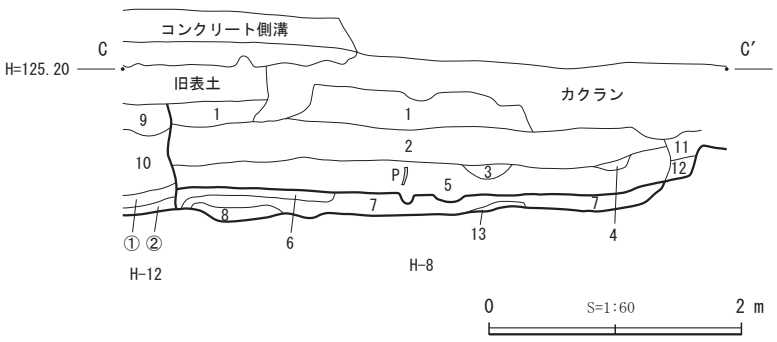
H-2･12　土層説明



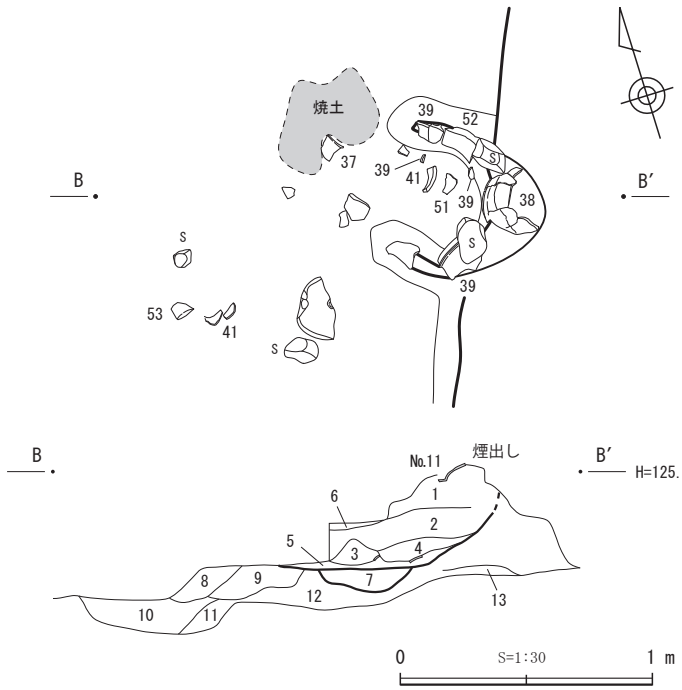


H-8（調査区北壁）

1. 暗褐色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 多量含有。
2. 暗褐色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 含有。
3. 暗褐色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C・褐色粘質土ブロック含有。
4. 暗褐色土。硬く締まっている。粘性なし。褐色粘質土小ブロック多量、As-C 少量含有。
5. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 多量、黄褐色土ブロック若干含有。
6. 明褐色土。硬く締まっている。粘性なし。黄褐色粘質土ブロック多量、As-C 若干含有。貼床。



7. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 含有。掘り方。
8. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。黄褐色粘土小ブロック・炭化土若干含有。
9. H-2 北壁 sec4 層と同じ。
10. 2 住北壁 sec5 層と同じ。
11. 暗褐色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 少量含有。
12. 褐色土。硬く締まっている。粘性なし。
13. 黒色土。硬く締まっている。粘性なし。掘り方。



H-2 カマド

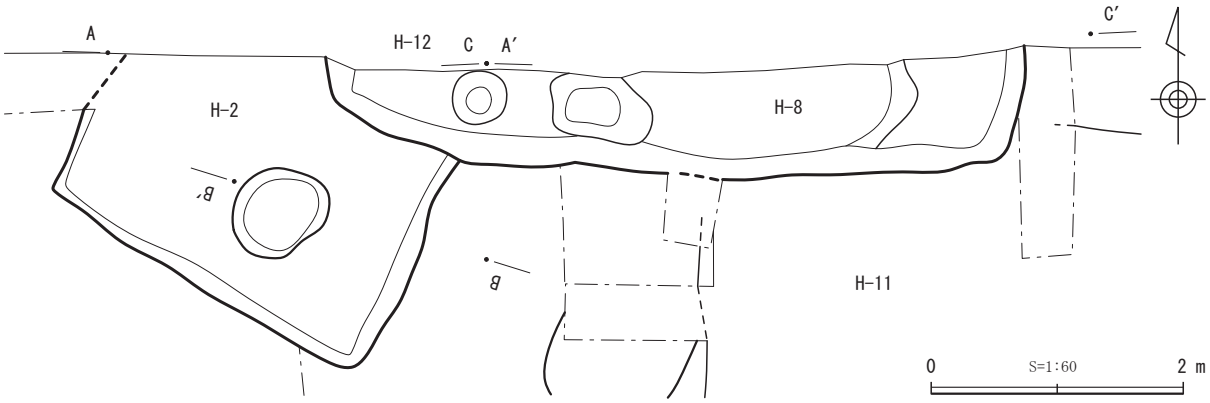
1. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 含有。
2. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 若干含有。
3. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。焼土粒少量含有。
4. 暗褐色土。締まっている。粘性ややあり。焼土粒若干含有。
5. 黒褐色土。締まり普通。粘性なし。焼土粒多量含有。

H-2 カマド掘り方

6. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。焼土粒僅か含有。
7. 黒色土。締まっている。粘性なし。焼土粒・炭化粒僅か含有。
8. 黒色土。締まっている。粘性なし。黄灰色土僅か含有。
9. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。暗茶褐色土粒少量含有。
10. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。炭化粒僅か含有。
11. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。暗茶褐色土粒含有。
12. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。暗茶褐色土粒多量含有。
13. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 僅か含有。

※ 8 以下は J-4 覆土？

第 9 図　H-2･8･12、H-2 カマド



第 10 図　H-2･8･12 掘り方

掘り方：地山の褐色粘質土を掘り込んでおり、全体的に平坦で床面から 6 ㎝程下る。　**遺物**：掲載遺物 26 点。炉付近からまとまって出土している。　**所見**：遺構形態・出土遺物から 11 世紀代の住居と推定される。

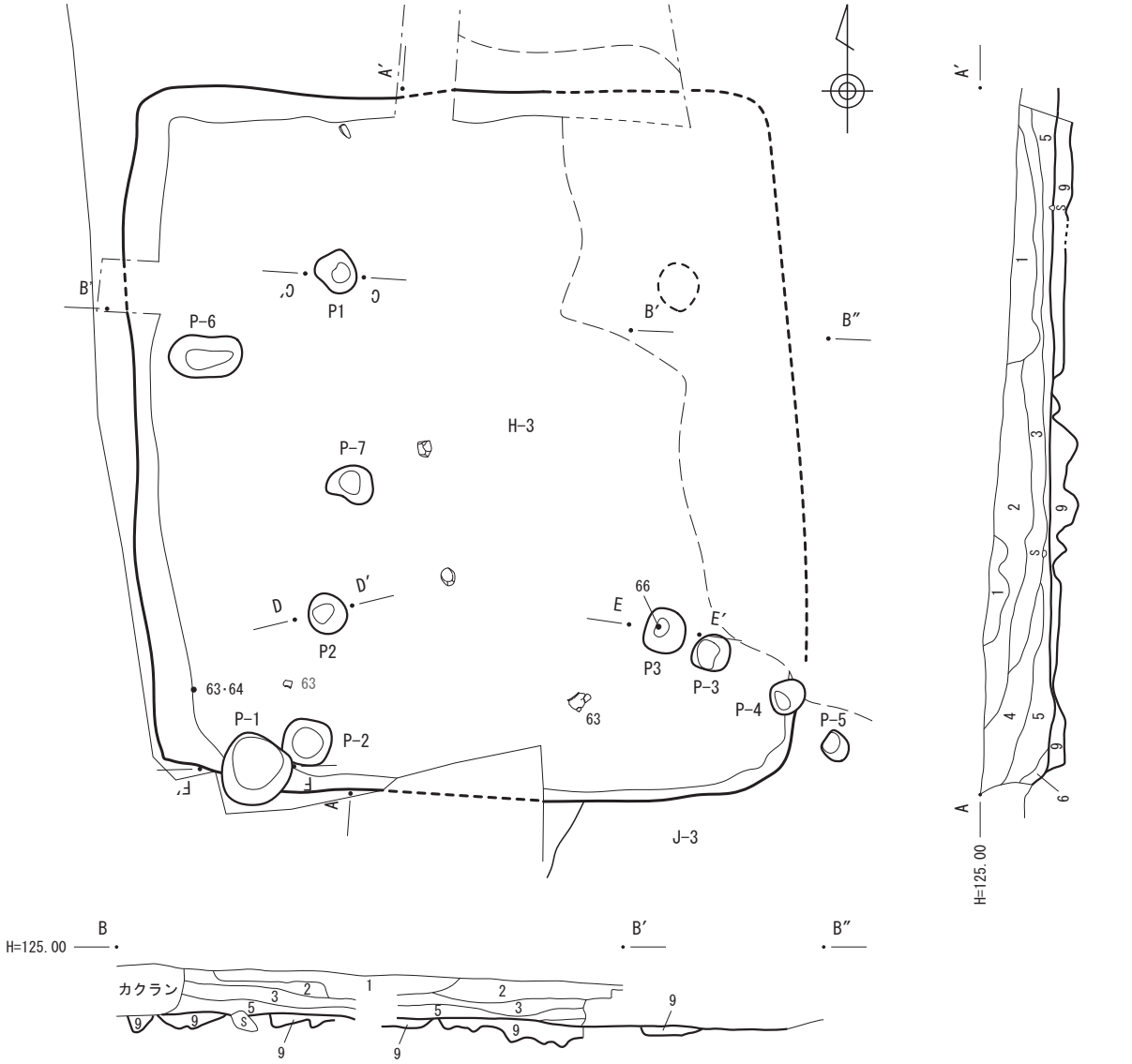
H-3　（遺構：第 11･12 図、図版 2･3 ／遺物：第 31 図、第 3 表、図版 15）

重複：J-3 を切る。　**形態・確認規模**：北東部は撹乱によって大きく削平されているが、方形と推定される。南北 6.0 ｍ、東西 5.7 ｍ、深さ 63 ㎝程を測る。　**主軸方向**：N-3° -E。　**柱穴**：P1（北西）・P2（南西）・P3（南東）が検出された。P1 は径 36 ×深さ 38 ㎝、P2 は径 33 ×深さ 57 ㎝、P3 は径 37 ×深さ 57 ㎝程を測る。　**床面**：総社砂層を掘り込み平坦に整えている。　**覆土**：焼土・As-C 含有暗褐色土を主体とする自然堆積と考えられる。　**掘り方**：全体的にマウンド状を呈し、壁際が床面から 10 ㎝程下がっている。　**遺物**：掲載遺物 6 点。少量の土器が覆土中から出土している。　**所見**：遺構形態・出土遺物から 4 世紀代の住居と推定される。

H-4　（遺構：第 13 ～ 15 図、図版 2･3 ／遺物：第 31･32 図、第 3 表、図版 15･16）

重複：H-5 に切られている。H-10 との新旧関係は不明。　**形態･確認規模**：北側･南側は調査区外へ拡がっているが、方形と推定される。南北（残存）3.2 ｍ、東西 3.9 ｍ、深さ 33 ㎝程を測る。　**主軸方向**：N-78° -E。　**カマド**：東壁に敷設。燃焼部中央に支脚（礫）が据付けられ、粘土が南側へ崩落した状態で検出された。長さ 97 ×幅 77 ×深さ 22 ㎝程を測る。　**貯蔵穴**：カマド右脇に敷設。平面円形、断面逆台形を成し、径 70 ×深さ 25 ㎝程を測る。　**周溝**：北･西壁下に幅 15 ×深さ 10 ㎝程の溝が巡っている。　**床面**：総社砂層を掘り込み平坦に整えている。　**覆土**：明褐色粘質土ブロック含有暗褐色土を主体とする自然堆積と考えられるが、撹乱が激しく不明瞭である。　**掘り方**：全体的に床面から 5 ㎝程下がり、カマド焚口部が径 78 ×深さ 23 ㎝程の円形に掘り込まれ、その両端部に径 30 ㎝程の構築材抜取り痕と考えられる穴が検出された。また､カマド手前にも径 51 ㎝程の円形の穴が認められた。

遺物：掲載遺物 11 点。カマド、貯蔵穴内とその付近にまとまって出土している。　**所見**：遺構形態・出土遺物から 6 世紀後半の住居と推定される。



H-3 A・B

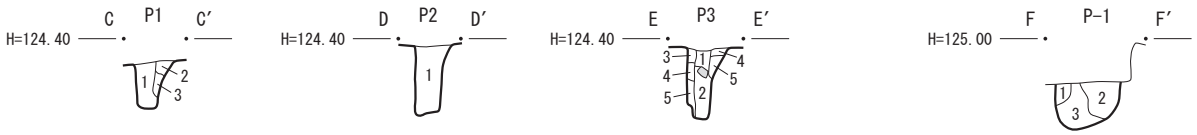
1. 黒色土。締まりなし。粘性なし。As-C 多量含有。
2. 暗褐色土。締まりなし。粘性なし。As-C 含有。
3. 暗褐色土。締まりなし。粘性なし。As-C 少量、総社砂層若干含有。
4. 暗褐色土。締まりなし。粘性なし。As-C 少量、総社砂層僅か含有。
5. 黒褐色土。締まり普通。粘性なし。As-C 少量含有。
6. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。総社砂層若干混在。

H-3 掘り方 A・B

9. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 僅か、総社砂層少量含有。

H-3 P1

1. 褐色土。硬く締まっている。粘性なし。総社砂層多量含有。
2. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。総社砂層若干含有。
3. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層含有。



H-3 P2

1. 暗褐色土。締まりなし。粘性なし。As-C 僅か、総社砂層含有。

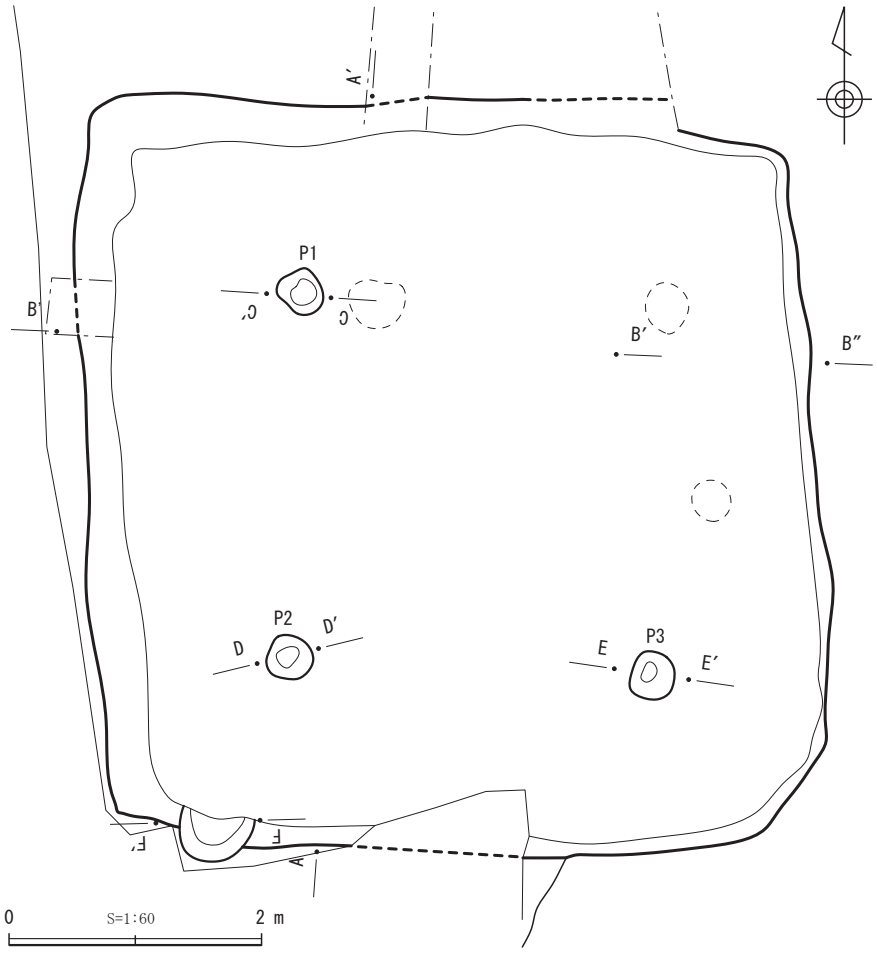
H-3 P3

1. 黒色土。柔らかい。粘性なし。総社砂層若干含有。
2. 黒色土。柔らかい。粘性なし。総社砂層僅か含有。
3. 黒褐色土。柔らかい。粘性なし。
4. 褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層拡充。
5. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層多量含有。

P-1

1. 褐色土。締まりなし。粘性なし。総社砂層ブロック多量含有。
2. 黒褐色土。締まりなし。粘性なし。As-C・総社砂層ブロック少量含有。
3. 暗褐色土。締まりなし。粘性なし。総社砂層ブロック少量含有。

第 11 図　H-3



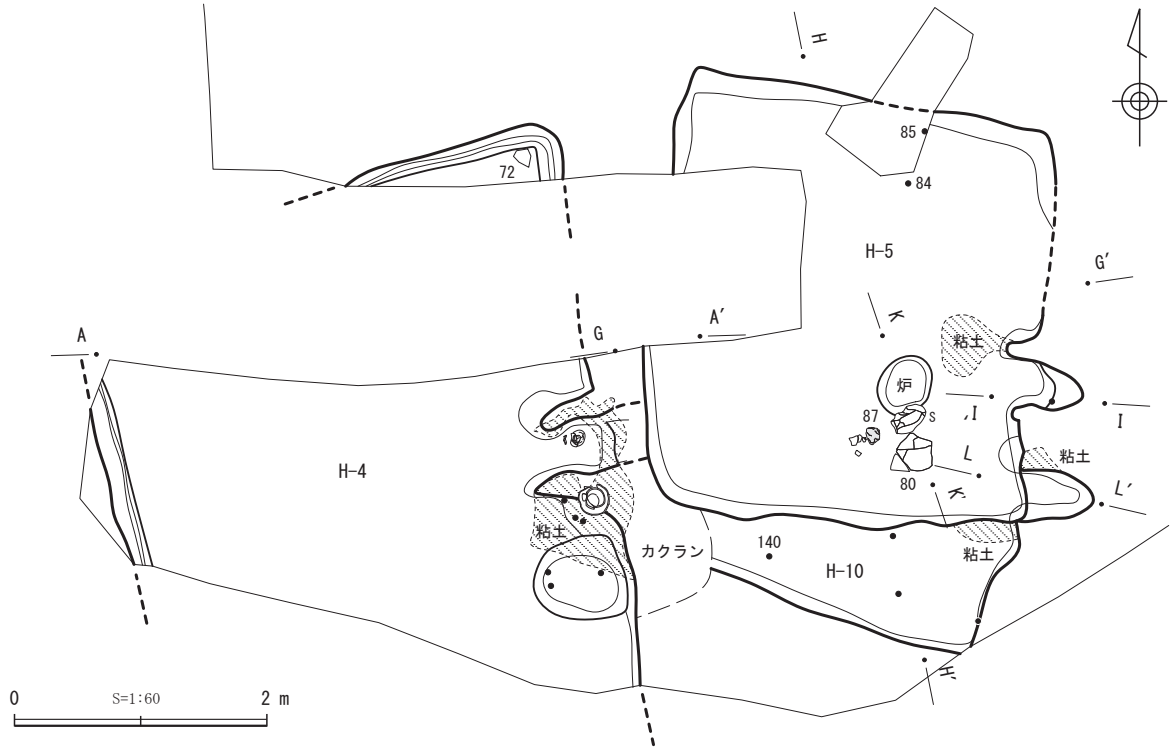
第 12 図　H-3 掘り方

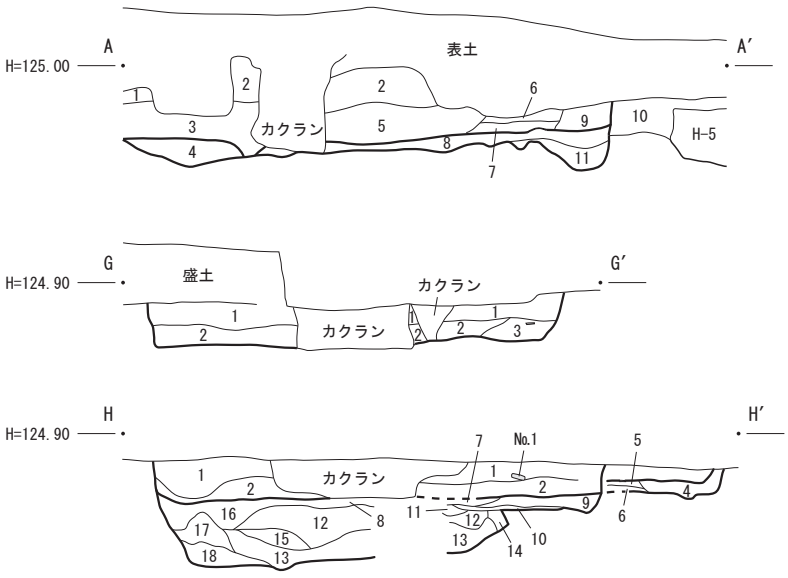
H-5　（遺構：第 13･15 図、図版 3 ／遺物：第 32･33 図、第 3 表、図版 16）

重複：J-3、H-4･10 を切っている。　**形態・確認規模**：方形を成し、南北 3.3 m、東西 3.0 m、深さ 36 ㎝程を測る。　**主軸方向**：N-96° -E。　**カマド**：東壁南寄りに敷設。長さ 68 ×幅 60 ×深さ 31 ㎝程を測る。左袖手前に崩壊したと思われる粘土が検出された。　**炉**：カマド手前に径 45 ×深さ 9 ㎝程を測る円形の窪みが確認された。南側に被熱石が据えられ、脇から鉄滓が出土している。　**床面**：総社砂層を掘り込み平坦に整えている。　**覆土**：As-C 含有黒褐色土を主体とする自然堆積と考えられるが、撹乱が激しく不明瞭である。　**掘り方**：全体的に床面から 25 ㎝程下がり、中央部が長軸 3.9 ×短軸 1.9 × 0.4 m程の不正楕円形に大きく掘り込まれている。　**遺物**：掲載遺物 8 点。炉付近にまとまって出土している。　**所見**：遺構形態・出土遺物から 9 世紀前半の小鍛冶工房と推定される。

H-6　（遺構：第 16 図、図版 4 ／遺物：第 33 ～ 36 図、第 3 表、図版 16 ～ 18）

重複：H-16･17 を切っている。　**形態・確認規模**：北東部は撹乱によって大きく削平されているが、方形と推定される。南北 3.1 m、東西 3.0 m、深さ 20 ㎝程を測る。　**主軸方向**：N-60° -E。　**カマド**：東壁南寄りに敷設されるが、撹乱により灰層を残すのみである。灰層は南北 51 ×東西 46 ×厚さ 15 ㎝程を測る。　**床面**：総社砂層を掘り込み平坦に整えている。　**覆土**：褐色粒含有黒褐色土を主体とする自然堆積と考えられるが、単一層のため不確定である。　**掘り方**:H-16 の上に構築されており、





H-4 A

1. 褐色土。締まりなし。粘性なし。褐色粘質土ブロック多量、焼土粒少量含有。
2. 暗褐色土。締まりなし。粘性なし。As-C 僅か含有。
3. 黒褐色土。締まり普通。粘性なし。As-C 含有。
4. 明褐色土。締まり普通。粘性なし。総社砂層拡充。
5. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。明褐色粘質土ブロック含有、As-C 若干含有。
6. 黒褐色土。締まり普通。粘性なし。As-C 若干含有。
7. 明褐色土。締まっている。粘性なし。明褐色粘質土ブロック多量、As-C 少量含有。
8. 黒色土。締まり普通。粘性なし。総社砂層・As-C 若干含有。
9. 黒褐色土。締まり普通。粘性なし。As-C 含有。
10. 暗褐色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 含有。地山。
11. 褐色土。締まっている。粘性なし。明褐色粘土小ブロック多量含有。

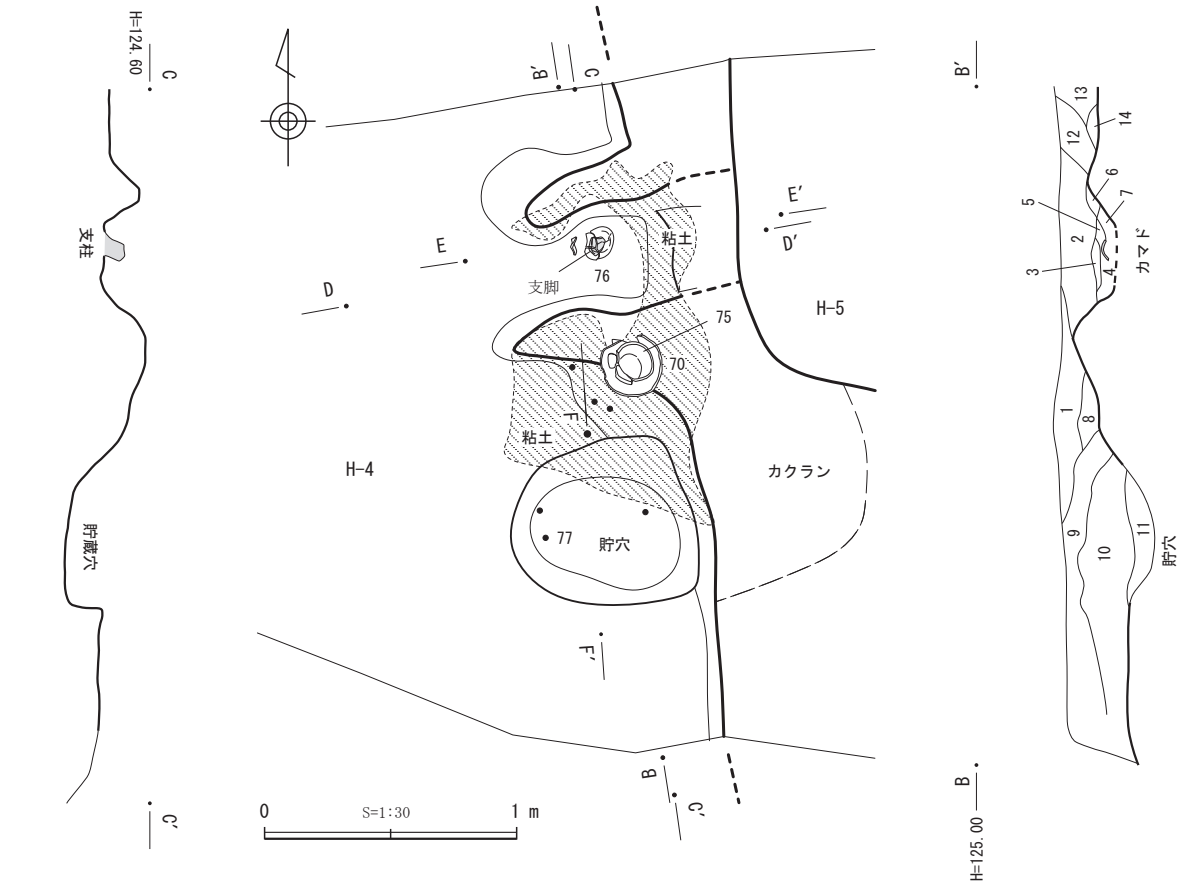
H-5 G-G′ H-H′

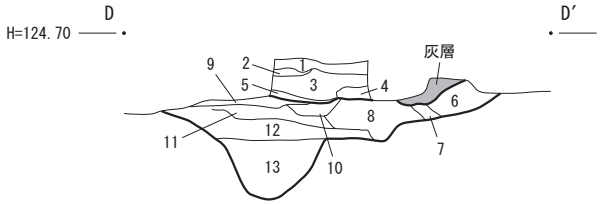
1. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。As-C 少量含有。
2. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 多量含有。
3. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。焼土粒少量含有。

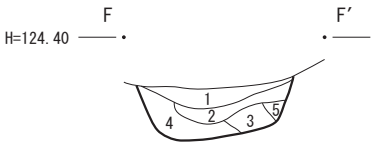
5 住掘り方 H-H′

4. 灰褐色土。硬く締まっている。粘質。褐色粘質土小ブロック若干含有。
5. 灰褐色土。硬く締まっている。粘質。
6. 暗褐色土。硬く締まっている。粘質。総社砂層ブロック多量、Hr-FP 若干含有。
7. カマド掘り方 2 層と同じ。
8. 灰褐色土。硬く締まっている。粘性なし。Hr-FP 僅か含有。
9. 暗褐色土。硬く締まっている。やや粘質。褐色粘質土若干含有。
10. 暗褐色土。非常に硬く締まっている。やや粘質。Hr-FP 多量含有。
11. 6 住カマド掘り方 sec6 層と同じ。
12. 6 住カマド掘り方 sec7 層と同じ。
13. 6 住カマド掘り方 sec8 層と同じ。
14. 黒色土。非常に硬く締まっている。粘質。
15. Hr-FP 拡充。2 次堆積。
16. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。Hr-FP 僅か含有。
17. 黒褐色土。締まり普通。粘性なし。総社砂層僅か含有。
18. 褐色土。締まり普通。粘性なし。総社砂層多量含有。

第 13 図　H-4･5･10







H-4 B

1. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。明褐色粘質土ブロック少量、As-C 含有。
2. 褐色土。締まっている。粘性なし。明褐色粘質土ブロック多量含有。
3. 暗褐色土。締まりなし。粘性なし。明褐色粘質土ブロック、炭化土含有。
4. 暗赤褐色土。締まりなし。粘性なし。焼土粒多量含有。
5. 明褐色土。締まりなし。粘性なし。明褐色粘質土ブロック拡充、焼土粒僅か含有。
6. 明黄褐色土（粘質土）。締まっている。被熱。
7. 黒褐色土。締まりなし。粘性なし。明褐色粘質土若干含有。
8. 灰褐色土。硬く締まっている。粘性あり。As-C 若干含有。
9. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。明褐色粘質土ブロック多量、As-C 含有。
10. 黒褐色土。締まりなし。粘性なし。As-C 多量含有。
11. 黒褐色土。締まりなし。粘性なし。As-C 僅か含有。
12. 灰黄褐色土。締まっている。やや粘質。明褐色粘質土ブロック多量含有。
13. 暗褐色土。締まりなし。粘性なし。明褐色粘質土粒若干含有。
14. Asec 掘り方４層と同じ。

H-4 カマド

1. ４住 Bsec2 層と同じ。
2. 黒色土。締まっている。粘性なし。灰混在。As-C 僅か含有。
3. ４住 Bsec3 層と同じ。
4. ４住 Bsec4 層と同じ。
5. 暗褐色土。締まりなし。やや粘質。明褐色粘質土拡充。焼土粒若干含有。

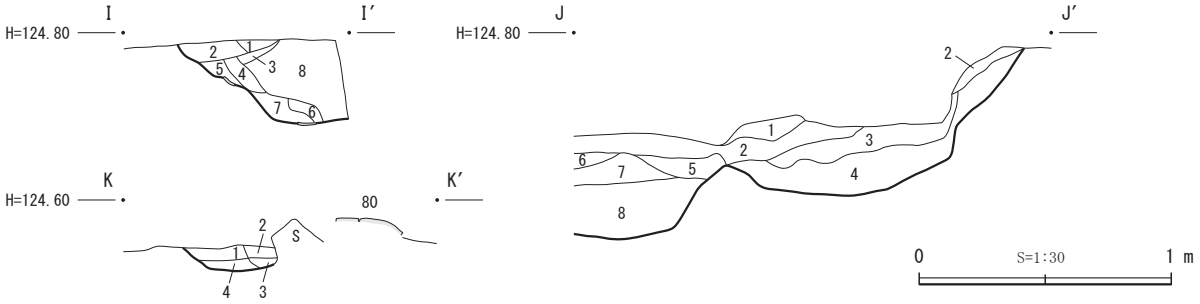
H-4 貯蔵穴

1. 黒褐色土。締まりなし。粘性なし。Hr-FP 含有。
2. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。明褐色粘土小ブロック・Hr-FP 少量含有。
3. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。総社砂層多量含有。
4. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。総社砂層少量含有。
5. 黒色土。締まり普通。粘性なし。総社砂層若干含有。

H-4 カマド掘り方

6. 暗褐色土。締まっている。やや粘質。明褐色粘土ブロック多量含有。
7. 根穴。
8. 褐色土。締まっている。やや粘質。明褐色粘土拡充。焼土粒僅か含有。
9. 暗褐色土。締まっている。やや粘質。明褐色粘土少量、焼土粒若干含有。
10. 暗赤褐色土。締まっている。やや粘質。焼土多量含有。
11. 黒褐色土。締まっている。やや粘質。明褐色粘土・焼土粒僅か含有。
12. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層含有。
13. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層・焼土粒僅か含有。

第 14 図　H-4 カマド



H-5 カマド

1. 黒褐色土。締まりなし。粘性なし。As-C 若干含有。
2. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。焼土粒僅か含有。
3. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。焼土粒若干含有。
4. 褐色土。締まり普通。やや粘質。焼土多量、焼土粒僅か含有。
5. 暗赤褐色土。締まり普通。粘性なし。粘土小ブロック・粒含有。
6. 明褐色土。締まり普通。やや粘質。
7. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。焼土粒若干含有。
8. 黒褐色土。締まり普通。粘性なし。As-C 含有。

H-5 炉

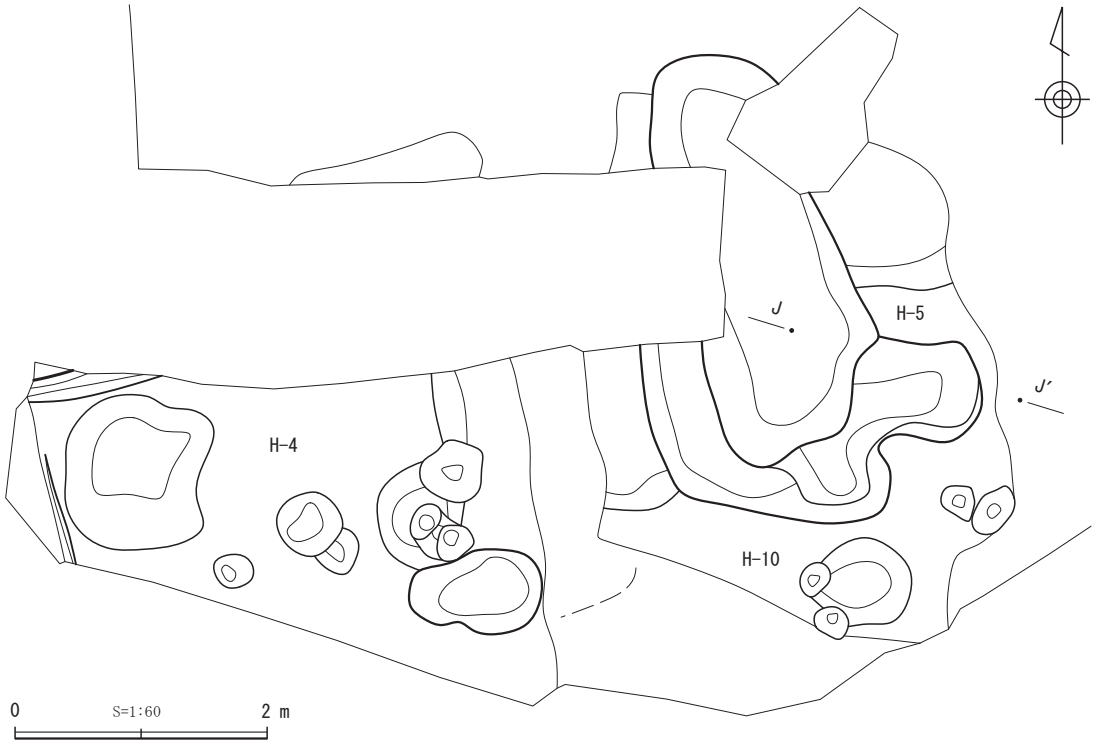
1. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。焼土粒多量含有。
2. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 少量含有。
3. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。焼土粒若干、褐色粘質土含有。

H-5 カマド掘り方

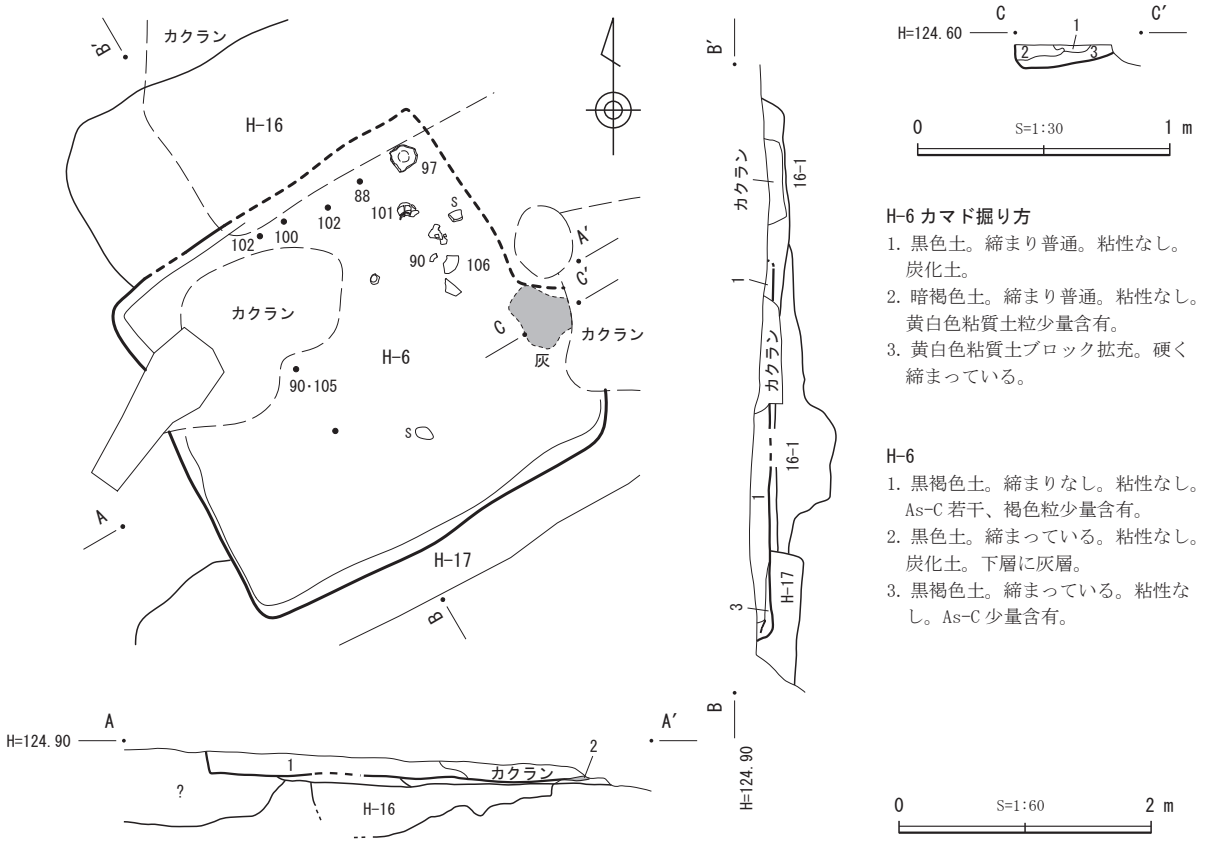
1. 暗褐色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 僅か含有。
2. 暗赤褐色土。硬く締まっている。粘性なし。焼土ブロック多量含有。粘土混在。
3. 褐色土。硬く締まっている。やや粘質。灰黄色粘土拡充。焼土粒若干含有。
4. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。総社砂層ブロック若干含有。
5. 褐色土。硬く締まっている。粘性なし。総社砂層拡充。
6. 暗褐色土。硬く締まっている。やや粘質。Hr-FP・褐色粘土含有。
7. 黒色土。硬く締まっている。やや粘質。Hr-FP 少量含有。
8. 黒褐色土。硬く締まっている。やや粘質。総社砂層若干含有。

H-10 カマド

1. 黒褐色土。締まり普通。粘性なし。黄褐色粘質土粒若干含有。
2. 黒褐色土。締まり普通。粘性なし。焼土粒含有。
3. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。褐色粘質土粒少量含有。
4. 黒色土。締まり普通。粘性なし。炭化土。



第 15 図　H-5 カマド・炉、H-10 カマド、H-4･5･10 掘り方



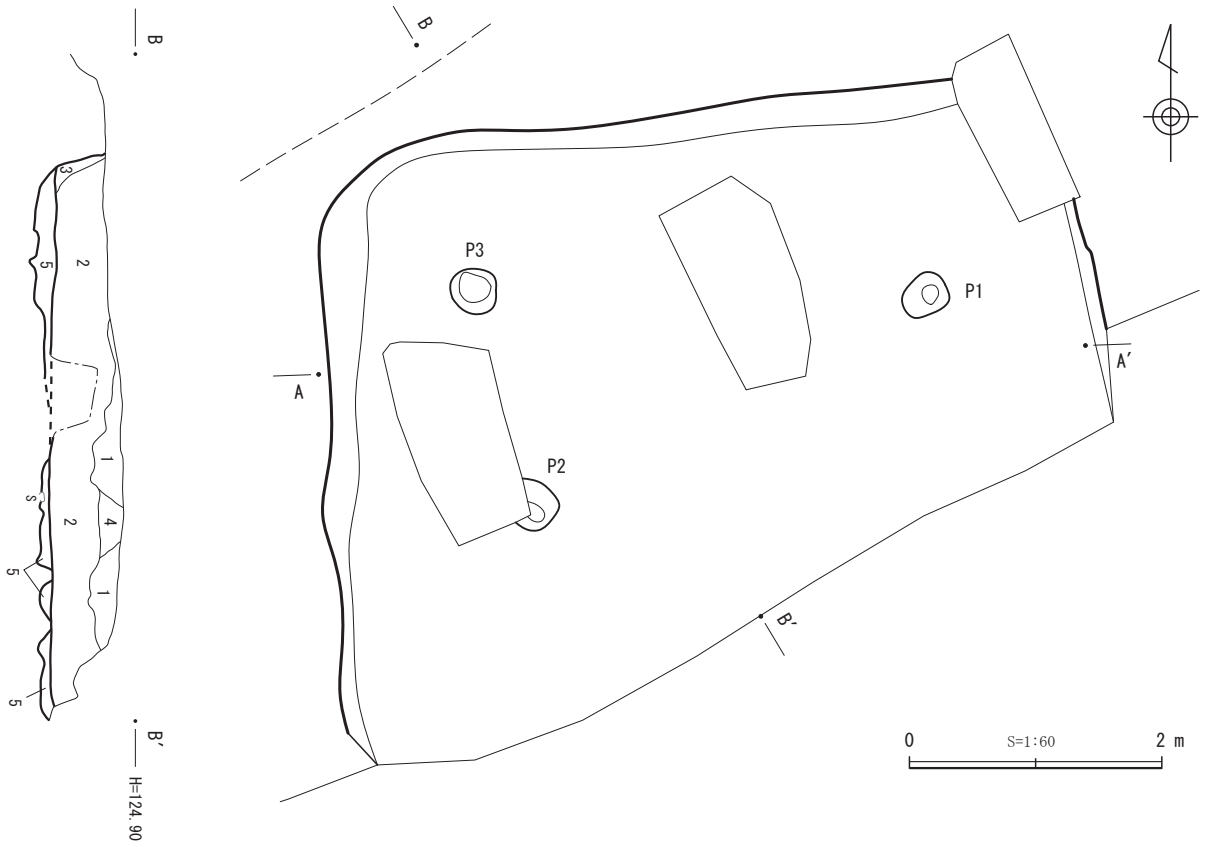
H-6 カマド掘り方

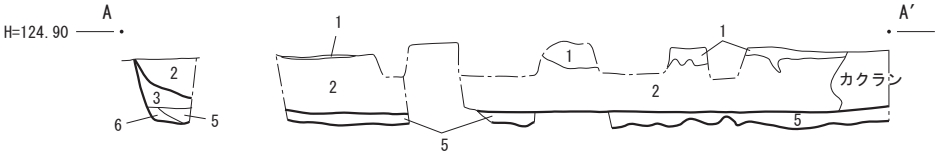
1. 黒色土。締まり普通。粘性なし。炭化土。
2. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。黄白色粘質土粒少量含有。
3. 黄白色粘質土ブロック拡充。硬く締まっている。

H-6

1. 黒褐色土。締まりなし。粘性なし。As-C 若干、褐色粒少量含有。
2. 黒色土。締まっている。粘性なし。炭化土。下層に灰層。
3. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 少量含有。

第 16 図　H-6、H-6·16·17 掘り方



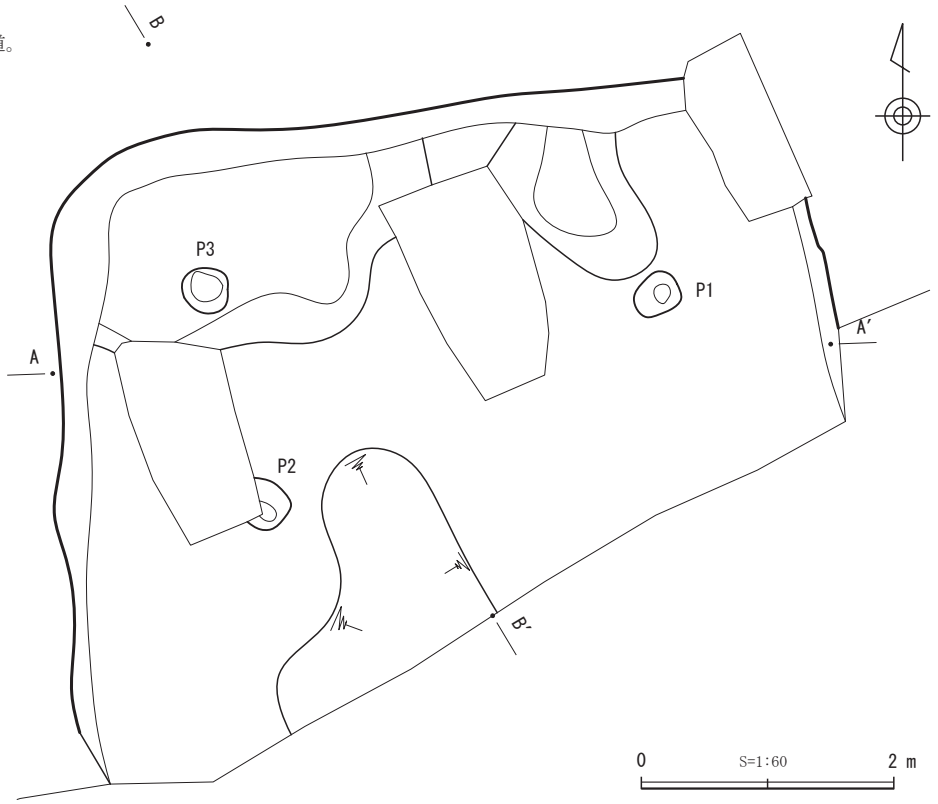


H-7

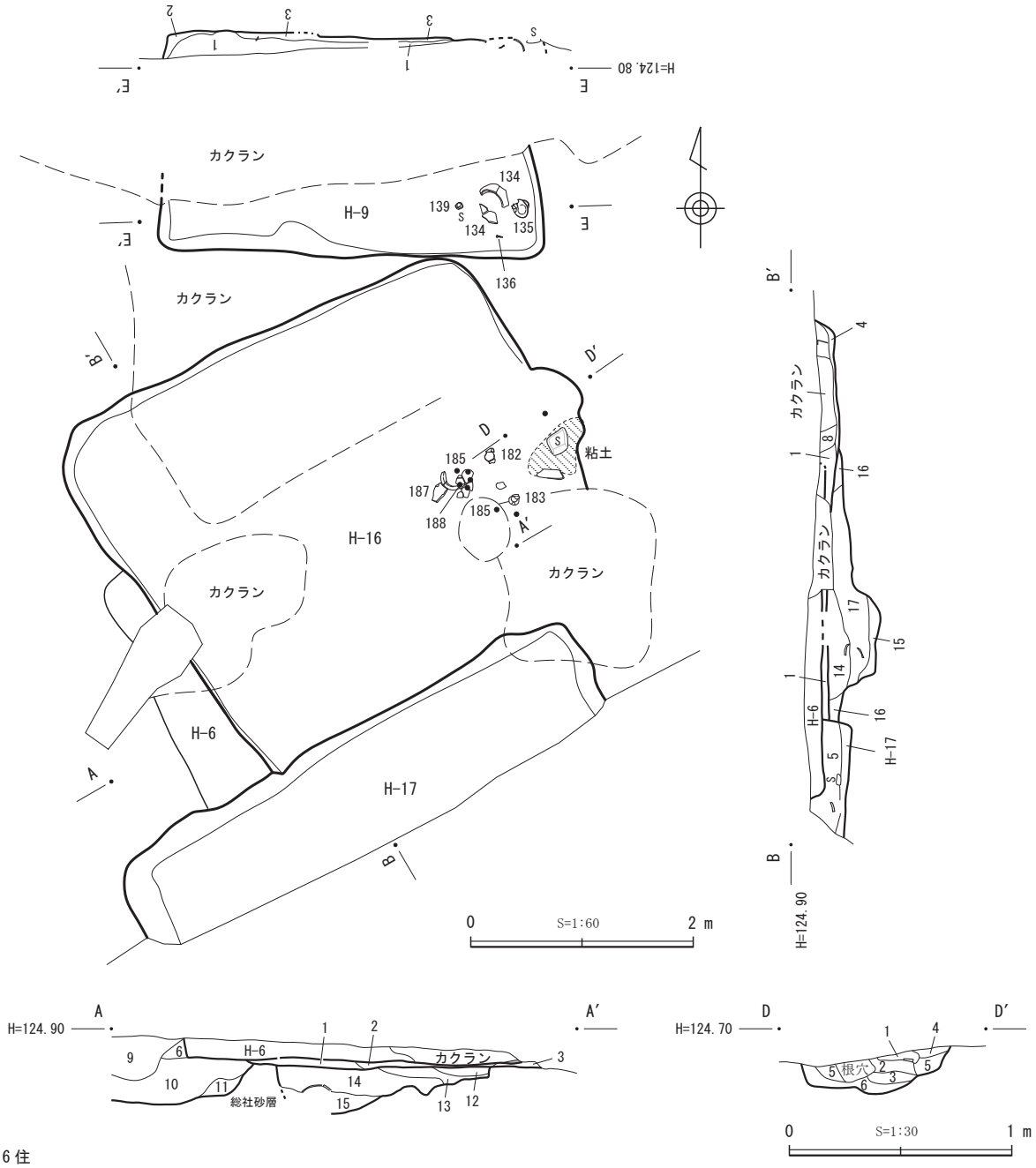
1. 明褐色土。硬く締まっている。粘質。粘質土ブロック拡充。道。
2. 暗褐色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 多量含有。
3. 黒褐色土。締まり普通。粘性なし。As-C 含有。
4. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。As-C 若干含有。道。

H-7 掘り方

5. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層少量、As-c 僅か含有。
6 黒褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層少量、炭化僅か含有。



第 17 図　H-7、H-7 掘り方



16 住

1. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。橙色粒若干、As-C 僅か含有。
2. 黒褐色土。締まっている。やや粘質。灰褐色粘質土小ブロック含有。
3. 黒灰色土。締まり普通。粘性なし。灰・炭化粒混在。
4. 褐色土。締まっている。やや粘質。明褐色粘質土混在。
5. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 含有。H-17。
6. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 少量含有。粘性なし。As-C 僅か含有。地山。
7. 黒色土。締まっている。粘性なし。炭化土。下層に灰層。
8. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 少量含有。

H-16 掘り方

1. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。褐色土混在。
2. 黒色土。硬く締まっている。粘性なし。Hr-FP・As-C 若干含有。
3. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。総社砂層含有。
4. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。白黄色粘土小ブロック少量、焼土粒若干含有。
5. 白黄色粘土。
6. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。総社砂層ブロック少量含有。
7. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性なし。総社砂層ブロック若干含有。
8. 暗褐色土。硬く締まっている。粘性なし。As-C 僅か含有。
9. 暗黄褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層拡充。

H-16 カマド

1. 灰層。締まり普通。
2. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。焼土粒多量、灰若干含有。
3. 灰褐色土。締まり普通。粘性なし。炭化粒僅か、褐色粒含有。
4. 黒褐色土。締まり普通。粘性なし。炭化粒少量、焼土粒僅か含有。
5. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。焼土粒・炭化粒僅か含有。
6. 褐色土。締まり普通。粘性なし。総社砂層多量含有。

H-9

1. 暗褐色土。締まり普通。粘性なし。As-C 多量含有。
2. 黒褐色土。締まり普通。粘性なし。As-C 少量、褐色粒若干含有。
3. 黒褐色土。締まり普通。粘性なし。As-C・褐色小ブロック少量含有。

第 18 図　H-9･16･17

断面観察から掘り方はないと判断される。　**遺物**：掲載遺物 27 点。北東部床面にまとまって出土している。特に 5 は特殊な器形を持った土器であるが、上部が撹乱により削平されており、共伴遺物として扱えるかは微妙である。　**所見**：遺構形態・出土遺物から 10 世紀後半の住居と推定される。

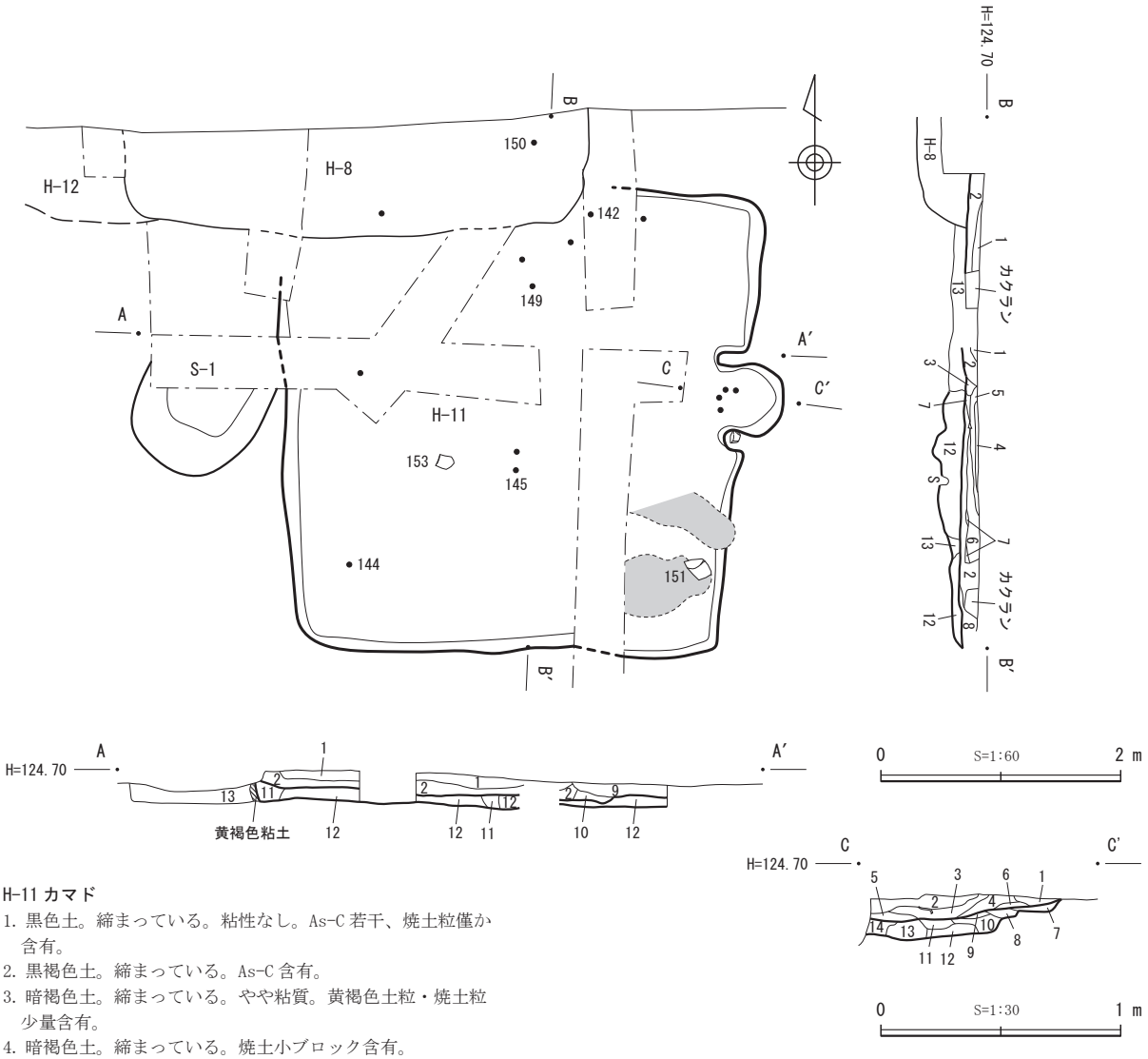
H-7　（遺構：第 17 図、図版 4 ／遺物：第 36･37 図、第 3 表、図版 18）
重複：道に切られている。　**形態・確認規模**：南側は調査区外へ拡がっているが、方形と推定される。南北（残存）4.9 m、東西 6.3 m、深さ 43 ㎝程を測る。　**主軸方向**：N-7° -W。　**柱穴**：P1 ～ P3 が検出された。P1 は径 36 ㎝、P2 は径 40 ㎝、P3 は径 39 ㎝程で、いずれも深さ 50 ㎝以上を測る。　**床面**：総社砂層を掘り込み平坦に整えている。　**覆土**：As-C 多量含有黒褐色土を主体とする自然堆積と考えられるが、単一層のため不確定である。　**掘り方**：全体的に床面から 17 ㎝程下がる。部分的に起伏が認められるが、明瞭な掘り込みはない。　**遺物**:掲載遺物 14 点。覆土中から数点出土している。
所見：遺構形態・出土遺物から 5 世紀代の住居と推定される。

H-8　（遺構：第 9･10 図、図版 4 ／遺物：第 37 図、第 3 表、図版 19）
重複：H-11 に切られ、H-12 を切っている。　**形態・確認規模**：北側は調査区外へ拡がっているが、方形と推定される。南北（残存）1.1 m、東西 3.8 m、深さ 67 ㎝程を測る。　**主軸方向**:不明。　**床面**:黒褐色土を貼床として平坦に整えている。　**覆土**：As-C 含有暗色土を主体とする自然堆積と考えられるが、水平堆積に近く不確定である。　**掘り方**：地山の褐色粘質土を掘り込んでおり、全体的に平坦で床面から 17 ㎝程下る。　**遺物**：掲載遺物 4 点。覆土中から少量出土している。　**所見**：遺構形態・出土遺物から 4 世紀代の住居と推定される。

H-9　（遺構：第 18 図、図版 4 ／遺物：第 37･38 図、第 3 表、図版 19）
重複：H-16･17 を切っている。　**形態・確認規模**：北部は撹乱によって大きく削平されているが、方形と推定される。南北（残存）1.0 m、東西 3.5 m、深さ 25 ㎝程を測る。　**主軸方向**:不明。　**床面**:総社砂層を掘り込み平坦に整えている。　**覆土**：As-C 含有暗褐色土を主体とする自然堆積と考えられる。　**遺物**：掲載遺物 6 点。南東部床面にまとまって出土している。　**所見**：遺構形態・出土遺物から 9 世紀後半の住居と推定される。

H-10　（遺構：第 13･15 図、図版 4 ／遺物：第 38 図、第 3 表、図版 19）
重複：H-2･8 に切られている。　**形態・確認規模**：北側は H-5 に切取られ、西側は撹乱によって削平されているが、方形と推定される。南北（残存）1.3 m、東西（残存）2.7 m、深さ 11 ㎝程を測る。
主軸方向：N-111° -E。　**カマド**：東壁に敷設。袖と思われる部分に粘土が検出された。長さ（残存）58 ×幅 41 ×深さ 37 ㎝程を測る。　**床面**：総社砂層を掘り込み平坦に整えている。　**覆土**：As-C 含有暗褐色土を主体とする自然堆積と考えられるが、堆積層が薄く、単一層のため不明瞭である。
掘り方：全体的に床面から 11 ㎝程下がり、僅かに凹凸が認められる。　**遺物**：掲載遺物 2 点。床面に散在して数点出土している。　**所見**：遺構形態・出土遺物から 8 世紀代の住居と推定される。

H-11　（遺構：第 19･20 図、図版 5 ／遺物：第 38･39 図、第 3 表、図版 19･20）
重複：J-1･4、H-8 を切っている。　**形態・確認規模**：北西部を H-8 に切り取られているが、方形と推



H-11 カマド

1. 黒色土。締まっている。粘性なし。As-C 若干、焼土粒僅か含有。
2. 黒褐色土。締まっている。As-C 含有。
3. 暗褐色土。締まっている。やや粘質。黄褐色土粒・焼土粒少量含有。
4. 暗褐色土。締まっている。焼土小ブロック含有。
5. 黒褐色土。締まっている。やや粘質。黄褐色粘質土ブロック含有。
6. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。黄褐色土粒僅か含有。

H-11 カマド掘り方

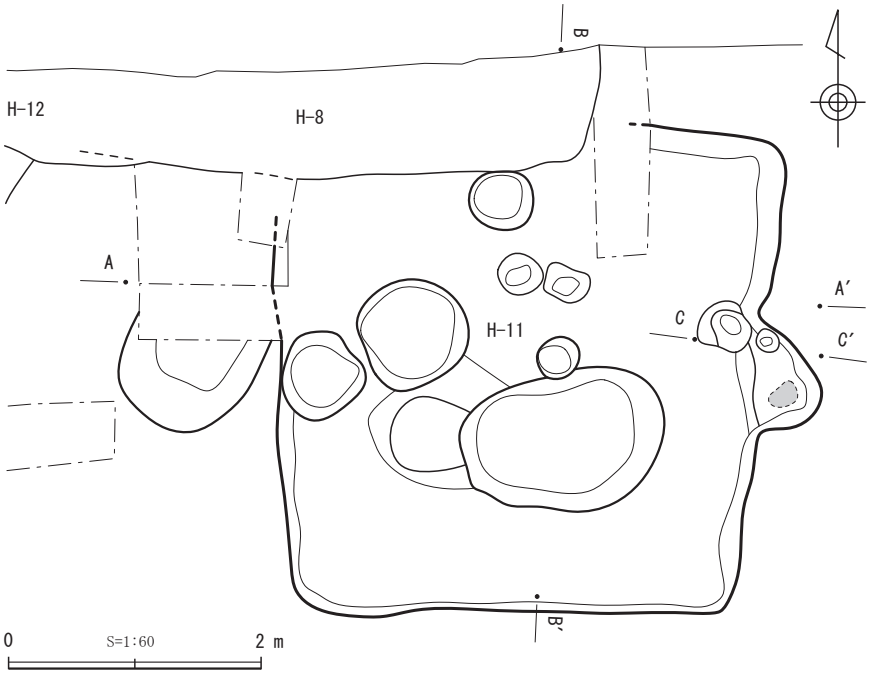
7. 黒色土。締まっている。粘性なし。As-C 若干含有。
8. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。黄褐色土粒少量含有。
9. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。黄褐色土粒・焼土粒少量含有。
10. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。黄褐色粘質土ブロック含有。
11. 褐色土。締まっている。粘性なし。黄褐色粘質土ブロック多量含有。
12. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。黄褐色土粒若干含有。
13. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。黄褐色粘質土小ブロック含有。
14. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 若干、黄褐色粘質土ブロック含有。

H-11

1. 黒褐色土。締まっている。やや粘質。As-C 含有。
2. 黒褐色土。締まっている。やや粘質。As-C 多量含有。
3. 黄褐色粘質土ブロック。
4. 黒褐色土。締まっている。やや粘質。As-C 若干含有。
5. 黒褐色土。締まっている。やや粘質。As-C 若干、焼土粒僅か含有。
6. 黒褐色土。締まっている。やや粘質。As-C 含有。
7. 黒褐色土。締まっている。やや粘質。焼土ブロック含有。炭化粒僅か含有。貼床？
8. 黒褐色土。締まっている。やや粘質。As-C・焼土粒僅か含有。
9. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。黄褐色粘質土ブロック含有。
10. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。黄褐色粘質土ブロック少量含有。
11. 黒褐色土。締まっている。やや粘質。As-C・黄褐色土小ブロック若干含有。
12. 黒褐色土。硬く締まっている。やや粘質。褐色粒含有。
13 黄褐色土。締まっている。やや粘質。地山。

第 19 図　H-11、S-1

定される。南北 3.9 m、東西 3.9 m、深さ 36 ㎝程を測る。　**主軸方向**：N-95° -E。　**カマド**：東壁中央部やや北寄りに敷設。長さ 59 ×幅 80 ×深さ 21 ㎝程を測る。左脇手前に焼土粒多量含有範囲が認められる。　**床面**：**黄**褐色粘質土上面を平坦に整えている。また、西壁の一部に黄褐色粘土を貼付け壁を構築している。　**覆土**：As-C 含有黒褐色土を主体とする自然堆積と考えられる。　**掘り方**：全



第 20 図　H-11 掘り方

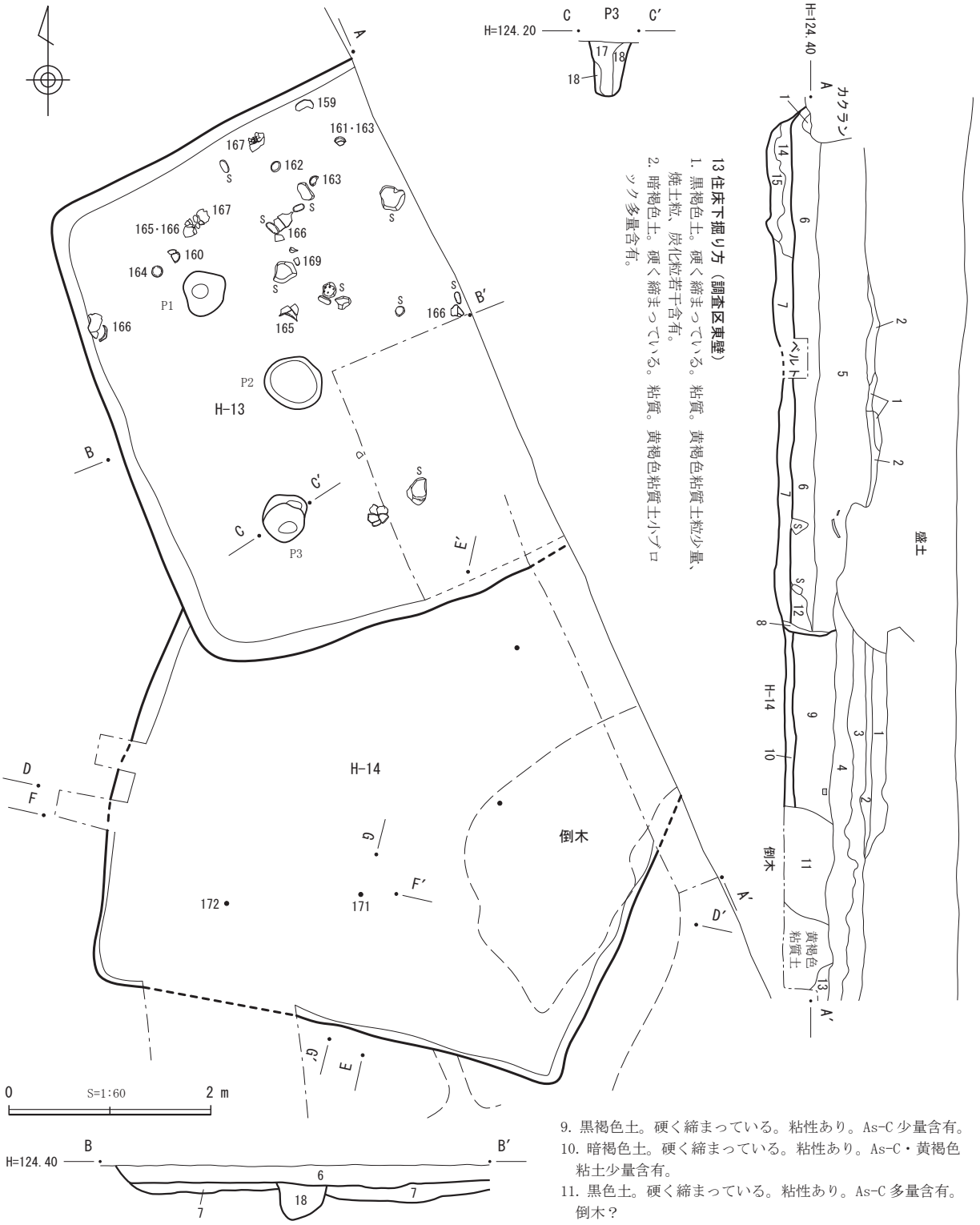
体的に黄褐色粘質土を掘り込み床面から 12 ㎝程下がる。中央部から西と北にかけて径 0.5 ～ 1.6 m 程の土坑、径 35 ㎝程のピットが認められる。　**遺物**：掲載遺物 15 点。カマド、北部床面にまとまって出土している。　**所見**：遺構形態・出土遺物から 10 世紀前半の住居と推定される。

H-12　（遺構：第 9･10 図、図版 5 ／遺物：第 39 図、第 3 表、図版 20）

重複：H-2･8 に切られている。　**形態・確認規模**：北部は調査区外へ拡がり、東は H-8 に、西は H-2 に切り取られているが、方形と推定される。南北（残存）0.9 m、東西 2.0 m、深さ 91 ㎝程を測る。　**主軸方向**：不明。　**床面**：黄褐色粘質土を掘り込んで平坦に整えている。　**覆土**：As-C 多量含有黒色土を主体とする自然堆積と考えられる。　**遺物**：掲載遺物 2 点。カマド、覆土中から数点出土している。　**所見**：出土遺物から 4 世紀代の住居と推定される。

H-13　（遺構：第 21･22 図、図版 5･6 ／遺物：第 39･40 図、第 3 表、図版 20）

重複:J-2､H-14 を切っている。　**形態･確認規模**:東側は調査区外へ拡がっているが､方形と推定される。南北 5.1 m、東西（残存）3.8 m、深さ 46 ㎝程を測る。　**主軸方向**：N-20°　-W。　**柱穴**：P1 ～ P3 が検出された。P1 は径 43 ㎝､P2 は径 54 ㎝､P3 は径 44 ㎝程で､いずれも深さ 30 ㎝以上を測る。　**床面**:全体的に黒色粘質土を貼床とし平坦に整えている。また、H-14 と重なる南壁の一部に黄褐色粘土を貼付け壁を構築している。　**覆土**：As-C 多量含有黒褐色粘質土を主体とする自然堆積と考えられるが、水平堆積に近く不確定である。　**掘り方**:黄褐色粘質土を掘り込み、全体的に床面から 20 ㎝程下がる。南寄りに径 1.3 m×深さ 20 ㎝程の土坑が 4 基確認された。　**遺物**:掲載遺物 12 点。北部床面にまとまって出土している。　**所見**：遺構形態・出土遺物から 7 世紀前半の住居と推定される。



13 住床下掘り方（調査区東壁）

1. 黒褐色土。硬く締まっている。粘質。黄褐色粘質土粒少量、焼土粒、炭化粒若干含有。
2. 暗褐色土。硬く締まっている。粘質。黄褐色粘質土小ブロック多量含有。

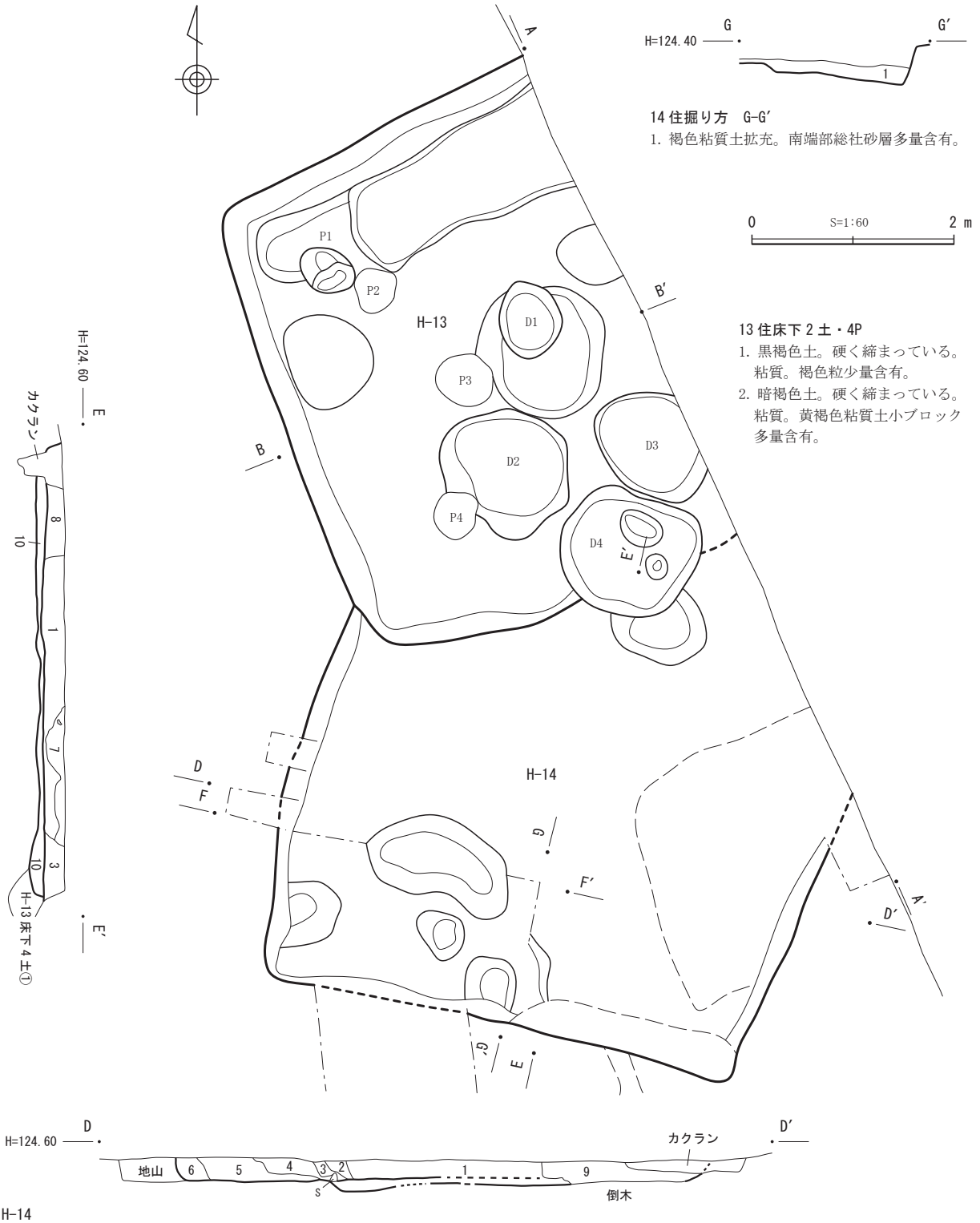
H-13・14

1. 灰色土。非常に硬く締まっている。粘性なし。旧表土。
2. 暗茶褐色土。非常に硬く締まっている。粘性なし。As-B 混土。
3. 黒褐色土。硬く締まっている。やや粘性。As-C 多量、Hr-FP 若干含有。
4. 黒色土。硬く締まっている。粘性あり。As-C 多量含有。
5. 暗褐色土。硬く締まっている。粘性あり。Hr-FP 少量、As-C 含有。包含層。
6. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性あり。As-C 多量、焼土粒・炭化粒若干含有。
7. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性あり。As-C 少量含有。一部上面に焼土ブロック・黄褐色粘土ブロック含有。
8. 黄褐色粘土。
9. 黒褐色土。硬く締まっている。粘性あり。As-C 少量含有。
10. 暗褐色土。硬く締まっている。粘性あり。As-C・黄褐色粘土少量含有。
11. 黒色土。硬く締まっている。粘性あり。As-C 多量含有。倒木？
12. 黒色土。硬く締まっている。粘性あり。As-C 多量、焼土粒・炭化粒少量含有。
13. 暗褐色土。非常に硬く締まっている。粘性あり。As-C・Hr-FP 少量含有。地山。

H-13 床下 1 ～ 3P

16. 黒褐色土。硬く締まっている。粘質。黄褐色粘質土ブロック多量含有。
17. 暗褐色土。硬く締まっている。粘質。黄褐色粘質土ブロック多量含有。
18. 黒褐色土。硬く締まっている。粘質。As-C 若干、黄褐色粘質土小ブロック含有。

第 21 図　H-13・14



14 住掘り方　G-G′

1. 褐色粘質土拡充。南端部総社砂層多量含有。

13 住床下 2 土・4P

1. 黒褐色土。硬く締まっている。粘質。褐色粒少量含有。
2. 暗褐色土。硬く締まっている。粘質。黄褐色粘質土小ブロック多量含有。

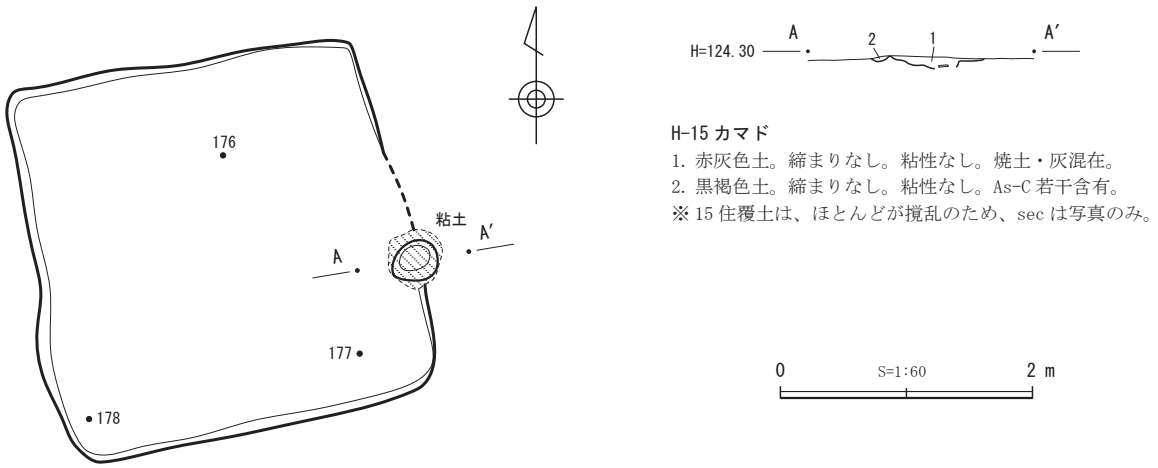
H-14

1. 暗褐色土。硬く締まっている。やや粘質。褐色粘質土ブロック・As-C 含有。
2. 黒褐色土。硬く締まっている。やや粘質。As-C 多量含有。
3. 黒色土。硬く締まっている。やや粘質。As-C 多量、炭化粒若干含有。
4. 暗褐色土。硬く締まっている。やや粘質。As-C 多量含有。
5. 暗褐色土。硬く締まっている。やや粘質。As-C 少量、褐色粘質土含有。
6. 暗褐色土。硬く締まっている。やや粘質。As-C 含有。
7. 黒褐色土。硬く締まっている。やや粘質。As-C 含有。
8. 暗褐色土。硬く締まっている。やや粘質。As-C 多量、褐色粘質土ブロック少量、炭化粒僅か含有。
9. 黒色土。硬く締まっている。粘質。As-C 多量、Hr-FP 若干含有。倒木。
10. 暗褐色土。硬く締まっている。粘性あり。As-C・黄褐色粘土少量含有。

H-14 掘り方　F-F′

1. 暗褐色土。硬く締まっている。粘質。褐色粘質土粒多量、 As-C 含有。

第 22 図　H-13･14 掘り方



第 23 図　H-15

H-14　（遺構：第 21･22 図、図版 6 ／遺物：第 41 図、第 3 表、図版 20）

重複：H-13 に切り、J-2 を切っている。　**形態・確認規模**：東側は調査区外へ拡がり、北側は H-14 に切り取られているが、方形と推定される。南北（残存）5.0 m、東西 5.2 m、深さ 44 ㎝程を測る。　**主軸方向**：N-13°-E。　**床面**：東壁際は倒木によって大きく抉り取られているが、全体的に暗色粘質土を貼床とし平坦に整えている。　**覆土**：As-C 含有黒褐色粘質土を主体とする自然堆積と考えられるが、単一層のため不確定である。　**掘り方**：黄褐色粘質土を掘り込み、全体的に床面から 10 ㎝程下がる。　**遺物**：掲載遺物 4 点。床面に散在して数点出土している。　**所見**：遺構形態・出土遺物から 6 世紀後半の住居と推定される。

H-15　（遺構：第 23 図、図版 6･7 ／遺物：第 41 図、第 3 表、図版 20）

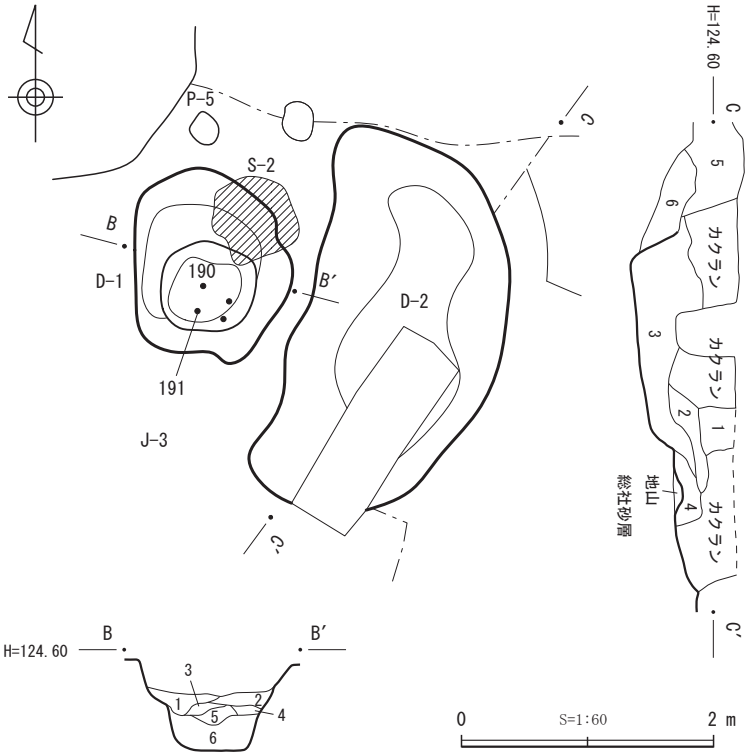
重複：なし。　**形態・確認規模**：遺構のほとんどは撹乱によって削平されており、僅かにカマドと掘り方が残存し、方形を成す。南北 3.0 m、東西 3.1 m、深さ 5 ㎝程を測る。　**主軸方向**：N-77°-E。　**カマド**：東壁南寄りに敷設。掘り方と思われる部分に焼土・粘土が検出された。径 34 ×深さ 10 ㎝程を測る。　**床面**：不明。　**覆土**：不明。　**掘り方**：全体的に総社砂層を掘り込でいるが、不明瞭である。　**遺物**：掲載遺物 5 点。底面に散在して数点出土している。　**所見**：遺構形態・出土遺物から 9 世紀前半の住居と推定される。

H-16　（遺構：第 16･18 図、図版 7 ／遺物：第 41･42 図、第 3 表、図版 21）

重複:H-6･17 に切られている。　**形態･確認規模**:南側は調査区外へ拡がっているが､方形と推定される。南北（残存）3.5 m、東西 4.0 m、深さ 19 ㎝程を測る。　**主軸方向**：N-60°-E。　**カマド**：東壁南寄りに敷設。掘り方と思われる部分に焼土･粘土が検出された。径 34 ×深さ 10 ㎝程を測る。　**床面**:総社砂層を掘り込み平坦に整えている。　**覆土**：As-C 含有黒褐色土を主体とする自然堆積と考えられるが、単一層のため不確定である。　**掘り方**：全体的に床面から 10 ㎝程下がり、西寄りから南壁にかけて大きく不正形に深く掘り込まれている。　**遺物**：掲載遺物 10 点。カマド手前にまとまって出土している。　**所見**：遺構形態・出土遺物から 10 世紀前半の住居と推定される。

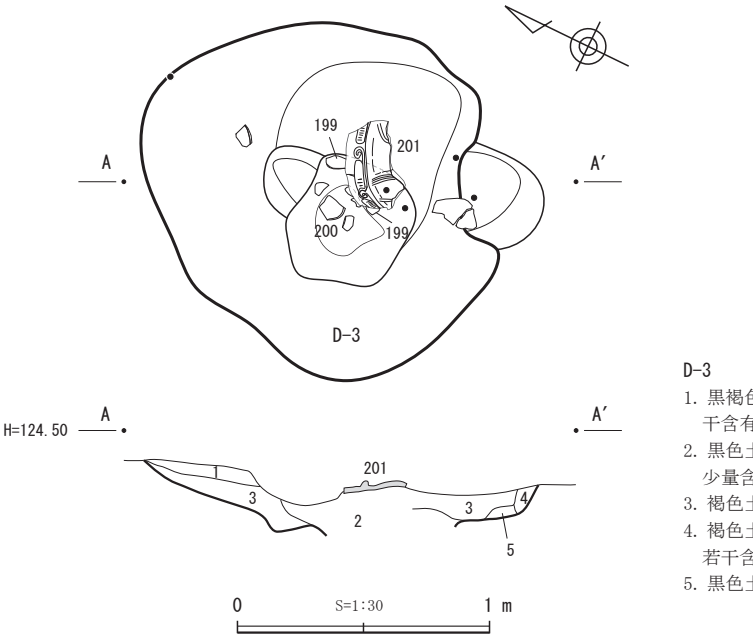
H-17 （遺構：第 16･18 図、図版 7）

重複：H-6･17 に切られている。　**形態・確認規模**：南側は調査区外へ拡がっているが、方形と推定される。南北（残存）1.0 m、東西 4.7 m、深さ 44 ㎝程を測る。　**主軸方向**：N-60° -E。　**床面**：総社砂層を掘り込み平坦に整えている。　**覆土**：As-C 含有黒褐色土を主体とする自然堆積と考えられるが、単一層のため不確定である。　**遺物**：掲載遺物なし。覆土中から数点出土している。　**所見**：隣接する元総社小見Ⅱ遺跡の H-9 と重複関係にあると考えられる。遺構形態・出土遺物から 9 世紀代の住居と推定される。



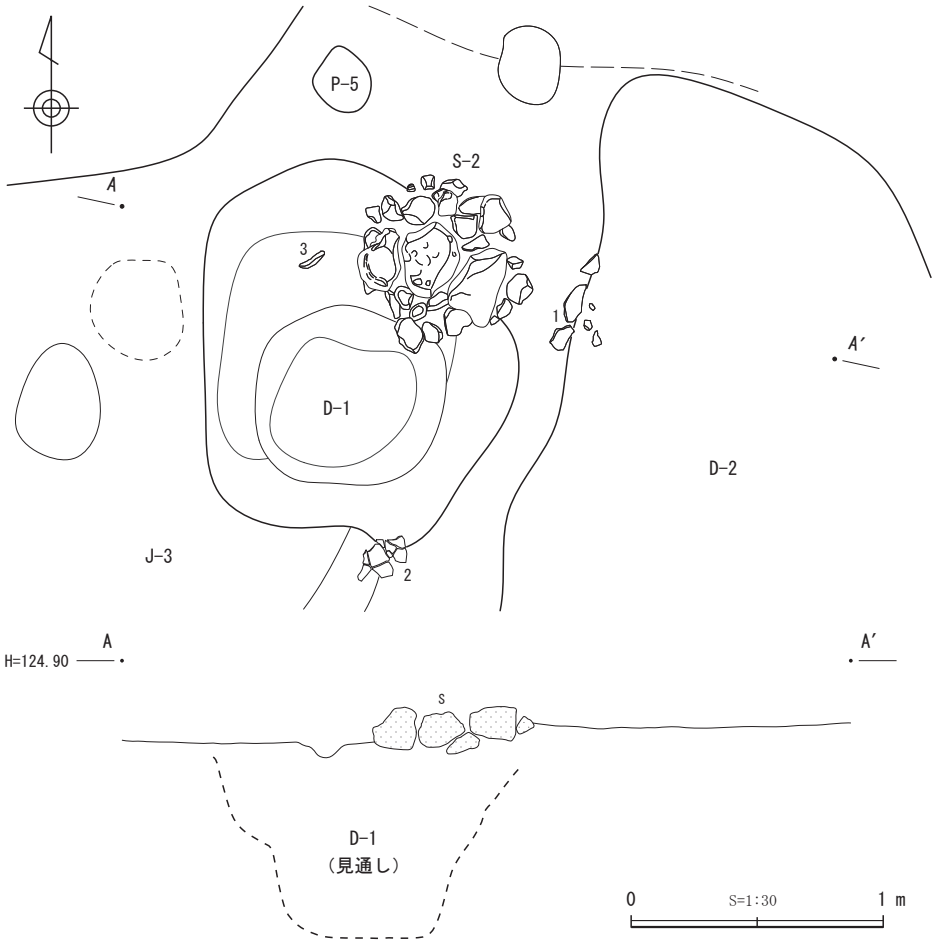
D-1
1. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 若干、炭化粒僅か含有。
2. 暗黒色土。締まっている。粘性なし。総社砂層多量含有。
3. 褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層・焼土粒・炭化粒若干含有。
4. 褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層拡充。
5. 褐色土。締まっている。粘性なし。総社砂層多量、焼土粒含有。
6. 褐色土。締まり普通。粘性なし。総社砂層拡充。

D-2
1. 黒褐色土。締まっている。粘性なし。As-C ・橙色粒僅か含有。
2. 暗黒色土。締まっている。粘性なし。As-C 僅か含有。
3. 黒色土。締まっている。粘性なし。As-C 若干、総社砂層部分的に含有。
4. 暗褐色土。締まっている。粘性なし。As-C 僅か含有。
5. 褐色土。総社砂層多量含有。地山。
6. 黄褐色土。総社砂層。地山。



D-3
1. 黒褐色土。硬く締まっている。粘質。橙色粒若干、As-C 若干含有。
2. 黒色土。硬く締まっている。粘質。黄褐色粘質土ブロック少量含有。
3. 褐色土。硬く締まっている。粘質。黄褐色粘質土多量含有。
4. 褐色土。硬く締まっている。粘質。黄褐色粘質土、赤色粒若干含有。
5. 黒色土。硬く締まっている。粘質。

第 24 図　D-1 ～ 3



第 25 図　S-2

第２節　土坑・集石・ピット・縄文集中（遺構：第 11･24･25 図、第 3 表、図版 9 ～ 11 ／遺物：第 43 ～ 46 図、第 3 表、図版 21 ～ 24）

土坑 3 基、集石遺構 2 基、ピット 5 基が検出されたが、そのほとんどは性格、時期とも不明である。各遺構の概要は第 2 表にまとめた。縄文土器集中（X-1）は J-3、D-1、S-2 の上位層で縄文土器が廃棄された状態で、まとまって出土したが、遺構と認識できなかったため写真に記録し、遺物分布図として記録していない。

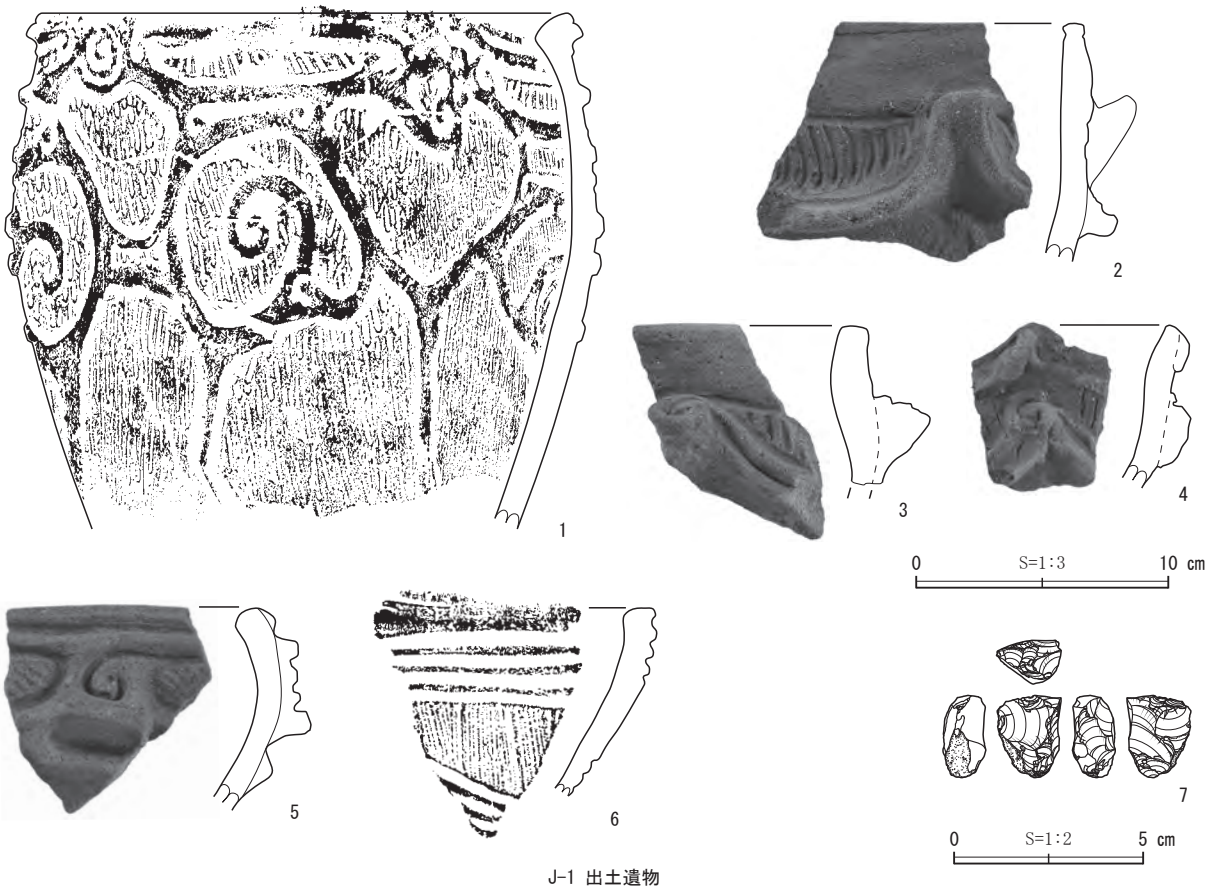
第 2 表　土坑・集石遺構・ピット一覧

（重複：＜＝より古、＞＝より新 ／ 計測単位：cm）

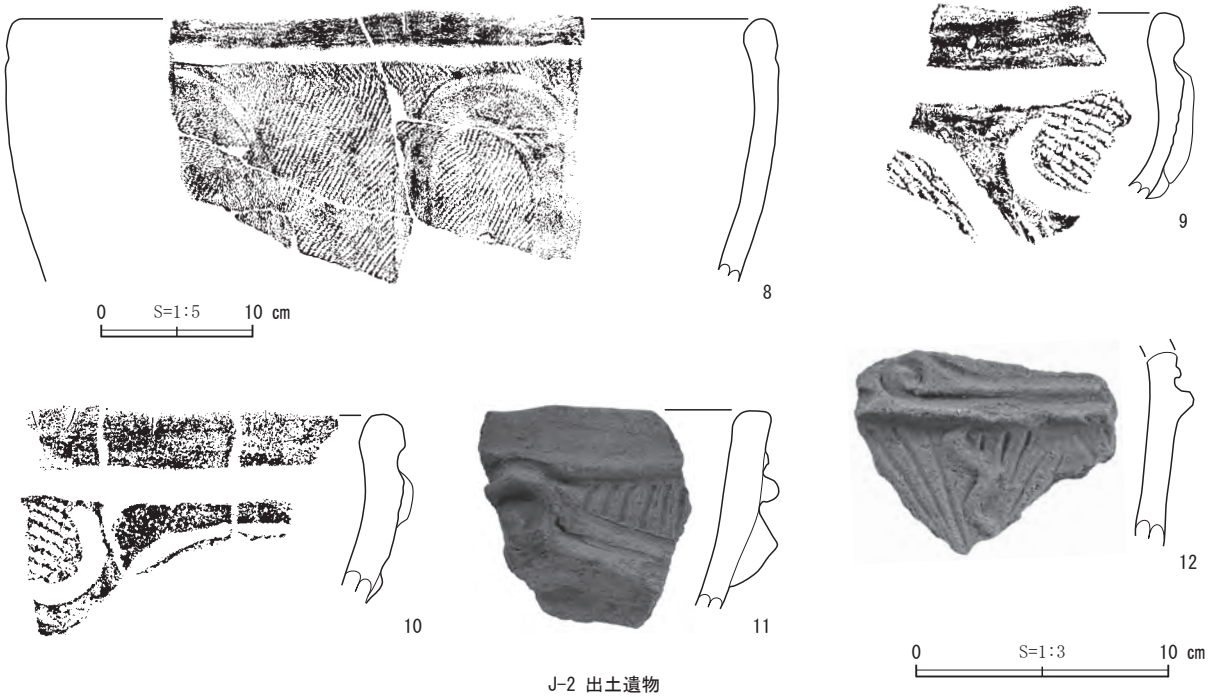
番号	重　複	形状		確認規模			推定時期	備　　考	挿図	図版
		平面	断面	長軸	短軸	深さ				
D-1	＜ SK-2、＞ J-3	隅丸方形	逆台形	141	113	72	縄文中期	縄文遺物集中の下で検出 下層中央に焼土あり	24･43	9･21
D-2	＜ SK-2、＞ J-3	不正楕円形	逆台形	299	160	90	縄文中期	縄文遺物集中の下で検出	24･43	9･21
D-3	なし	不正円形	漏斗状	145	134	50	縄文中期	深鉢大型破片出土	24･43･44	10･22
D-4	＜ H-1、＞ J-4	円形	逆台形	71	67	28	古代	土師器破片出土、H-1 床下土坑？	5･44	22
S-1	＞ J-4	－	－	〈106〉	107	－	不明	集石下に土坑	－	10
S-2	＞ J-4・D-1･2	方形	－	66	65	19	縄文中期	縄文遺物集中の下で検出 被熱した礫が多い	25･44	11･22
P-1	＜ H-3	円形	U字状	61	59	38	古墳時代以前	H-3 内南西	11	10
P-2	＜ H-3	円形	－	42	39	31	古墳時代以前	H-3 内南西	11	10
P-3	＜ H-3	円形	－	33	31	27	古墳時代以前	H-3 内南東	11	10
P-4	＜ H-3	円形	－	30	30	44	古墳時代以前	H-3 内南東	11･45	10･22
P-5	＞ J-3	円形	－	26	23	40	不明	J-3 内	11	10

第３節　遺構外出土遺物（遺物：第 47･48 図、第 3 表、図版 9）

掲載遺物 13 点。出土地点の特定ができなかったものである。

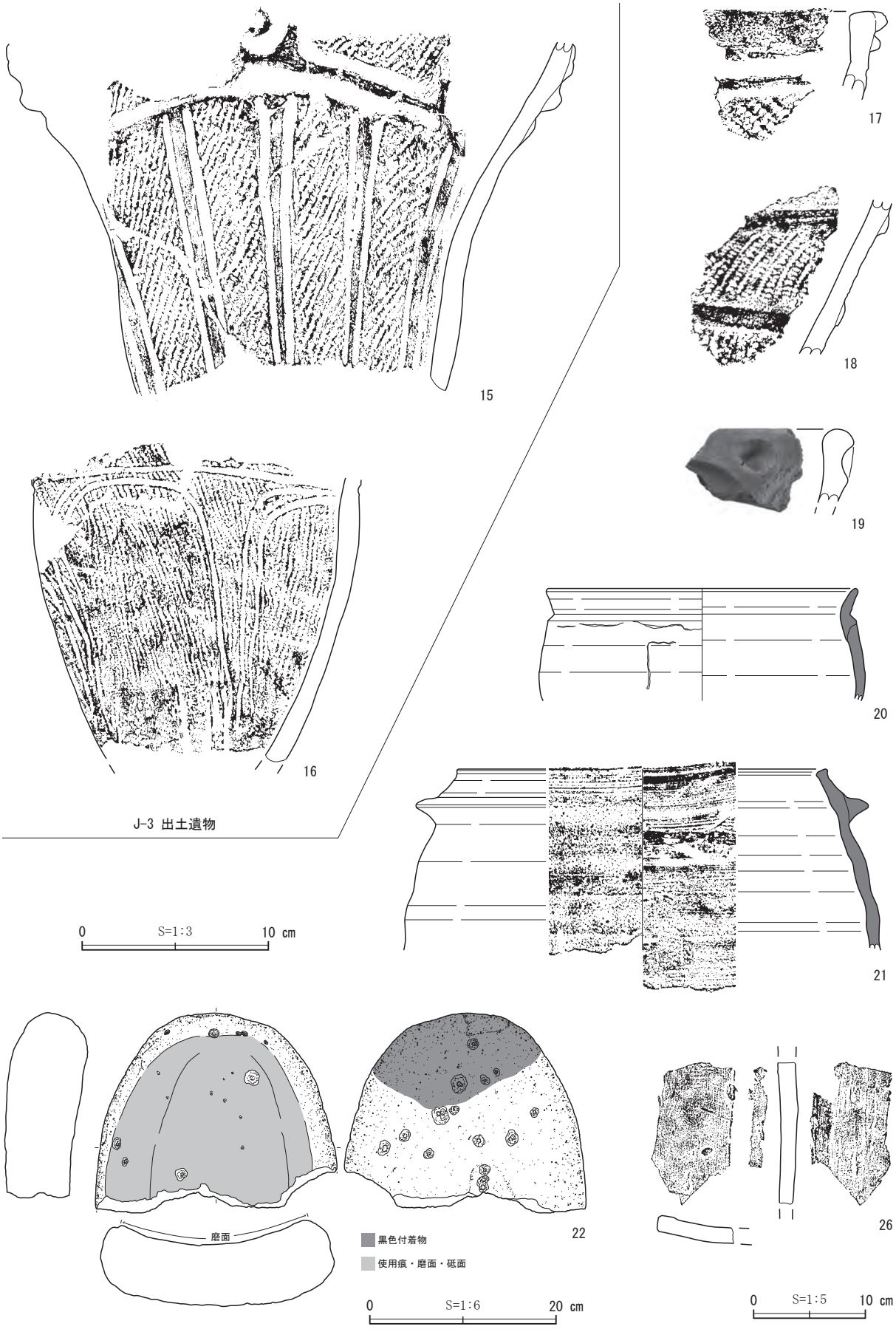


J-1 出土遺物

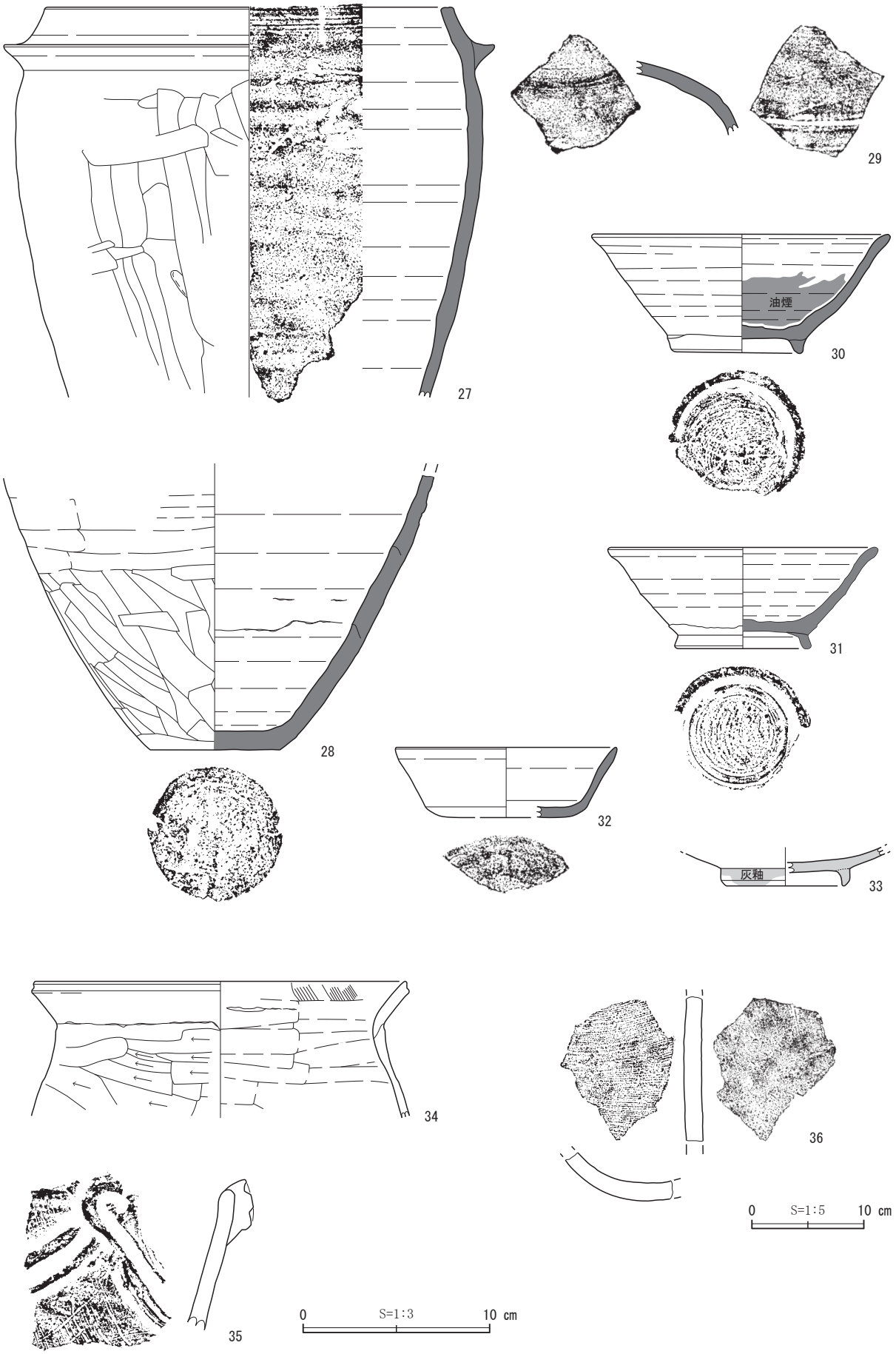


J-2 出土遺物

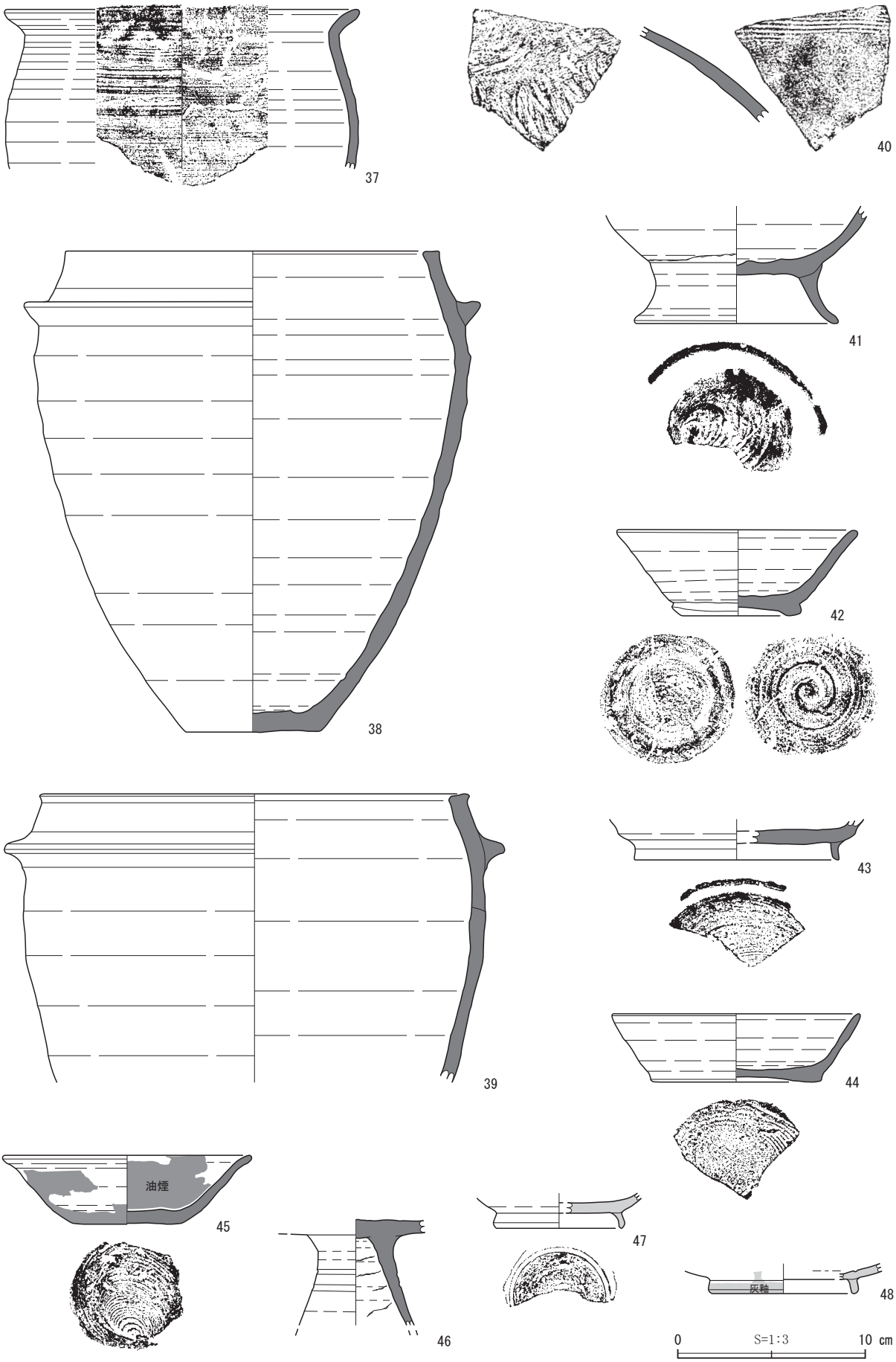
第 26 図　J-1･2 出土遺物



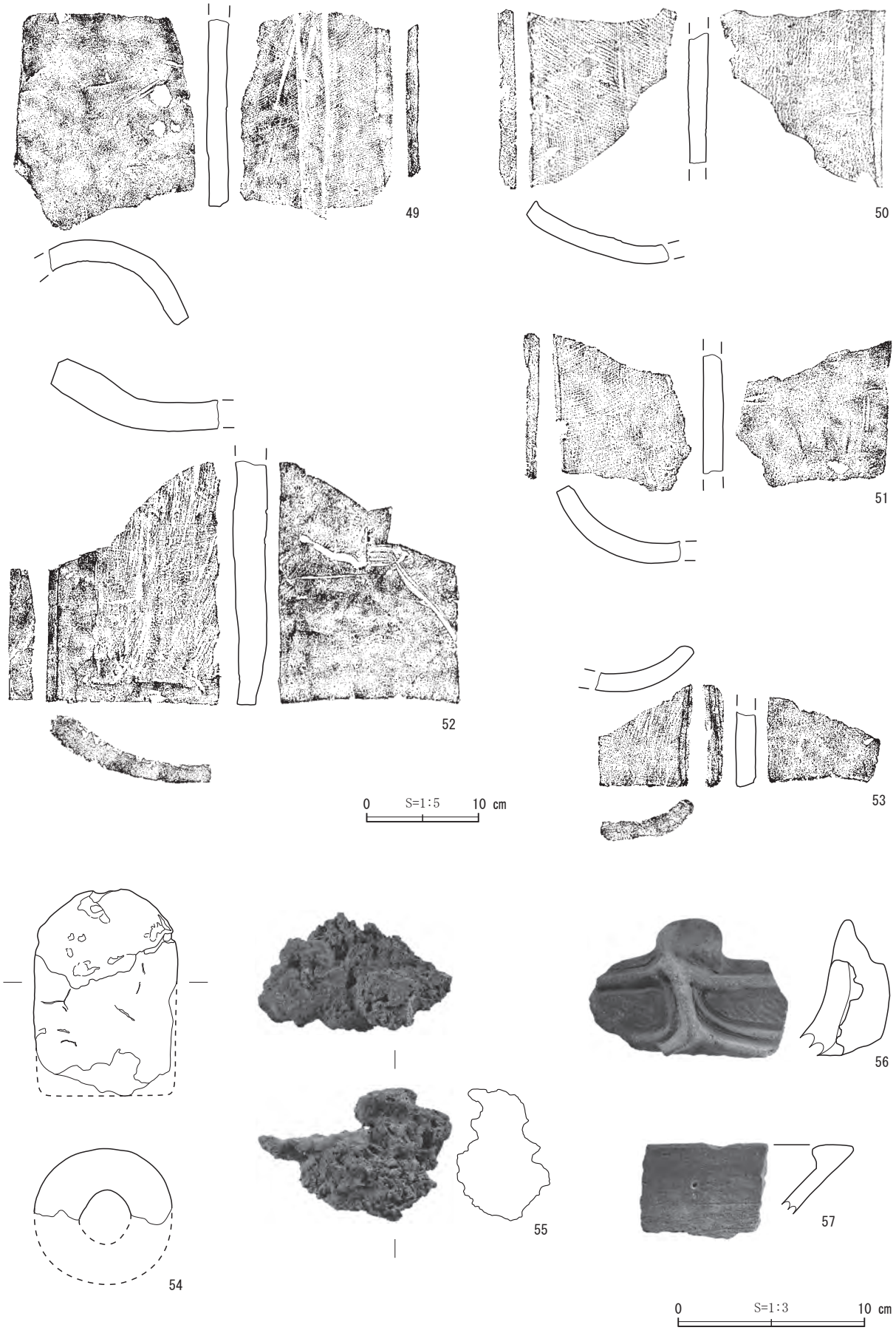
第 27 図　J-3･4 出土遺物



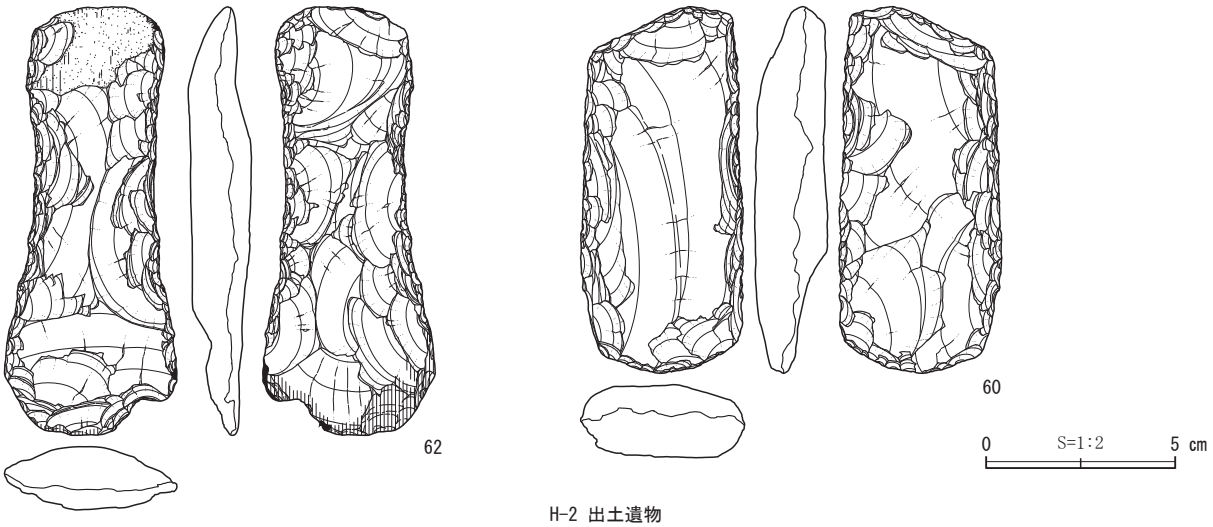
第 28 図　H-1 出土遺物



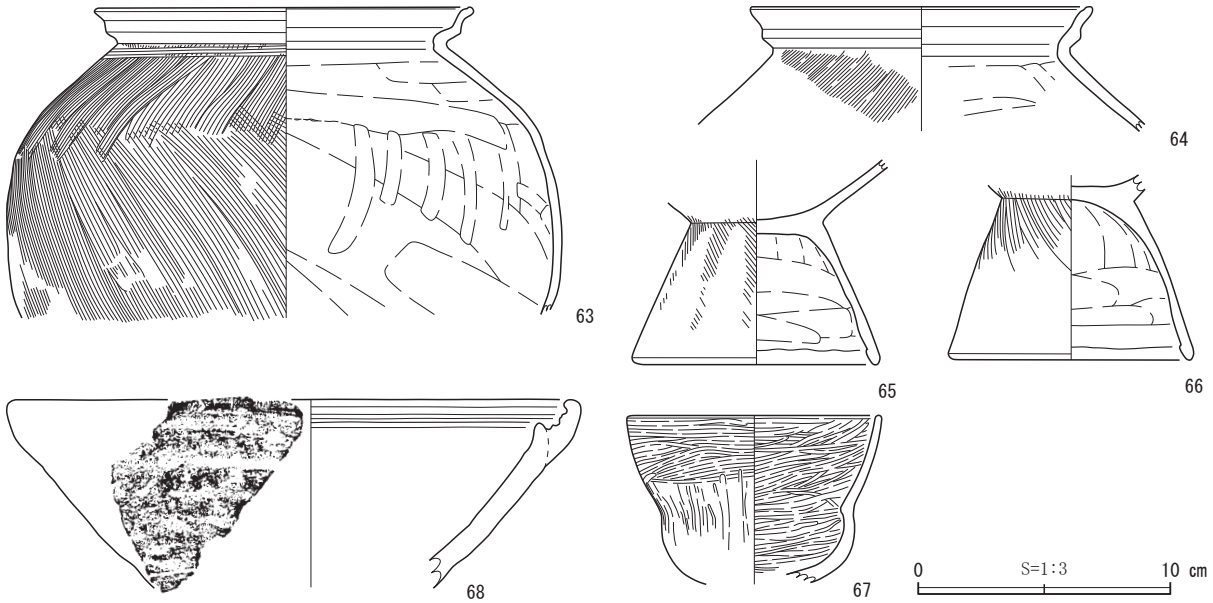
第 29 図　H-2 出土遺物



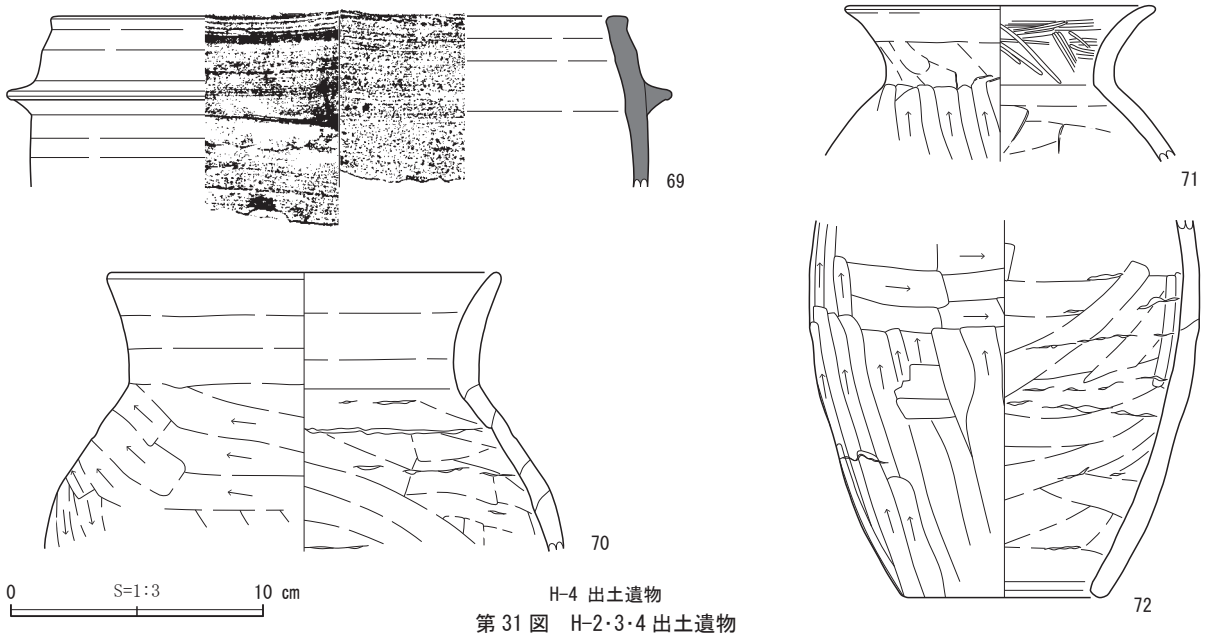
第 30 図　H-2 出土遺物



H-2 出土遺物

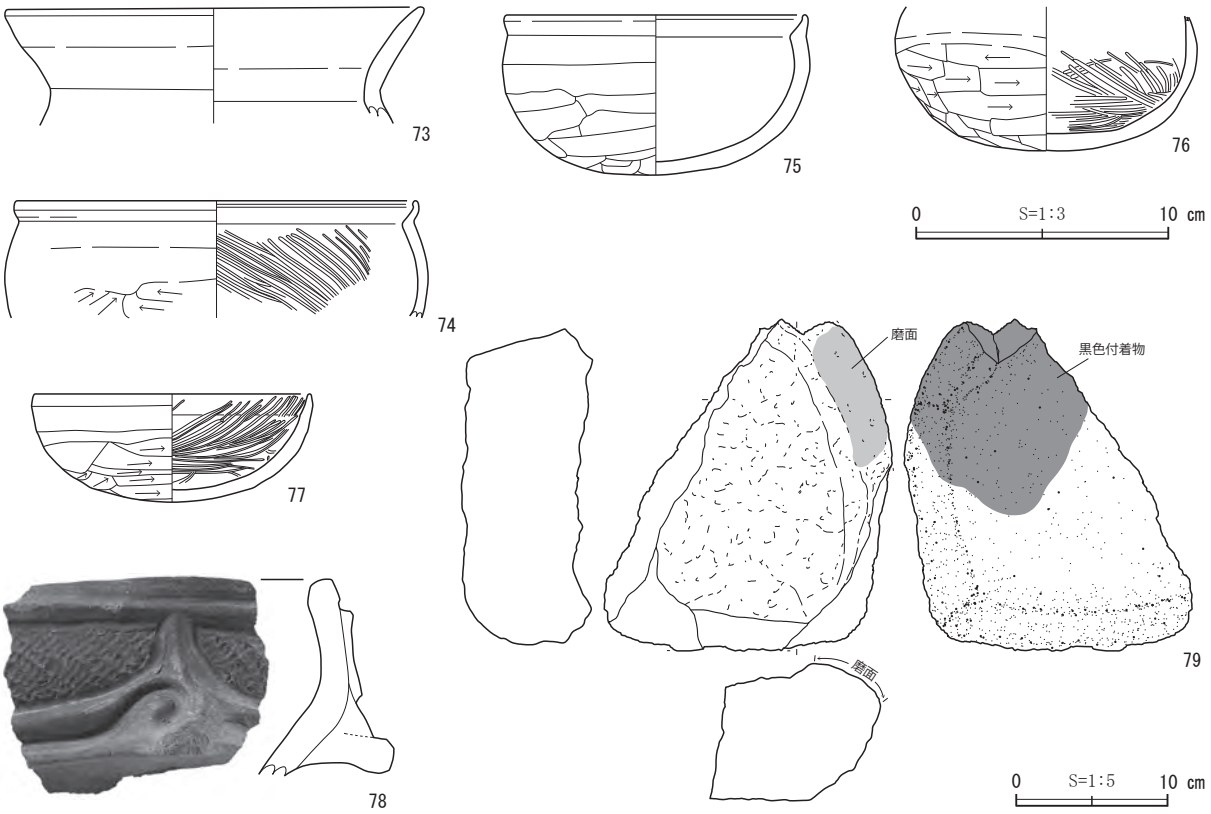


H-3 出土遺物

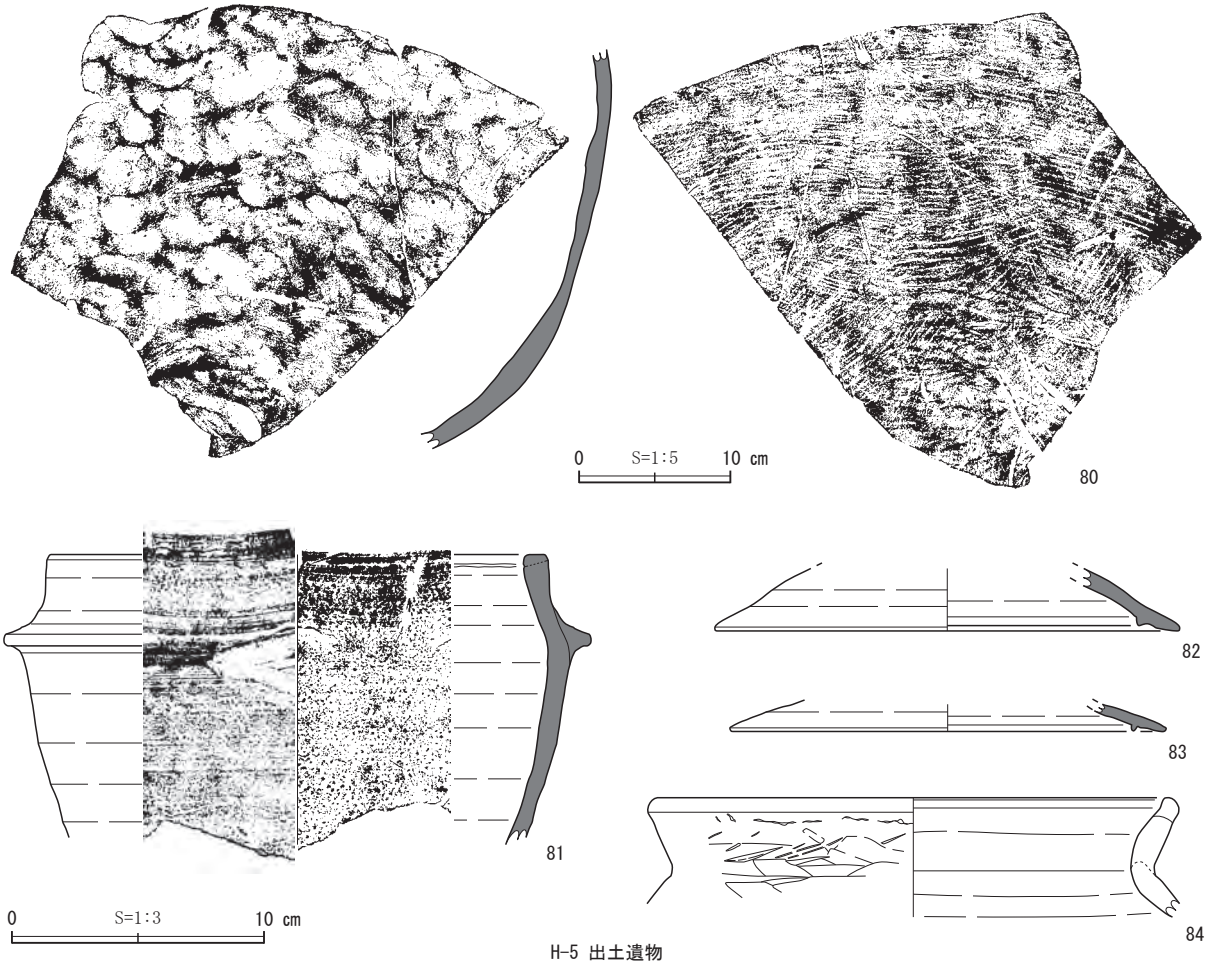


H-4 出土遺物

第 31 図　H-2･3･4 出土遺物

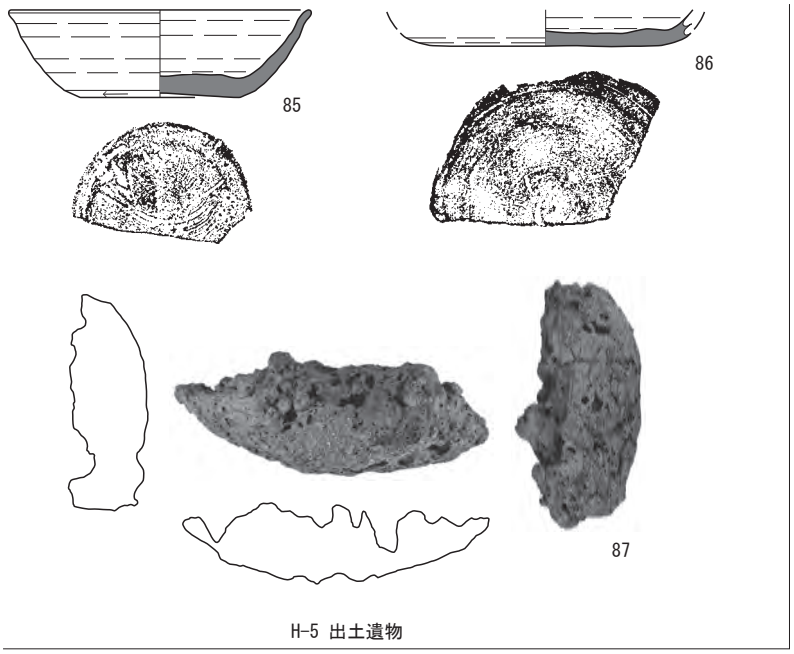


H-4 出土遺物

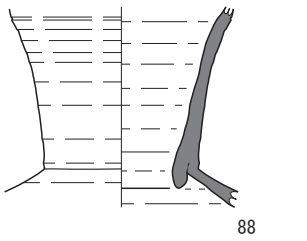


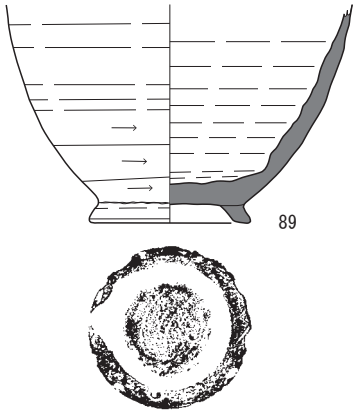
H-5 出土遺物

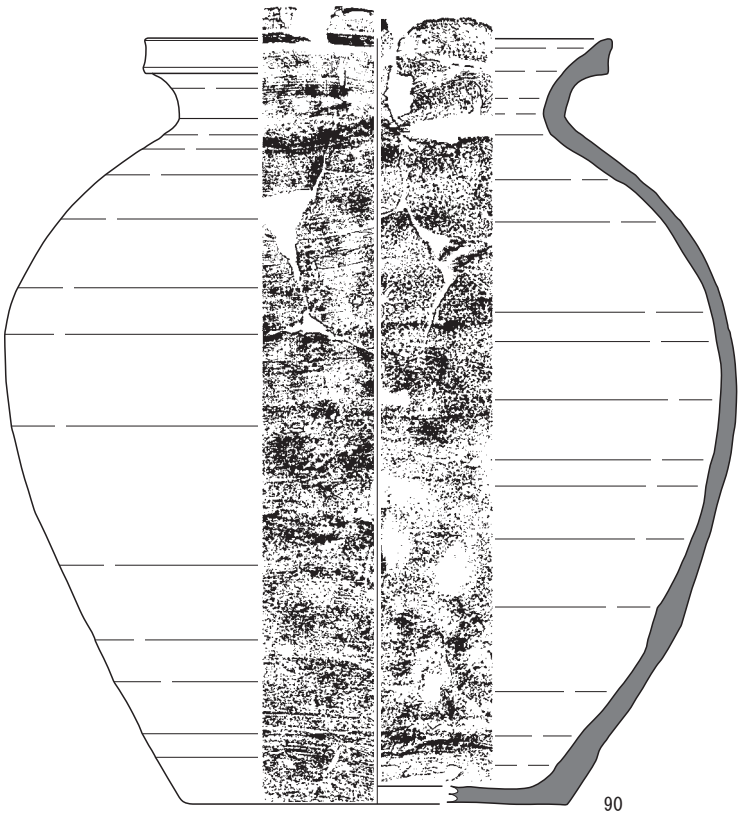
第 32 図　H-4･5 出土遺物

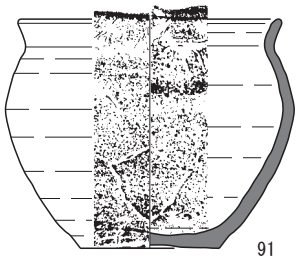


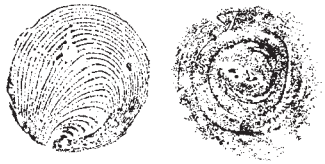
H-5 出土遺物

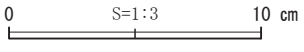


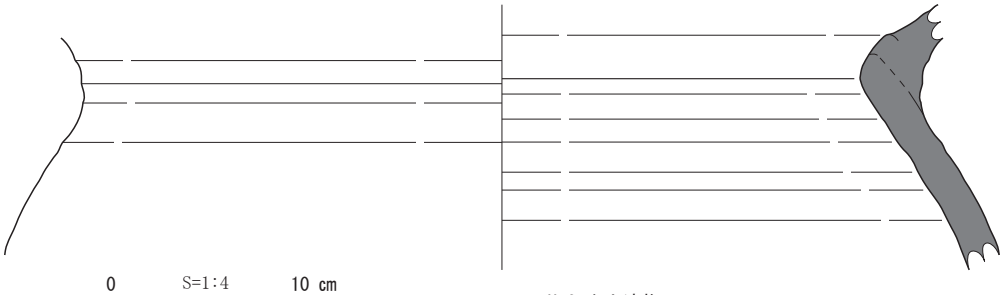


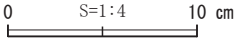






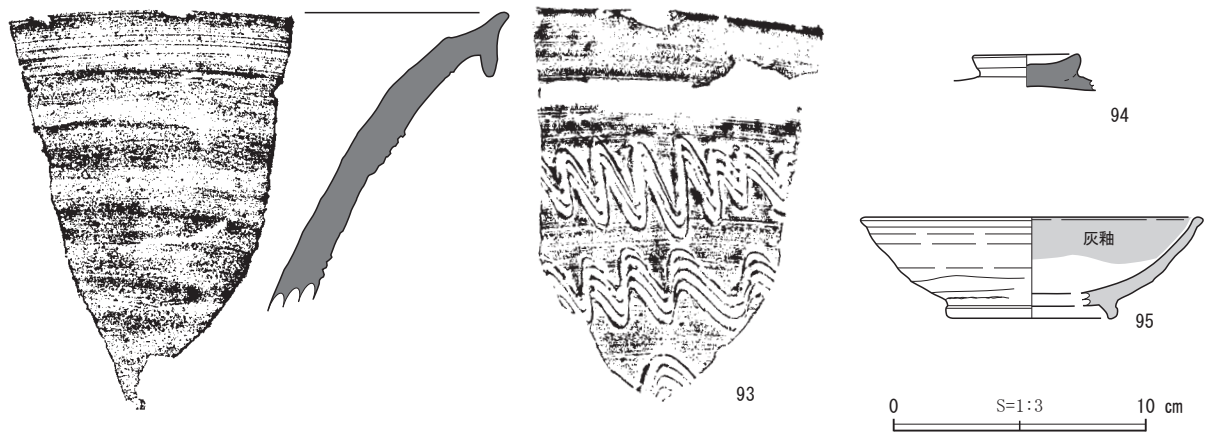


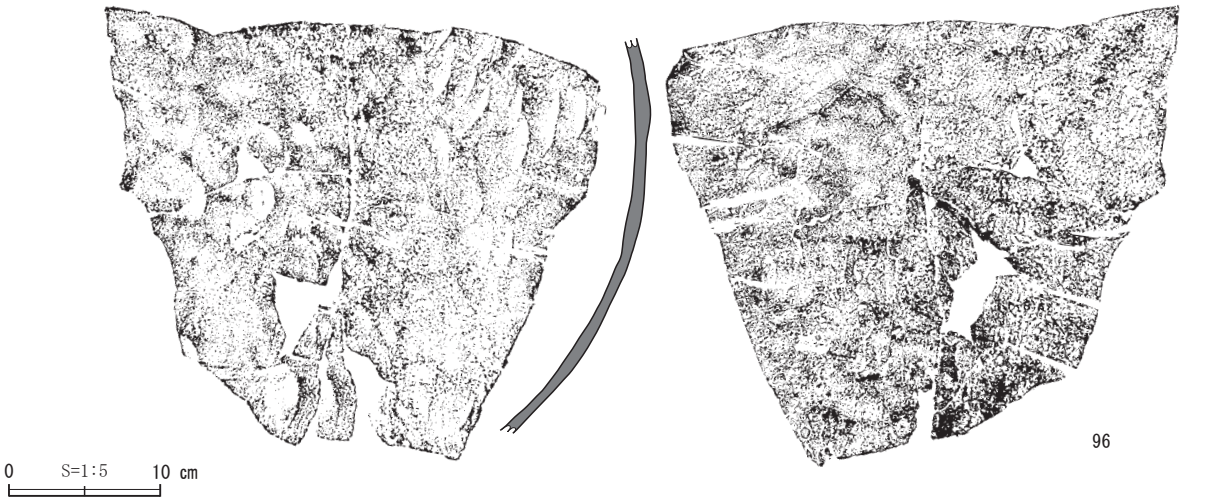


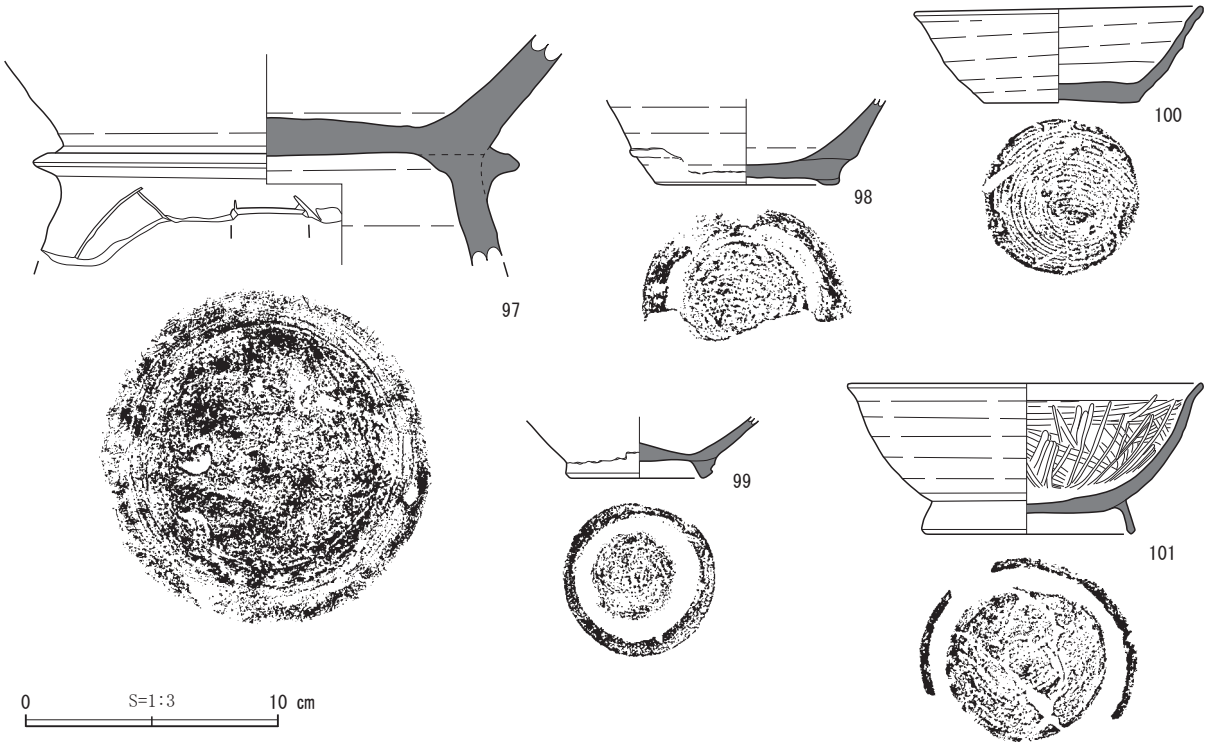


H-6 出土遺物

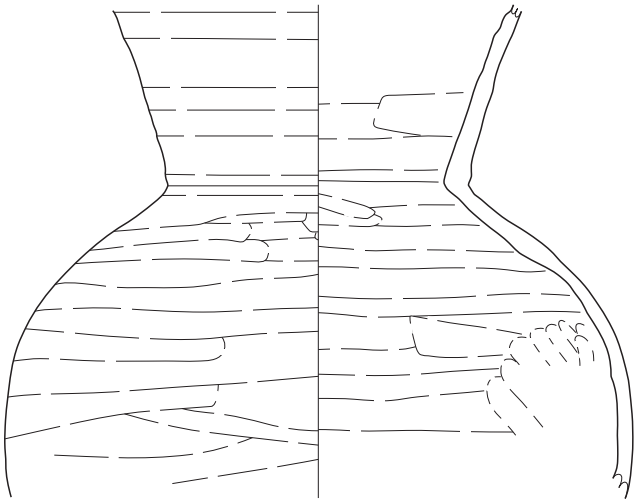
第 33 図　H-5･6 出土遺物



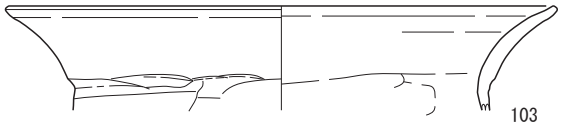




第 34 図　H-6 出土遺物

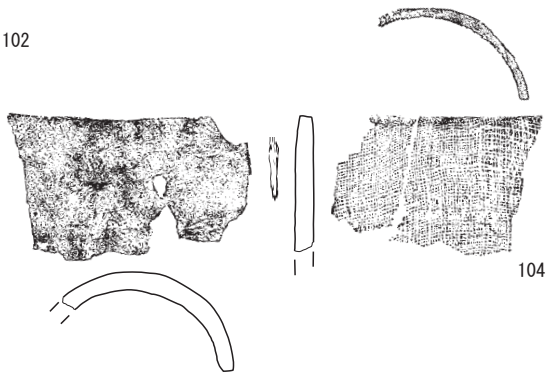


102

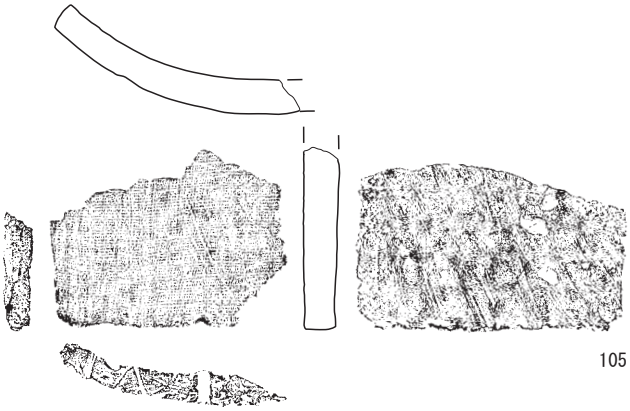


103

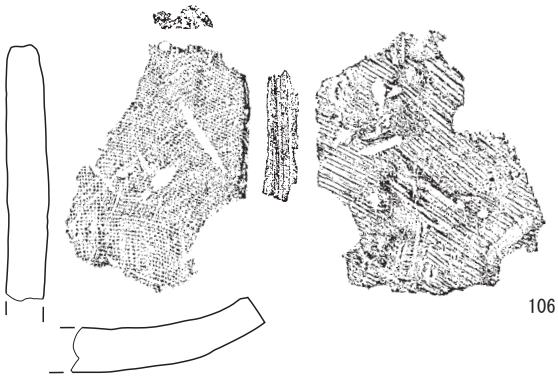
0 S=1:3 10 cm



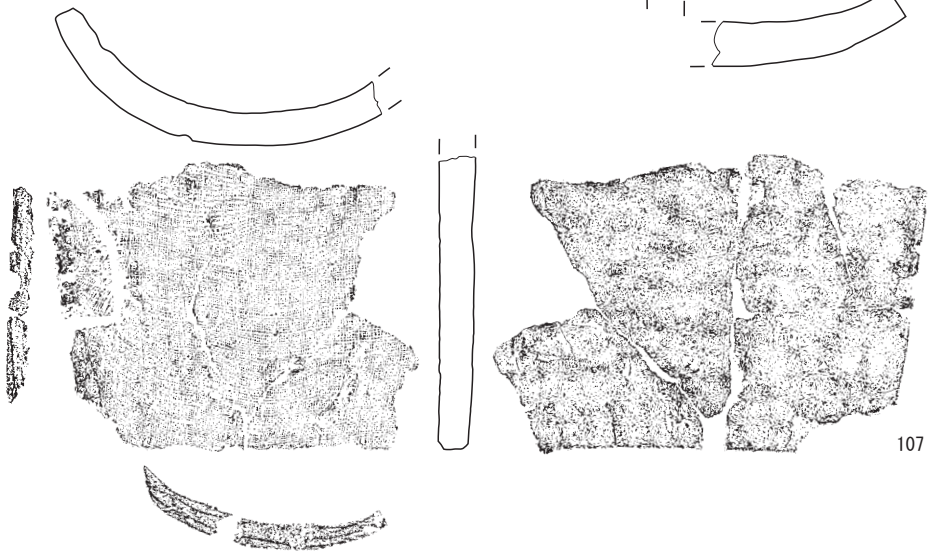
104



105



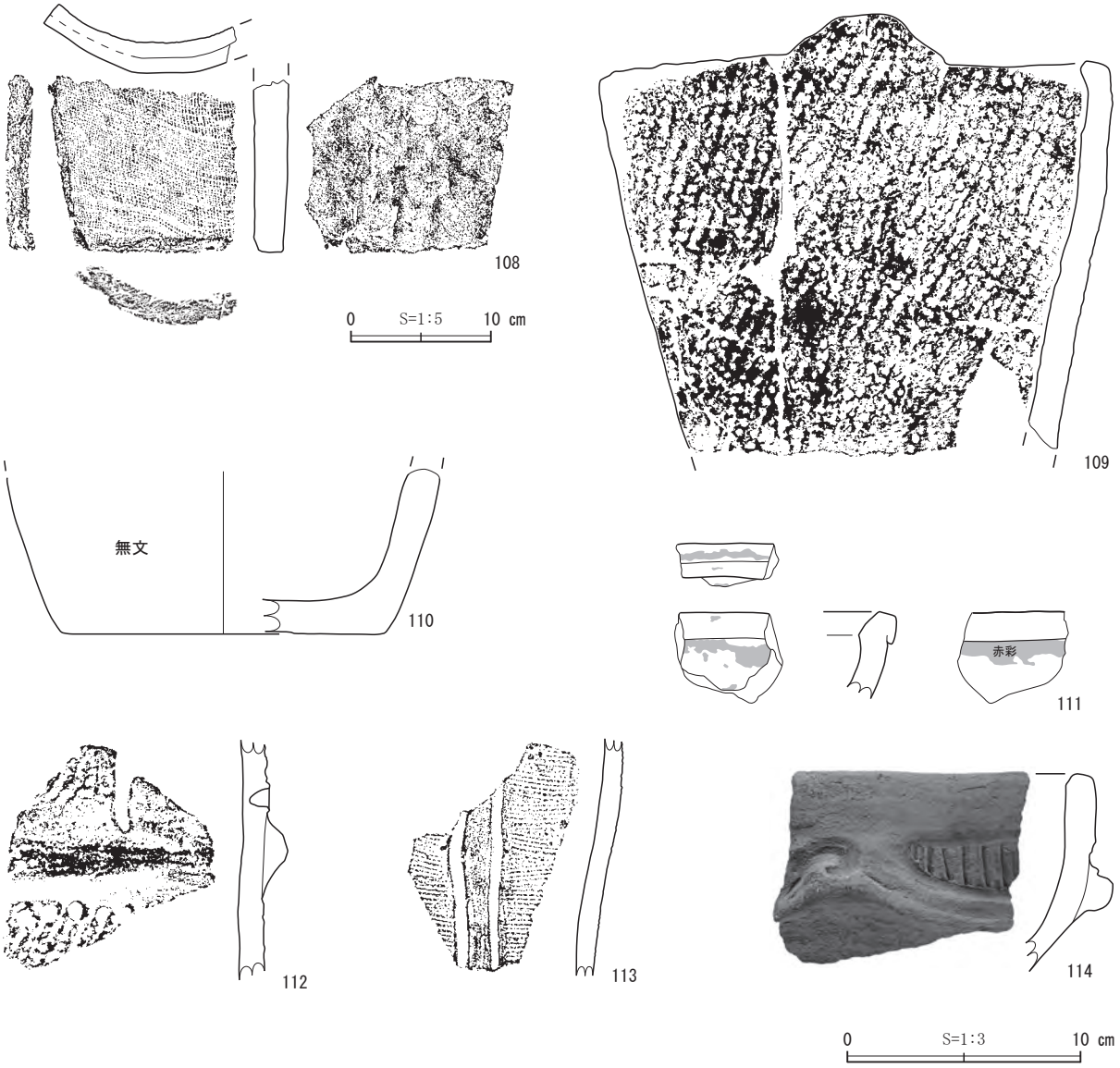
106



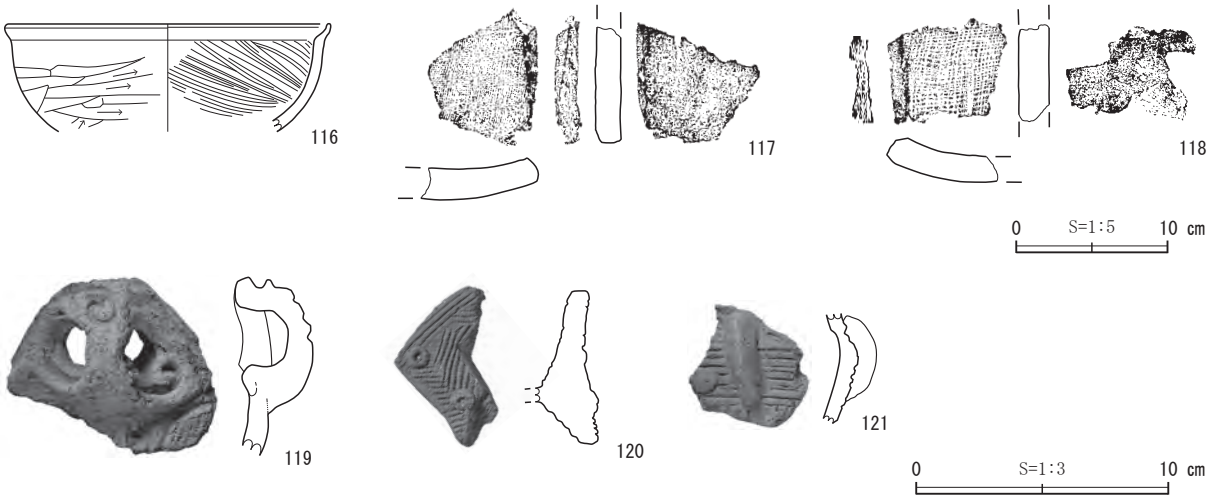
107

0 S=1:5 10 cm

第 35 図　H-6 出土遺物

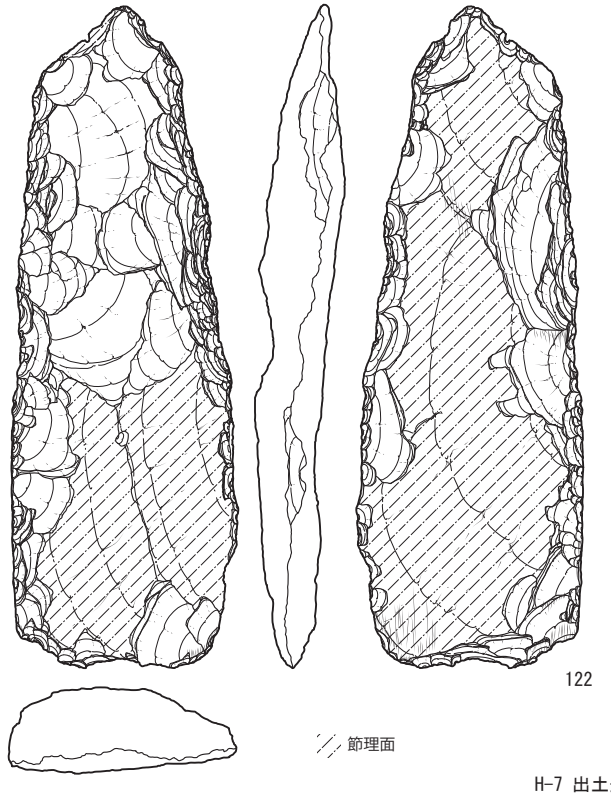


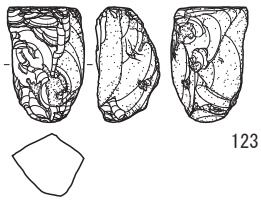
H-6 出土遺物

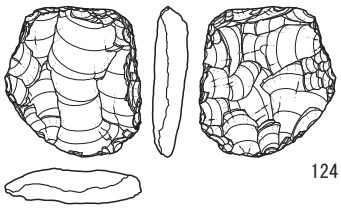


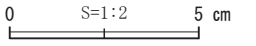
H-7 出土遺物

第 36 図　H-6･7 出土遺物

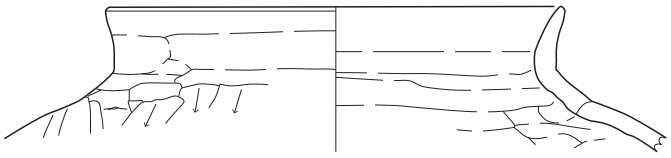


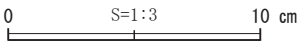


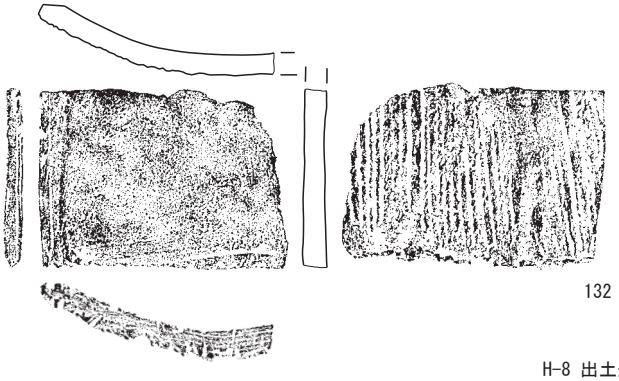


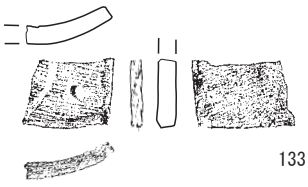


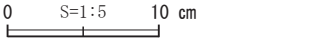
H-7 出土遺物



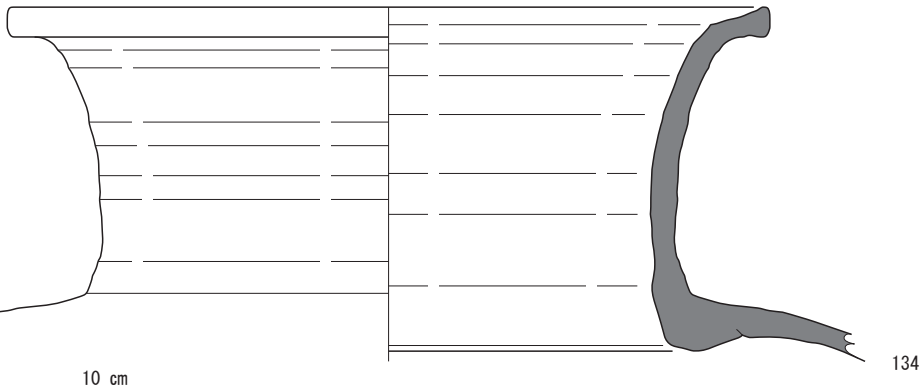


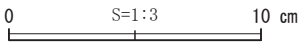






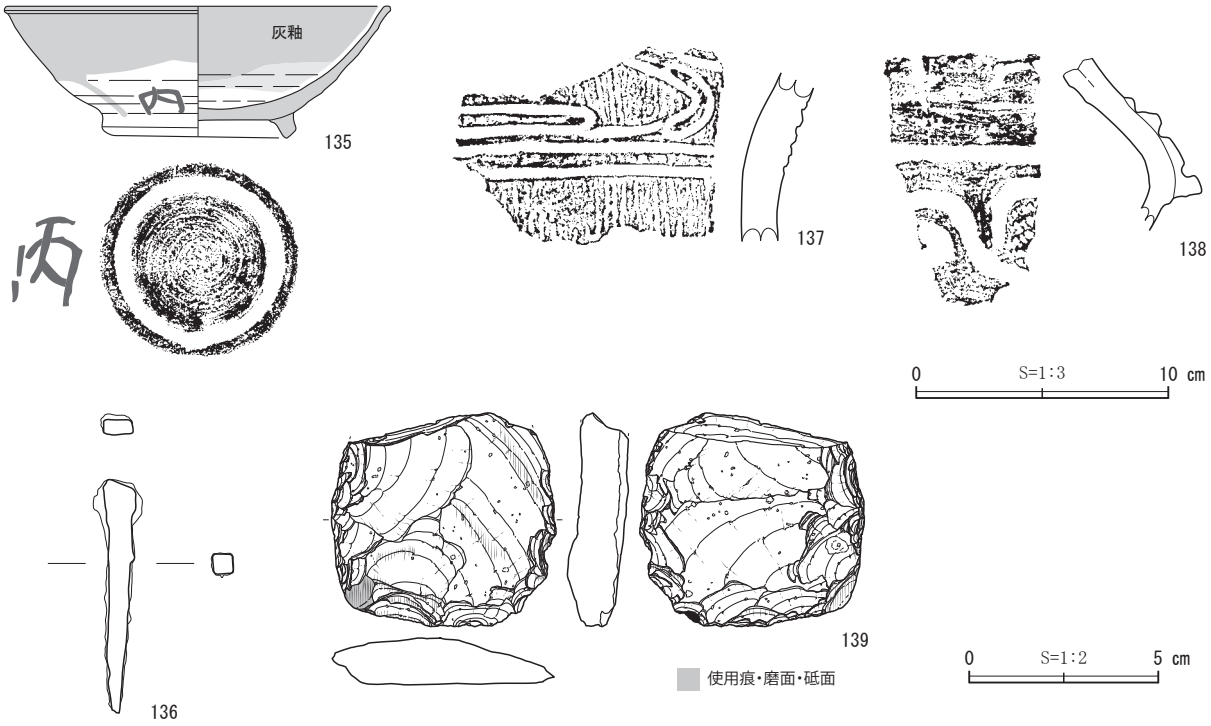
H-8 出土遺物



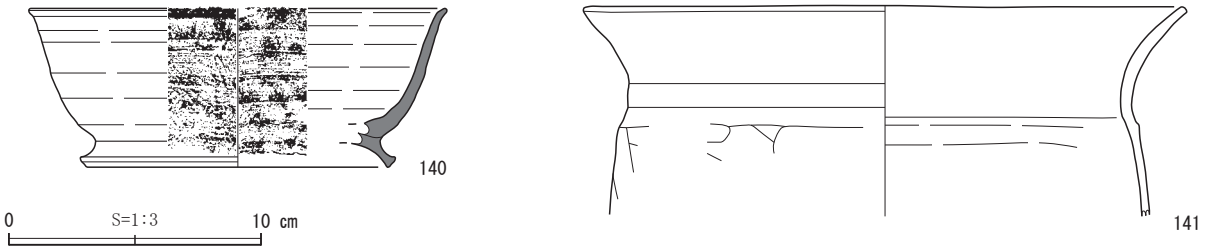


H-9 出土遺物

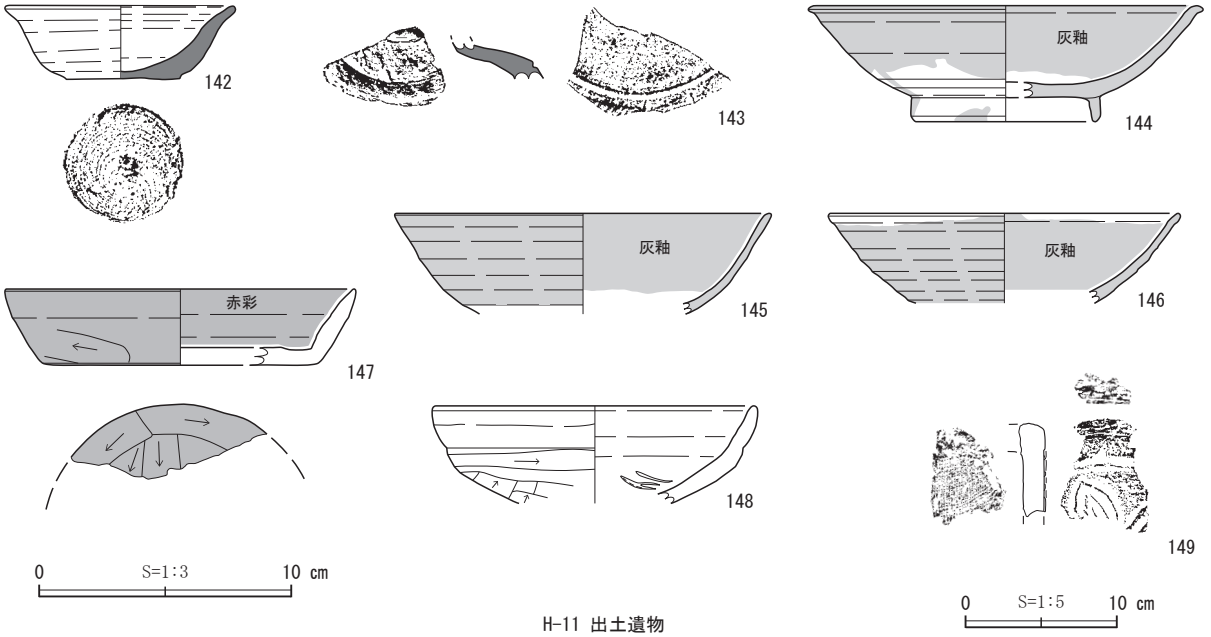
第 37 図　H-7･8･9 出土遺物



H-9 出土遺物

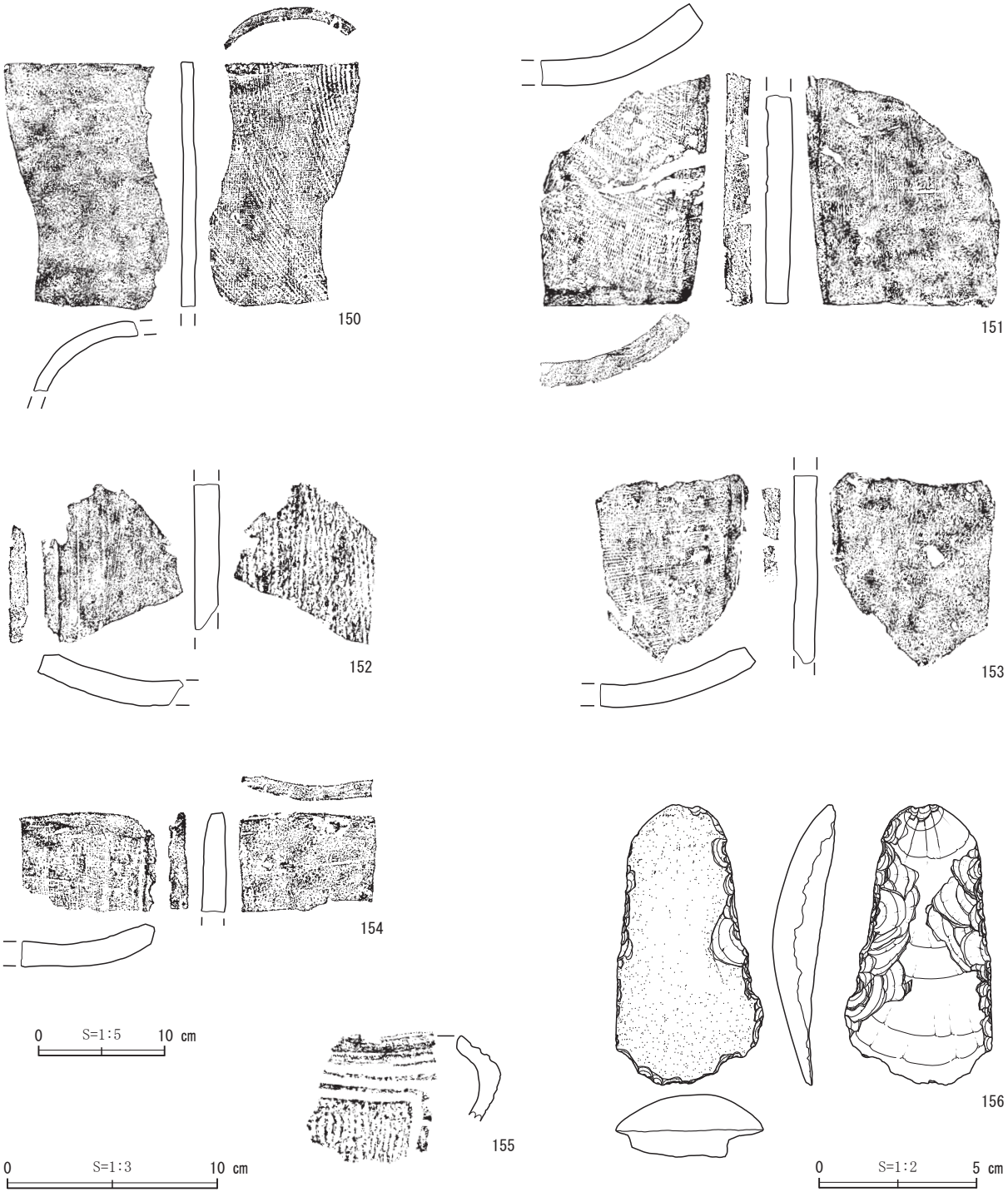


H-10 出土遺物

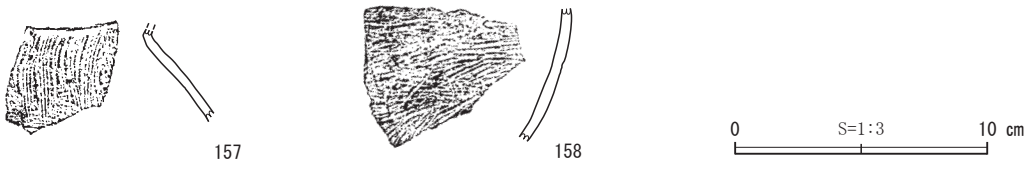


H-11 出土遺物

第 38 図　H-9・10・11 出土遺物

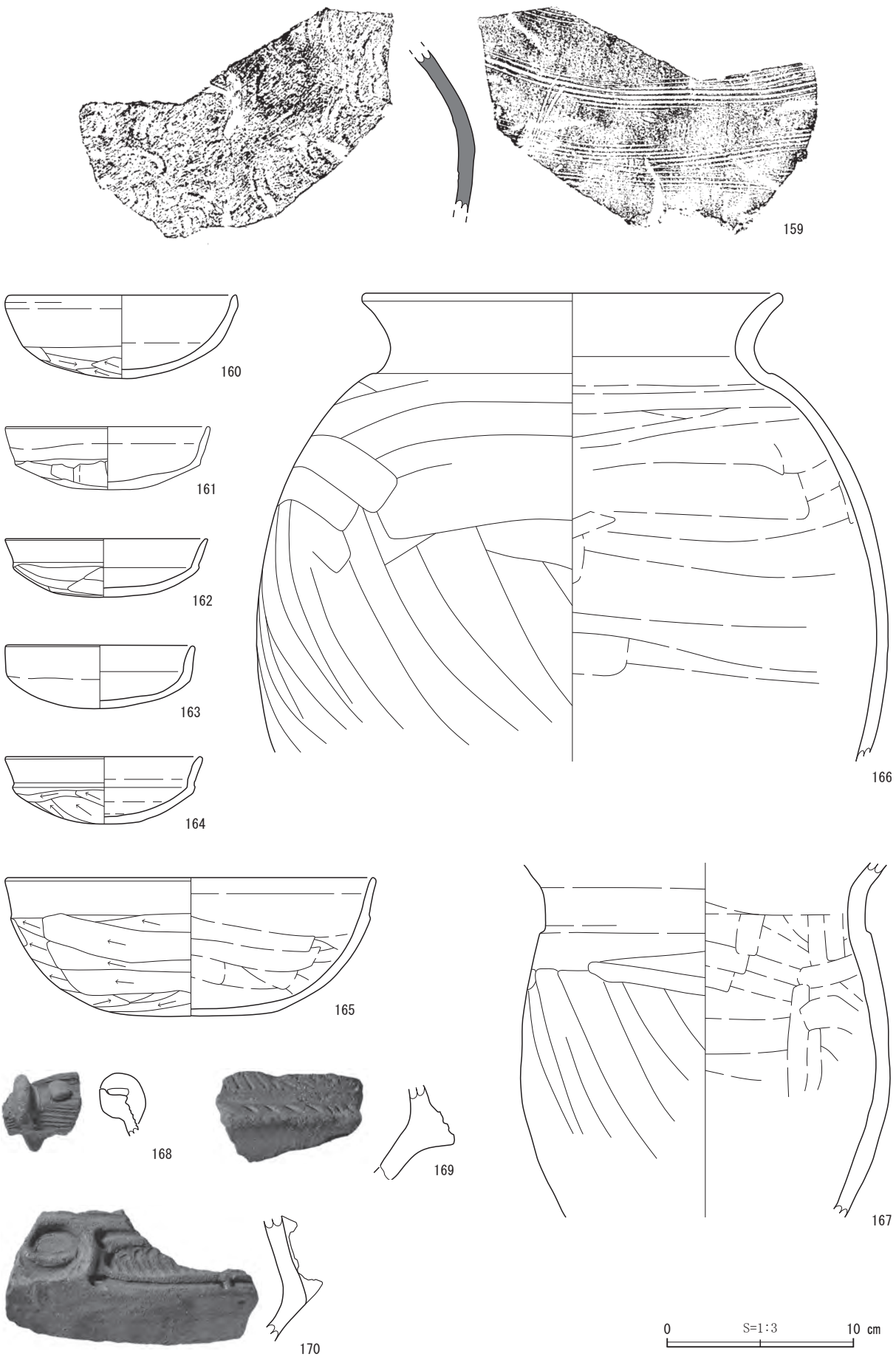


H-11 出土遺物

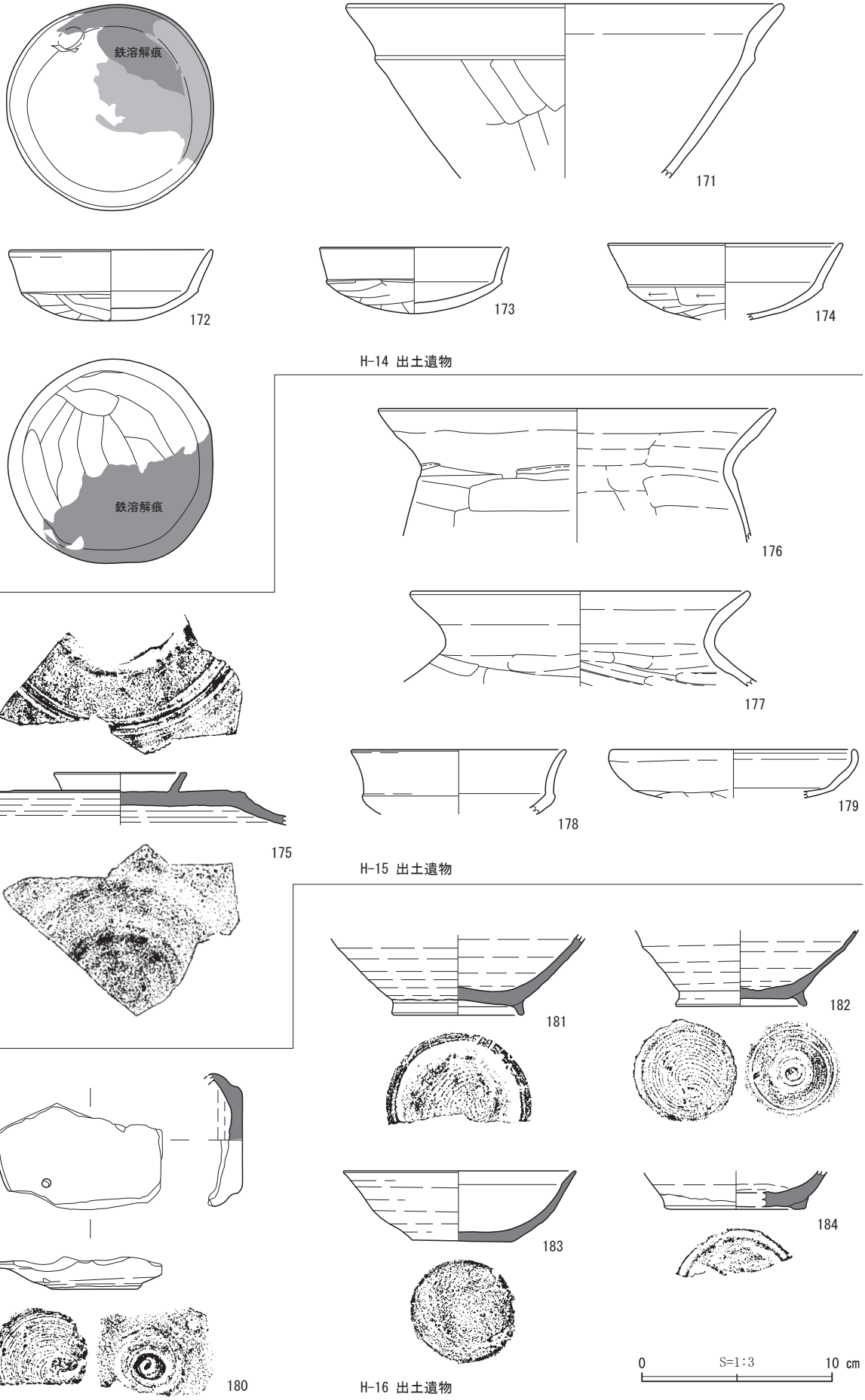


H-12 出土遺物

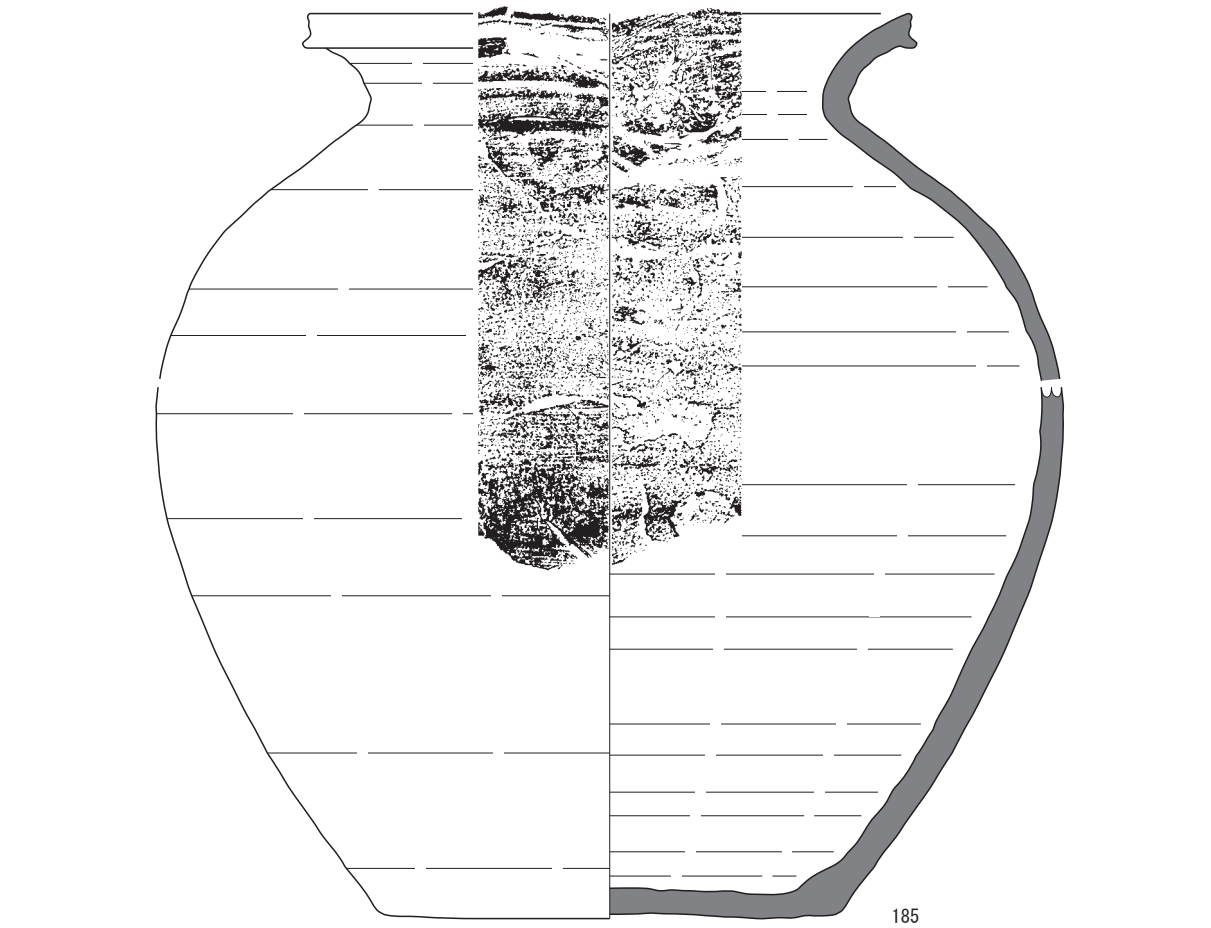
第 39 図　H-11･12 出土遺物



第 40 図　H-13 出土遺物

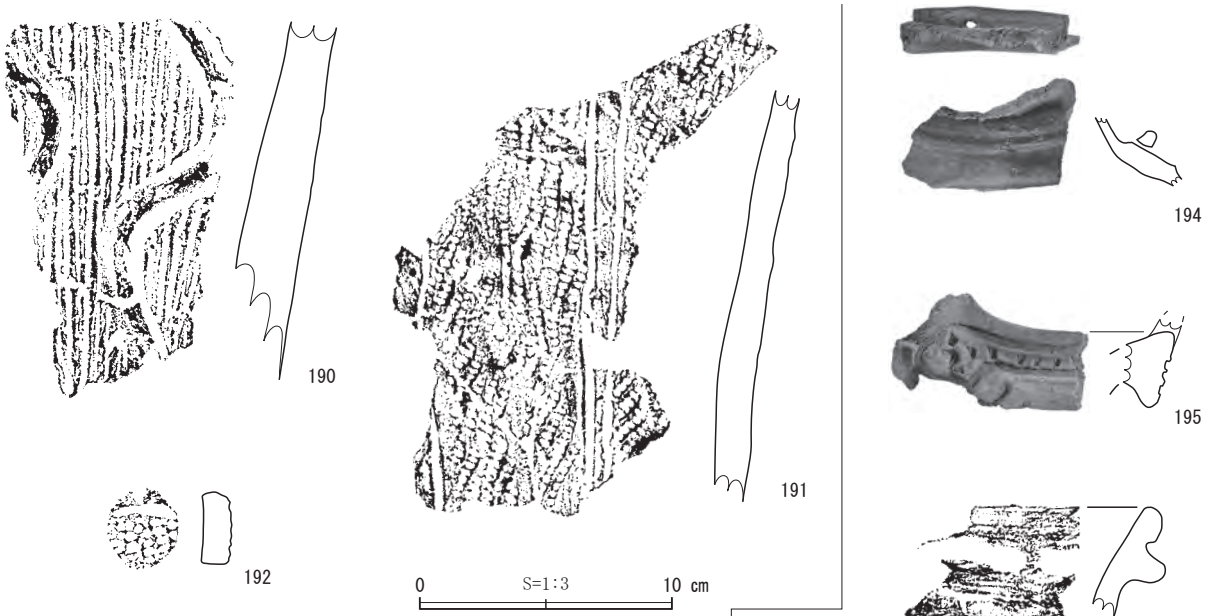


第 41 図　H-14･15･16 出土遺物



H-16 出土遺物

第 42 図　H-16 出土遺物

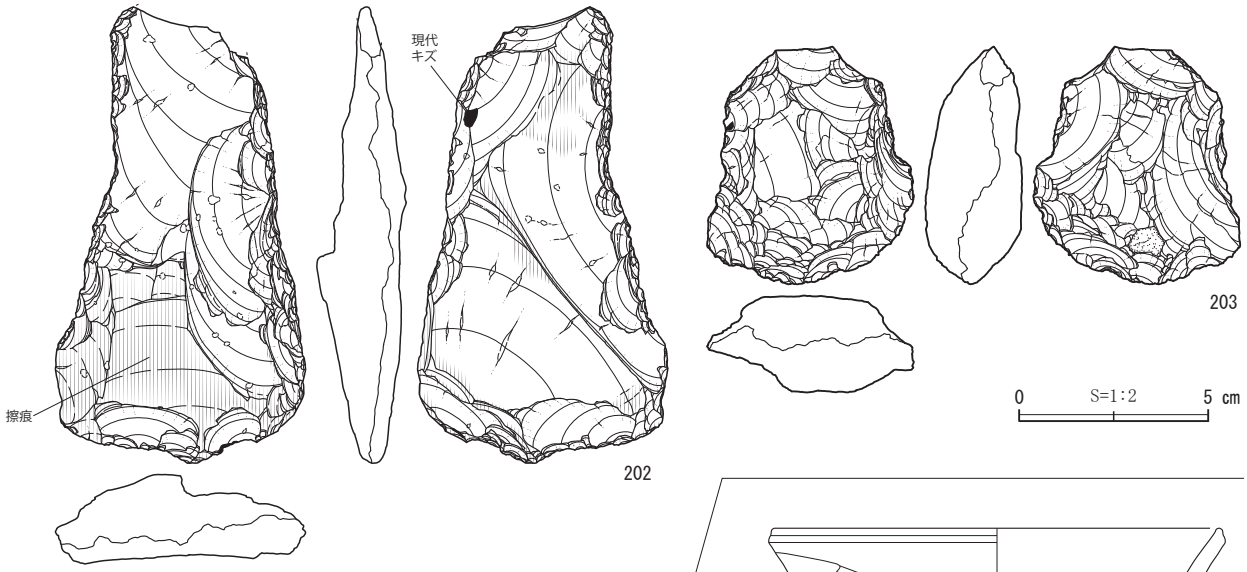


D-1 出土遺物

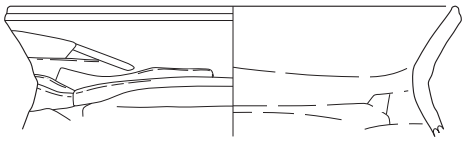
D-2 出土遺物

D-3 出土遺物

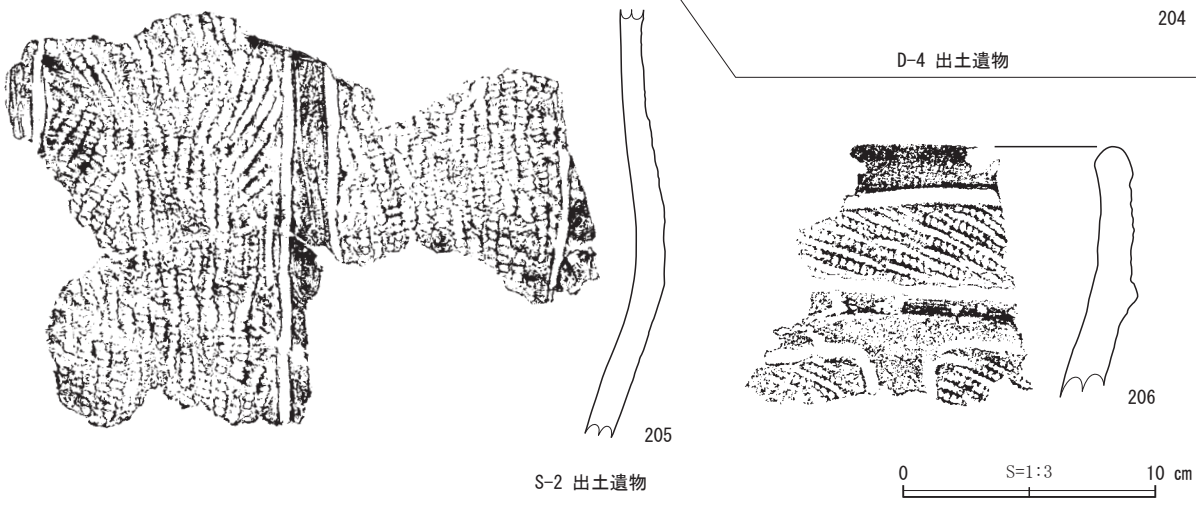
第 43 図　D-1･2･3 出土遺物



D-3 出土遺物

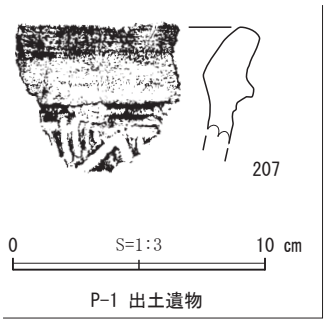


D-4 出土遺物

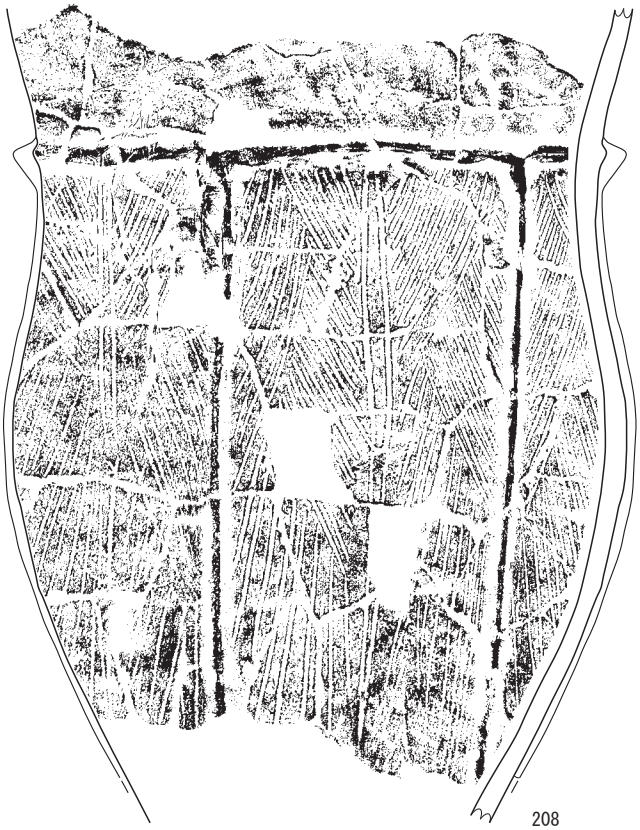


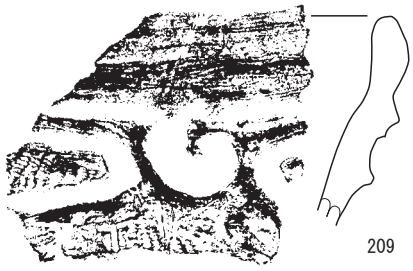
S-2 出土遺物

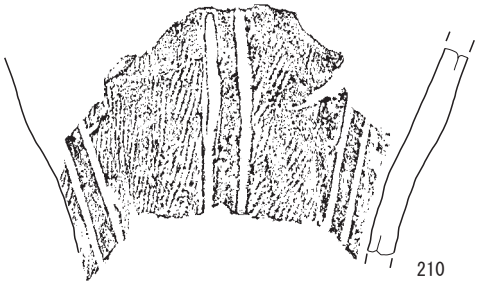
第 44 図　D-3･4、S-2 出土遺物

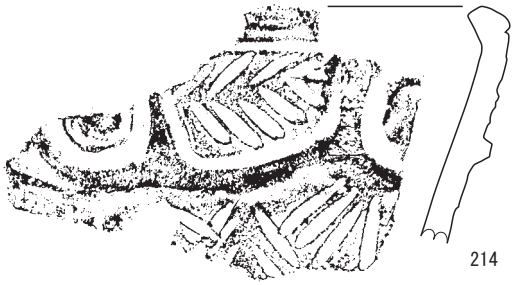


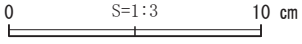
P-1 出土遺物









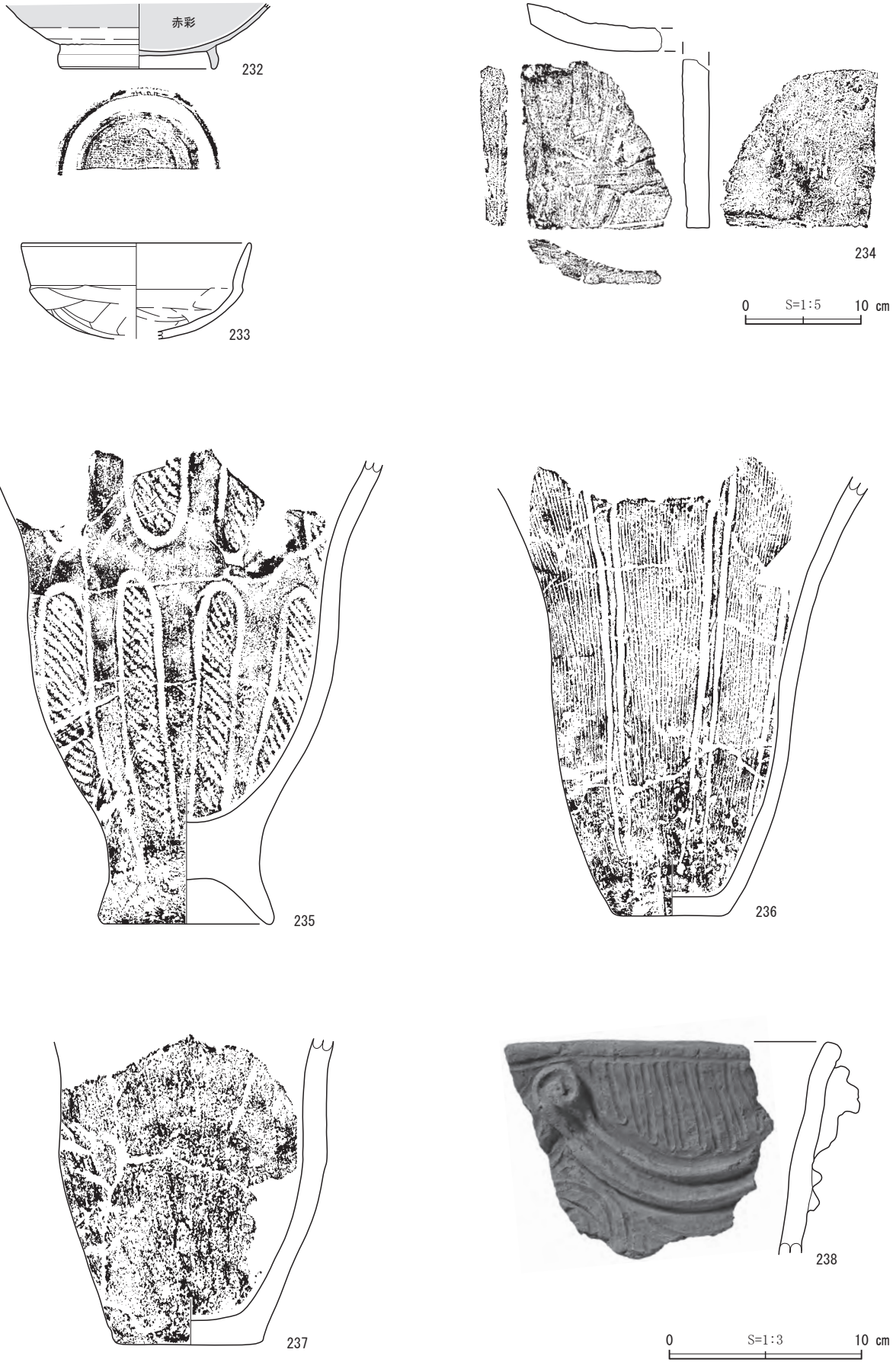


X-1 出土遺物

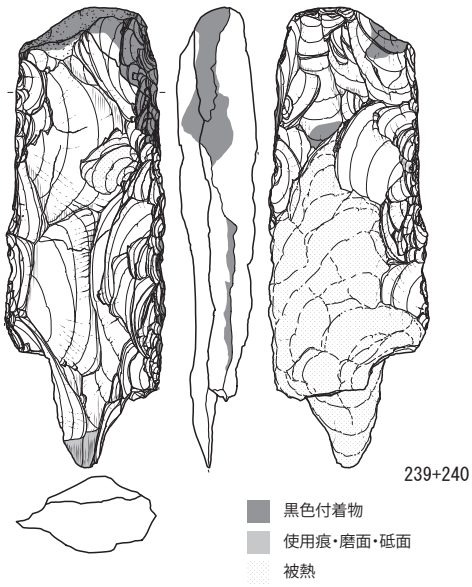
第 45 図　P-1、X-1 出土遺物

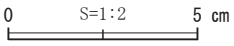
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
0
S=1:3
10 cm

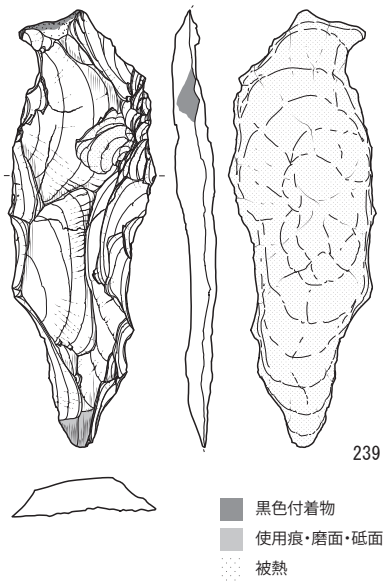
第 46 図　X-1 出土遺物

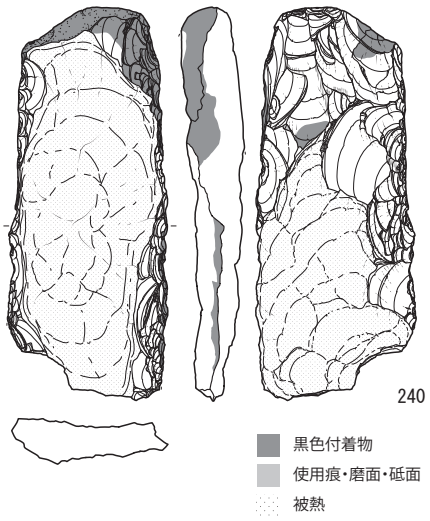


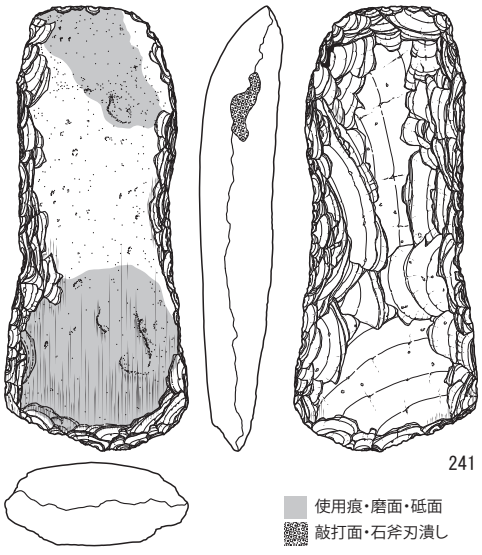
第 47 図　遺構外出土遺物

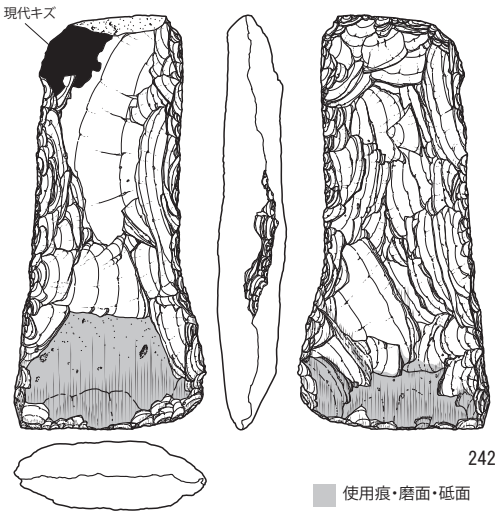












第 48 図　遺構外出土遺物

※ 63 ～ 66 は石製品（写真掲載）

第３表　出土遺物観察表

No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
1	縄文土器 深鉢	21.0	—	〈20.5〉	口～胴部	外 赤褐 内 明赤褐	石英・雲母・軽石・ 粗砂／普通	隆帯渦巻文・区画文　沈線文	J-1 No.1
2	縄文土器 深鉢	—	—	〈9.4〉	口～胴部 破片	外 にぶい赤褐 内 にぶい橙	石英・角閃石・軽 石・砂／良好	隆帯文　沈線区画文　区画内沈線	J-1No.12
3	縄文土器 深鉢	—	—	〈6.2〉	口縁部 破片	外 にぶい黄褐 内 明褐	角閃石・軽石・砂 良好	隆帯渦巻文　沈線区画文　区画内沈線	J-1No.5
4	縄文土器 深鉢	—	—	〈6.4〉	口縁部 破片	外 黒褐 内 褐灰	雲母・軽石・砂 良好	隆帯渦巻文　沈線文	J-1
5	縄文土器 深鉢	—	—	〈8.1〉	口縁部 破片	明赤褐	石英・雲母・砂 良好	隆帯渦巻文・区画文　区画内 RL ？	J-1
6	縄文土器 深鉢	—	—	〈7.5〉	口縁部 破片	外 にぶい黄褐 内 浅黄	砂 良好	沈線区画文　条線文	J-1
No.	種別	器種		計測値				石材、備考	注記
7	石製品	石核		長さ 21.75　幅 16.89　厚さ 11.33　重さ 4.18 g				黒曜石	J-1
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
8	縄文土器 深鉢	(50.0)	—	〈17.4〉	口～胴部	外 浅黄 内 黄灰	結晶片岩・石英・ 粗砂／普通	沈線文　LR	J-2 No.1
9	縄文土器 深鉢	—	—	〈7.4〉	口縁部 破片	明黄褐	雲母・軽石・砂 良好	隆帯区画文　区画内 RL	J-2No.5
10	縄文土器 深鉢	—	—	〈7.5〉	口縁部 破片	明黄褐	雲母・砂 良好	隆帯・沈線区画文　区画内 RL	J-2
11	縄文土器 深鉢	—	—	〈7.8〉	口縁部 破片	にぶい黄橙	角閃石・軽石・砂 良好	隆帯渦巻文・区画文　区画内沈線文	J-2
12	縄文土器 深鉢	—	—	〈7.7〉	胴部破片	外 橙 内 黒褐	角閃石・軽石・砂 良好	隆帯渦巻文　蛇行隆線文　沈線文	J-2No.3
No.	種別	器種		計測値				石材、備考	注記
13	石製品	打製石斧		長さ 46.0　幅 38.0　厚さ 13.6　重さ 31.23 g				黒色頁岩	J-2
14	石製品	多孔石		長さ 175.0　幅 172.0　厚さ 71.0　重さ 2290.0 g				粗粒輝石安山岩	J-2 F
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
15	縄文土器 深鉢	—	—	〈18.6〉	胴部	外 にぶい褐 内 にぶい橙	結晶片岩・石英・ 粗砂／普通	渦巻隆帯文　沈線区画文　沈線文	J-3 No.1
16	縄文土器 深鉢	—	—	〈15.2〉	胴部	明赤褐	軽石・粗砂 良好	沈線文　単節 RL ？	J-3 No.2
17	縄文土器 深鉢	—	—	〈4.8〉	口縁部 破片	外 黒 内 灰黄褐	石英・結晶片岩・ 粗砂／良好	隆帯文　RL	J-4
18	縄文土器 深鉢	—	—	〈8.3〉	胴部破片	外 黒褐 内 橙	石英・角閃石・砂 良好	隆帯文　付加条	J-4
19	縄文土器 浅鉢	—	—	〈3.9〉	口縁部 破片	にぶい褐	角閃石・軽石・砂 良好	赤彩　浮文？	J-4
20	土師器 小型甕	(16.8)	—	〈6.1〉	口～胴部 破片	灰黄	砂 普通	内外面：口縁ヨコナデ　体部ヘラナデ	J-4
21	羽釜 須恵質	(20.0)	—	〈9.8〉	口～胴部 破片	黄灰	雲母・砂 良好	外面：口～鍔部ヨコナデ　体部ヘラナデ 内面：口縁ヨコナデ　体部ヘラナデ	J-4
No.	種別	器種		計測値				石材、備考	注記
22	石製品	石皿		長さ 214.59　幅 259.59　厚さ 92.53　重さ 6000 g				粗粒輝石安山岩	J-4 F
23	石製品	不定形石器		長さ 47.5　幅 61.0　厚さ 15.5　重さ 41.55 g				黒色頁岩	J-4
24	石製品	多孔石		長さ 200.0　幅 226.5　厚さ 131.0　重さ 4040 g				粗粒輝石安山岩	J-4 F
25	石製品	多孔石		長さ 420.0　幅 263.0　厚さ 181.0　重さ 18800 g				粗粒輝石安山岩	J-4 F
No.	種別	長さ	幅	厚さ	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
26	瓦 平瓦	〈12.6〉	〈7.0〉	1.4	破片	表 黄灰 裏 にぶい黄	石英・砂 良好	表面：布目　面取り 裏面：カキ目　ヘラナデ	J-4
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
27	羽釜 須恵質	(22.0)	—	〈21.0〉	口～胴部 破片	外 灰 内 黄灰	石英・結晶片岩・ 砂／普通	外面：口～鍔部ヨコナデ　体部ヘラケズリ　内面：口縁ヨコナデ　体部ヘラナデ	H-1No.14・カマド
28	羽釜 土師質	—	7.0	〈14.6〉	胴～底部	外 明赤褐 内 にぶい橙	石英・結晶片岩・ 角閃石・砂／良好	外面：体部上位ヘラナデ　体部下位ヘラケズリ　底部ヘラナデ　内面：ヘラナデ	H-1No.10・12・13・15
29	須恵器 壺	—	—	〈4.1〉	肩部破片	外 灰黄 内 黄灰	長石・砂 良好	外面：肩部浅い沈線　ヘラナデ 内面：ヘラナデ	H-1 近
30	須恵器 埦	16.0	7.1	6.3	4/5	外 灰オリーブ 内 オリーブ黒	長石・雲母・砂 普通	外面：回転糸切り　付高台　右回転 内面：漆 or 油煙？	H-1No.9

No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
31	須恵器 埦	(14.6)	(7.4)	5.4	口～底部 1/3	にぶい黄褐	石英・雲母・軽石 ・砂／良好・酸化	高台取付部ヨコナデ　糸切り（静止）　付高台	H-1No.1
32	須恵器 杯	(12.0)	(7.2)	3.7	口～底部 破片	外 黄灰 内 灰	長石・砂 良好	外面：口～体部ヘラナデ　底部ヘラケズリ後ナデ　内面：ヘラナデ	H-1 近
33	灰釉陶器 皿	—	(6.4)	〈2.0〉	体～底部 破片	釉：灰オリーブ 地：灰白	雲母・細砂 良好	外面：ヘラナデ　付高台 内面：ヘラナデ	H-1No.7
34	土師器 甕	(20.0)	—	〈7.3〉	口～胴部 破片	外 黒褐 内 にぶい赤褐	長石・角閃石・砂 良好	外面：口縁ナデ　体部ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	H-1No.11
35	縄文土器 深鉢	—	—	〈8.2〉	口縁部 破片	外 黒褐 内 暗赤褐	雲母・砂 普通	隆帯文　条痕文	H-1 近
No.	種別	長さ	幅	厚さ	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
36	瓦 平瓦	〈12.9〉	〈9.6〉	1.6	破片	表 褐灰 裏 灰黄褐	石英・雲母・砂 良好	表面：布目 裏面：ヘラナデ	H-1 近
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
37	須恵器 甕	(19.0)	—	〈8.6〉	口～胴部 破片	にぶい黄橙	雲母・細砂 良好	内外面：ヨコナデ	H-2No.6
38	羽釜 須恵質	(20.0)	7.2	25.6	口～底部 1/2	にぶい黄橙	石英・砂 良好・中性	外面：ヨコナデ（ヘラ痕顕著）　底部ヘラナデ　内面：ヨコナデ	H-2No.11・S-1
39	羽釜 土師質	(23.0)	—	〈15.4〉	口～胴部	外 明褐 内 灰褐	石英・雲母・砂 普通	内外面：ヨコナデ	H-No.10・13・16・18・カマド
40	須恵器 甕	—	—	〈5.1〉	肩部破片	灰黄	長石・砂 良好	外面：横位条線 内面：ヘラ掻き取り（柾目）	H-2 近
41	須恵器 足高高台 埦	—	(10.9)	〈6.3〉	体～底部	外 灰オリーブ 内 灰黄	石英・雲母・結晶 片岩・砂／良好	外面：体部・高台ヨコナデ　底部ヘラナデ（柾目） 内面：ヨコナデ　油煙？　右回転	H-2No.4・15
42	須恵器 埦	(12.9)	6.9	4.6	口～底部 1/3	外 にぶい黄 内 暗灰黄	石英・結晶片岩・ 砂／良好・酸化	外面：底部ヘラナデ　付高台　右回転	H-2 近
43	須恵器 埦	—	(11.0)	〈2.2〉	底部破片	黄灰	長石・砂 普通	回転糸切り　付高台	H-2 近
44	須恵器 杯	(13.4)	(9.0)	3.6	口～底部 破片	外 灰白 内 灰	雲母・細砂 良好	底部回転糸切り後外周ヘラナデ（柾目）	H-2 近
45	須恵器 杯	(13.3)	5.8	3.7	口～底部 1/3	灰黄褐	雲母・細砂 普通	内外面：漆 or 油煙　回転糸切り（二重）	H-2 近
46	須恵器 高杯	—	—	〈5.6〉	脚部	灰	黒色粒・砂 良好	外面：ヘラナデ　太い条痕（半周） 内面：ナデ　右回転	H-2 近
47	須恵器 皿	—	(6.8)	〈1.9〉	底部破片	地 黄灰 釉 灰オリーブ	細砂 良好	外面：一部自然釉　回転糸切り　付高台 内面：自然釉	H-2 近
48	灰釉陶器 皿	—	(8.0)	〈1.6〉	底部破片	灰白	微砂 良好	三日月高台　付高台	H-2 近
No.	種別	長さ	幅	厚さ	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
49	瓦 丸瓦	〈16.8〉	〈12.5〉	1.9	破片	にぶい黄褐	石英・角閃石・粗 砂／良好・酸化	表面：ヘラナデ　裏面：布目　側面：面取り	H-2No.1
50	瓦 平瓦	〈11.6〉	〈12.7〉	1.7	破片	表 灰黄 裏 にぶい褐	石英・雲母・粗砂 良好・酸化	表面：布目　裏面：縄目　側面：面取り	H-2 近
51	瓦 平瓦	〈10.5〉	〈11.0〉	1.8	破片	灰黄褐	石英・角閃石・粗 砂／良好・酸化	表面：布目　裏面：ヘラナデ　側面：面取り	H-2No.15
52	瓦 平瓦	〈21.8〉	〈14.7〉	2.6	破片	青灰	粗砂 良好・還元	表面：布目　裏面：ヘラナデ　側面：面取り	H-2No.12
53	瓦 平瓦	〈6.7〉	〈8.9〉	1.8	破片	にぶい黄褐	石英・角閃石・粗 砂／良好・酸化	表面：布目　裏面：ヘラナデ　側面：面取り	H-2No.3
No.	種別	長さ	径	孔径	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
54	土製品 羽口	〈11.1〉	(7.4)	(2.8)	破片	にぶい黄橙	石英・砂 普通	溶解物付着	H-2 近
No.	種別	器種	計測値					石材、備考	注記
55	鉄滓	—	全長 7.1　幅 5.0　厚さ 7.0　重さ 268g						H-2 近
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
56	縄文土器 深鉢	—	—	〈7.3〉	口縁部 破片	にぶい黄褐	角閃石・砂 普通	渦巻突起　隆帯・沈線区画文　区画内絡条体？	H-2 近
57	縄文土器 浅鉢？	—	—	〈3.7〉	口縁部 破片	外 にぶい黄 内 黒	長石・雲母・砂 良好	内外面：赤彩　無文	H-2

No.	種別	器種		計測値				石材、備考	注記
58	石製品	打製石斧		長さ 40.0　幅 33.0　厚さ 17.5　重さ 16.37 g				黒色頁岩	H-2 近
59	石製品	打製石斧		長さ 57.0　幅 39.0　厚さ 16.0　重さ 56.34 g				黒色頁岩	H-2 近
60	石製品	打製石斧		長さ 96.97　幅 43.02　厚さ 19.32　重さ 109.0 g				黒色頁岩	H-2 近
61	石製品	打製石斧		長さ 73.0　幅 36.0　厚さ 18.0　重さ 68.41 g				黒色頁岩	H-2 近
62	石製品	打製石斧		長さ 113.32　幅 45.59　厚さ 16.73　重さ 79.83 g				黒色頁岩	H-2 近
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
63	土師器 S 字甕	15.0	—	〈12.3〉	口～胴部	外 橙 内 にぶい黄橙	石英・雲母・砂 普通	外面：口縁ヨコナデ　体部ハケ目 内面：口縁ヨコナデ　体部ヘラナデ	H-3No.1・2・H-3
64	土師器 S 字甕	(13.6)	—	〈5.0〉	口～胴部	にぶい黄橙	雲母・砂 普通	外面：口縁ヨコナデ　体部ハケ目 内面：口縁ヨコナデ　体部ヘラナデ	H-3No.3・H-3
65	土師器 S 字甕	—	9.8	〈8.2〉	胴～台部	にぶい黄橙	石英・角閃石・砂 良好	外面：ヘラナデ　部分的にハケ目が残る 内面：ヘラナデ	H-3
66	土師器 S 字甕	—	(9.4)	〈7.4〉	台部	にぶい黄橙	雲母・砂 良好	外面：体部上位ハケ目　体部下位ナデ 内面：指ナデ	H-3No.7
67	土師器 坩	10.1	—	〈6.7〉	2/3	にぶい橙	雲母・砂 良好	内外面：ミガキ	H-3
68	縄文土器 鉢	(22.8)	—	〈7.5〉	口～胴部 破片	外 にぶい橙 内 にぶい赤褐	角閃石・軽石・砂 良好	外面：無文　一部赤彩が残る 内面：口縁横位沈線	H-3 掘
69	羽釜 須恵質	(23.0)	—	〈6.8〉	口～胴部 破片	外 黒褐 内 暗灰黄	雲母・砂 良好	内外面：ヨコナデ　いぶし 断面酸化	H-4
70	土師器 甕	15.7	—	〈11.1〉	口～胴部	橙	軽石・砂 良好	内外面：口縁ヨコナデ　体部ヘラナデ 内面接合痕顕著	H-4No.11
71	土師器 小型甕	(12.0)	—	〈6.3〉	口～胴部 破片	外 にぶい褐 内 赤褐	角閃石・軽石・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ　頸部ヘラナデ　体部ヘラケズリ　内面：口縁上位ヨコナデ　口縁下位ヘラナデ後ミガキ　体部ヘラナデ	H-4 掘
72	土師器 甑	—	(8.0)	〈15.0〉	胴～底部	外 明黄褐 内 橙	雲母・軽石・砂 良好	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	H-4No.1
73	土師器 甕	16.7	—	〈4.6〉	口～頸部	にぶい黄褐	角閃石・軽石・砂 普通	内外面：ヨコナデ	H-4・H-4 掘
74	土師器 坏	(16.0)	—	〈4.6〉	口～体部 破片	外 にぶい赤褐 内 黒褐	雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ　体部上位ヘラナデ 体部下位ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ　体部ミガキ	H-4 掘
75	土師器 坏	12.1	丸底	6.4	4/5	にぶい赤褐	石英・角閃石・砂 普通	外面：口縁ヨコナデ　体～底部ヘラケズリ　内面：口縁ヨコナデ　体～底部ヘラナデ	H-4No.10・掘
76	土師器 坩？	—	丸底	〈5.7〉	胴～底部	外 橙 内 褐	石英・雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ　体～底部ヘラケズリ 内面：口縁凍結剥離　体～底部ミガキ	H-4No.2
77	土師器 坏	(11.0)	丸底	4.3	口～底部 1/4	にぶい赤褐	雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ　体～底部ヘラケズリ　内面：ミガキ	H-4No.8
78	縄文土器 深鉢	—	—	〈7.7〉	口縁部 破片	外 黒褐 内 暗褐	雲母・角閃石・軽石・砂／良好	隆帯渦巻文・区画文　区画内 RL	H-4
No.	種別	器種		計測値				石材、備考	注記
79	石製品	石皿		長さ 214.59　幅 259.59　厚さ 90.70　重さ 3360 g				粗粒輝石安山岩	H-4
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
80	須恵器 大甕	—	—	〈26.4〉	胴部破片	灰白	長石・砂 良好	外面：平行叩き後ヘラナデ 内面：叩き後ヘラナデ	H-5No.2
81	羽釜 土師質	(19.6)	—	〈11.1〉	口～胴部 破片	にぶい黄	石英・雲母・砂 良好・弱酸化	内外面：ヨコナデ	H-5
82	須恵器 蓋	(18.4)	—	〈2.3〉	口縁部 破片	灰	長石・砂 良好	内外面：ヨコナデ	H-5
83	須恵器 蓋	(17.2)	—	〈1.1〉	口縁部 破片	灰	長石・砂 良好		H-5 カマド
84	土師器 甕	(21.0)	—	〈4.8〉	口～頸部 破片	にぶい褐	結晶片岩・雲母・砂／良好	外面：口縁ヨコナデ　頸部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ　体部ヘラナデ　凍結剥離	H-5No.7
85	須恵器 坏	(12.0)	(6.2)	3.5	口～底部 1/2	灰	長石・砂 良好	回転糸切り後回転ヘラケズリ　右回転	H-5No.6
86	須恵器 壺	—	(9.3)	〈1.3〉	底部破片	灰白	砂 良好	外面：底部回転ヘラケズリ　右回転	H-5
No.	種別	器種		計測値				石材、備考	注記
87	鉄滓	碗形		全長 12.2　幅 8.6　厚さ 3.0　重さ 55g					H-5
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
88	須恵器 長頸壺	—	—	〈8.0〉	頸部	浅黄	石英・雲母・砂 普通	内外面：ヨコナデ	H-6No.4

No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
89	須恵器 壺	—	—	〈8.7〉	胴～底部	黄灰	砂 良好	外面：体部上位ヨコナデ　体部下位回転ヘラケズリ　底部ヘラナデ　付高台 内面：漆？付着　右回転	H-6
90	須恵器 甕	(18.5)	15.2	30.4	口～底部	灰	石英・結晶片岩・粗砂／良好	外面：口～胴部ヨコナデ　体部下端～底部ヘラケズリ　内面：口～体部ヨコナデ　体部下半に叩き痕残す　底部回転ヘラナデ　体部下位に凹みあり	H-6・H-6No.8・9・12・H-16
91	須恵器 小型甕	(10.4)	5.6	〈9.1〉	口～底部 1/2	外 にぶい褐 内 橙	石英・砂 良好／土師質	内外面：ヨコナデ　回転糸切り　右回転	H-6・H-16
92	須恵器 大甕	—	—	〈14.1〉	頸～胴部 破片	外 褐灰 内 灰オリーブ	細砂 良好	外面：頸部下位波状文　凍結剥離 内面：ヨコナデ	H-6
93	須恵器 甕	—	—	〈14.5〉	口～胴部 破片	外 灰 内 にぶい黄	石英・細砂 良好	外面：くし描き波状文 内面：指ナデ	H-6
94	須恵器 蓋	—	—	〈1.3〉	ツマミ部 破片	灰	細砂 良好	ボタン状	H-6 カマド掘
95	灰釉陶器 埦	(14.0)	(7.0)	4.0	口～底部	地 灰白 釉 浅黄	精製 良好	外面：口～体部浸け掛け　体下位～底部ヘラケズリ　付高台 内面：上半浸け掛け	H-6
96	須恵器 大甕	—	—	〈26.0〉	胴部破片	灰黄	長石・軽石・砂 普通	外面：ヘラナデ　凍結剥離 内面：叩き　あて具痕	H-6
97	須恵器 有鍔台付鉢	—	—	〈9.2〉	底～台部	外 浅黄 内 灰黄	石英・粗砂 良好	外面：ヘラナデ　底部・台部の接合部に鍔貼付け　台部に3単位脚部方形透し・鋸歯状線刻　内面：ヘラナデ	H-6 No.5
98	須恵器 坏	—	7.3	〈3.4〉	体～底部	外 明赤褐 内 にぶい黄橙	石英・結晶片岩・砂／良好	外面：口～体部ヨコナデ　底部ヘラナデ付高台　内面：ヘラナデ	H-6
99	須恵器 坏	—	5.8	〈2.4〉	体～底部	灰オリーブ	雲母・細砂 良好	外面：ヘラナデ　付高台　右回転	H-6
100	須恵器 坏	11.5	6.2	3.7	ほぼ完形	外 黒 内 浅黄	石英・砂 良好・中性	回転糸切り　いぶし　土師質　右回転	H-6No.2
101	土師器 埦	14.1	8.4	6.0	ほぼ完形	外 にぶい黄橙 内 黒	石英・雲母・砂 普通	外面：口～体部ヨコナデ　底部ヘラケズリ　付高台 内面：ヘラナデ後ミガキ　内黒	H-6No.6
102	土師器 壷	—	—	〈17.9〉	口辺～胴部	外 浅黄 内 灰	石英・砂 普通	外面：口～頸部ヨコナデ　肩～体部ヘラナデ　内面：ヘラナデ	H-6No.1・3・4・H-6
103	土師器 甕	(21.8)	—	〈4.1〉	口～頸部 破片	明赤褐	雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ　体部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ　体部ヘラナデ	H-6
No.	**種別**	**長さ**	**幅**	**厚さ**	**残存**	**色調**	**胎／焼成**	**内・外面の特徴**	**注記**
104	瓦 丸瓦	〈9.0〉	〈11.4〉	1.4	破片	にぶい黄橙	雲母・砂 良好	表面：ヘラナデ　裏面：布目	H-6
105	瓦 平瓦	〈12.1〉	〈16.2〉	2.3	破片	橙	石英・雲母・粗砂 普通	表面：布目　裏面：ヘラナデ	H-6No.12
106	瓦 平瓦	〈17.8〉	〈12.8〉	3.0	破片	明赤褐	石英・結晶片岩・小礫・粗砂／良好	表面：布目　裏面：柾目叩き	H-6No.9
107	瓦 平瓦	〈19.5〉	〈21.7〉	2.1	破片	褐灰	石英・小礫・粗砂 良好	表面：布目　面取り　裏面：ヘラナデ	H-6
108	瓦 平瓦	〈12.2〉	〈13.5〉	2.1	破片	橙	石英・粗砂 良好	表面：布目　裏面：ヘラナデ	H-6
No.	**種別**	**口径**	**底径**	**器高**	**残存**	**色調**	**胎／焼成**	**内・外面の特徴**	**注記**
109	縄文土器 深鉢	21.9	—	〈18.6〉	口～胴部	外 橙 内 にぶい黄橙	石英・軽石・粗砂 普通	山状突起　0段多条 orLR？　マメツ	H-6No.13
110	縄文土器 浅鉢	(18.6)	(14.0)	7.0	口～底部	外 明褐 内 明赤褐	石英・角閃石・粗砂／普通	無文　擬似口縁	H-6
111	縄文土器 浅鉢	—	—	〈3.7〉	口縁破片	外 黒褐 内 灰黄褐	角閃石・砂 良好	内外面：赤彩残す	H-6 掘
112	縄文土器 深鉢	—	—	〈10.3〉	胴部破片	外 にぶい黄橙 内 にぶい橙	角閃石・砂 良好	隆帯文　沈線文　連続刺突　単節 RL？	H-6
113	縄文土器 深鉢	—	—	〈10.2〉	胴部破片	外 明黄褐 内 にぶい黄橙	石英・雲母・砂 良好	縦位沈潜　多条沈線	H-6
114	縄文土器 深鉢	—	—	〈8.5〉	口縁部 破片	にぶい黄橙	雲母・砂 良好	渦巻文　隆帯・沈線区画文　区画内多条沈線	H-6
No.	**種別**	**器種**		**計測値**				**石材、備考**	**注記**
115	石製品	石器剥片		長さ 41.0　幅 48.0　厚さ 12.0　重さ 32.19 g				黒色頁岩	H-6
No.	**種別**	**口径**	**底径**	**器高**	**残存**	**色調**	**胎／焼成**	**内・外面の特徴**	**注記**
116	土師器 坏	(13.0)	—	〈4.3〉	口～体部 破片	赤褐	雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ　体部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ　体部ミガキ	H-7

No.	種別	長さ	幅	厚さ	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
117	瓦 平瓦	〈7.6〉	〈7.8〉	2.1	破片	黄灰	石英・粗砂 良好	表面：布目　裏面：ヘラナデ	H-7
118	瓦 平瓦	〈6.5〉	〈7.3〉	1.8	破片	表 にぶい黄橙 裏 灰	石英・雲母・砂 良好	表面：布目　裏面：ヘラナデ　いぶし 断面酸化	H-7 掘
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
119	縄文土器 深鉢	—	—	〈7.1〉	把手	外 にぶい橙 内 にぶい黄橙	石英・砂 良好	隆帯渦巻文　眼鏡状把手　横位 RL	H-7
120	縄文土器 深鉢	—	—	〈6.1〉	飾部突起？	褐	雲母・軽石・砂 良好	条痕文　貼付文　諸磯 C	H-7
121	縄文土器 深鉢	—	—	4.3	飾り部 破片	にぶい黄橙	砂 良好	貼付文　条線文　諸磯 C	H-7
No.	種別	器種		計測値				石材、備考	注記
122	石製品	打製石斧		長さ 175.01　幅 59.99　厚さ 23.81　重さ 224.0 g				黒色安山岩	H-7
123	石製品	石核		長さ 30.51　幅 20.31　厚さ 16.93　重さ 10.34 g				黒曜石	H-7 掘
124	石製品	楔形石器		長さ 39.77　幅 36.07　厚さ 9.34　重さ 14.83 g				黒色頁岩	H-7
125	石製品	打製石斧		長さ 70.0　幅 58.0　厚さ 13.0　重さ 80.93 g				黒色頁岩	H-7
126	石製品	打製石斧		長さ 71.0　幅 43.0　厚さ 16.0　重さ 69.15 g				黒色頁岩	H-7
127	石製品	打製石斧		長さ 65.0　幅 52.0　厚さ 18.5　重さ 89.68 g				ホルンフェルス	H-7
128	石製品	打製石斧		長さ 70.0　幅 44.0　厚さ 19.0　重さ 86.15 g				黒色頁岩	H-7
129	石製品	不定形石器		長さ 72.0　幅 80.0　厚さ 21.0　重さ 105.0 g				黒色頁岩	H-7
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
130	土師器 甕	(18.2)	—	〈5.0〉	口～胴部 破片	にぶい黄橙	結晶片岩・雲母・ 砂／良好	外面：口縁ヨコナデ　肩部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ　体部ヘラナデ	H-8
131	土師器 台付甕	—	7.2	〈3.9〉	台部	外 暗オリーブ褐 内 黄褐	石英・雲母・粗砂 良好	内外面：ハケ目	H-8 No. 1
No.	種別	長さ	幅	厚さ	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
132	瓦 平瓦	〈11.8〉	〈15.6〉	1.4	破片	表 にぶい黄 裏 浅黄	石英・砂 良好	表面：ヘラナデ　面取り　裏面：縄目叩き	H-8 No. 2
133	瓦 平瓦	〈4.5〉	〈5.7〉	1.2	破片	褐灰	砂 良好	表面：カキ目　裏面：叩き後ヘラナデ	H-8
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
134	須恵器 大甕	(30.3)	—	〈14.2〉	口～胴部	外 橙 内 灰黄	結晶片岩・粗砂 良好	外面：凍結剥離 内面：肩部ヘラナデ　凍結剥離	H-9 No. 2・3
135	灰釉陶器 埦	15.4	7.7	5.2	4/5	地 灰白 釉 オリーブ黄	緻密 良好	外面：体・底部墨書　高台貼付　底部回転ヘラケズリ　浸け掛け　底・体部墨書「丙」	H-9No.1・H-9
No.	種別	器種		計測値				石材、備考	注記
136	鉄製品	釘		全長 6.2　幅 0.6　厚さ 0.5　重さ 9.76g				頭部欠	H-9 No. 4
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
137	縄文土器 深鉢	—	—	〈6.7〉	胴部破片	外 橙 内 にぶい赤褐	軽石・砂 良好	沈線文　絡条体	H-9
138	縄文土器 深鉢	—	—	〈6.7〉	口～胴部 破片	外 にぶい黄橙 内 にぶい黄褐	石英・粗砂 良好	隆帯渦巻文・区画文　区画内 LR	H-9
No.	種別	器種		計測値				石材、備考	注記
139	石製品	打製石斧		長さ 56.50　幅 59.40　厚さ 16.11　重さ 56.93 g				黒色安山岩	H-9 No. 5
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
140	須恵器 埦	(16.6)	(12.0)	6.3	口～底部 破片	灰オリーブ	細砂 良好	付高台	H-10 No. 1
141	土師器 甕	(24.0)	—	〈8.3〉	口～胴部 破片	外 橙 内 にぶい赤褐	雲母・細砂 良好	内外面：口縁ヨコナデ　体部ヘラナデ	H-4・H-10
142	須恵器 坏	9.2	4.6	2.9	9/10	外 浅黄 内 暗灰黄	石英・砂 良好・弱酸化	内外面：ナデ　回転糸切り　右回転　土師質	H-11 No. 7
143	須恵器 ハソウ？	—	—	〈1.5〉	肩部破片	外 黒 内 灰	細砂 良好	外面：沈線一条　連続刺突列点文　自然釉 内面：ヘラナデ	H-11
144	灰釉陶器 埦	(15.7)	(7.5)	4.6	口～底部	地 灰白 釉 灰オリーブ	精製 良好	外面：上半浸け掛け　体部下端ヘラケズリ 三日月高台貼付　付高台　内面：底部無釉	H-11 No. 1
145	灰釉陶器 埦	(15.0)	—	〈4.0〉	口～体部 破片	地 灰白 釉 灰黄	精製 良好	内外面：下位無釉	H-11 No. 3
146	灰釉陶器 埦	(14.0)	—	〈3.6〉	口～体部 破片	地 灰白 釉 灰オリーブ	精製 良好	内外面：口唇部無釉	H-11 掘
147	— 盤状坏	(14.0)	(11.0)	3.0	口～底部 破片	外 にぶい黄橙 内 明褐	石英・砂・赤色スコリア／普通・酸化	外面：体部ロクロナデ　ケズリ　底部ヘラケズリ　赤彩　　内面：ヨコナデ　赤彩	H-11 掘

No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
148	土師器 坏	(12.9)	—	〈3.9〉	口～底部 破片	外 にぶい黄褐 内 にぶい褐	雲母・結晶片岩・ 砂／良好	外面：口縁ヨコナデ　底部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ　底部ヘラナデ	H-11
No.	種別	長さ	幅	厚さ	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
149	瓦 軒丸瓦	〈6.2〉	〈5.6〉	1.6	破片	青黒	石英・粗砂 良好・還元	表面：重弁蓮華文　裏面：布目　いぶし	H-11 No.9
150	瓦 丸瓦	〈19.5〉	〈9.1〉	1.2	破片	橙	石英・粗砂 良好・酸化	表面：ヘラナデ　裏：布目	H-11 No.17
151	瓦 平瓦	〈16.5〉	〈12.9〉	2.2	破片	灰	石英・雲母・粗砂 良好・還元	表面：布目　面取り　裏面：ヘラナデ	H-11 No.5
152	瓦 平瓦	〈11.5〉	〈11.6〉	1.9	破片	黒	石英・粗砂 良好・還元	表面：ヘラナデ　面取り　裏面：縄目 いぶし	H-11
153	瓦 平瓦	〈14.9〉	〈12.3〉	1.8	破片	灰黄	石英・粗砂 良好	表面：布目　面取り　裏面：ヘラナデ	H-11 No.2
154	瓦 平瓦	〈7.8〉	〈10.6〉	1.9	破片	灰白	石英・粗砂 良好・還元	表面：布目　面取り　裏面：ヘラナデ	H-11 掘
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
155	縄文土器 深鉢	—	—	〈4.0〉	口縁部 破片	外 にぶい赤褐 内 黒褐	角閃石・砂 良好	沈線区画文　絡条体RL？	H-11
No.	種別	器種		計測値				石材、備考	注記
156	石製品	打製石斧		長さ 89.09　幅 46.81　厚さ 19.94　重さ 63.05 g				黒色頁岩	H-11 掘
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
157	土師器 甕	—	—	〈3.7〉	頸～胴部 破片	褐	雲母・粗砂 良好	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	H-12
158	土師器 甕	—	—	〈5.3〉	胴部破片	外 にぶい赤褐 内 にぶい黄褐	雲母・細砂 良好	外面：ハケ目 内面：ヘラナデ	H-12
159	須恵器 甕	—	—	〈8.7〉	胴部破片	灰黄	長石・砂 良好	外面：横位くし描き条線 内面：弧状平行叩き	H-13 No.1
160	土師器 坏	12.3	丸底	4.5	口～底部 1/2	外 橙 内 にぶい黄橙	石英・結晶片岩・ 軽石・砂／良好	外面：口縁ヨコナデ　底部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ	H-13 No.29
161	土師器 坏	(11.0)	丸底	3.4	口～底部 1/4	橙	石英・角閃石・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ　底部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ	H-13 No.2
162	土師器 坏	10.8	丸底	3.1	完形	橙	石英・角閃石・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ　底部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ	H-13 No.4
163	土師器 坏	10.2	丸底	3.4	2/3	橙	石英・雲母・砂 良好	内外面：マメツ	H-13 No.2・3
164	土師器 坏	10.6	丸底	3.6	ほぼ完形	外 にぶい橙 内 橙	石英・雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ　底部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ　底部ヘラナデ	H-13 No.8
165	土師器 埦	(20.0)	丸底	7.4	口～底部 1/4	橙	石英・雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ　体～底部ヘラケズリ　内面：口縁ヨコナデ　体～底部ヘラナデ	H-13 No.7・12
166	土師器 甕	(20.6)	—	〈21.2〉	口～胴部	外 橙 内 にぶい橙	雲母・砂 普通	外面：口縁ヨコナデ　体部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ　胴部ヘラナデ	H-13 No.9・ 10・12・13
167	土師器 長胴甕	—	—	〈19.1〉	頸～胴部 破片	明褐	結晶片岩・粗砂 普通	外面：ヘラケズリ 内面：ヘラナデ	H-13 No.5・6
168	縄文土器 深鉢	—	—	3.4	飾り部 破片	暗褐	雲母・砂 普通	貼付文　条線文　諸磯C	H-13D4
169	縄文土器 浅鉢	—	—	〈5.2〉	胴部破片	外 明赤褐 内 橙	石英・軽石・砂 良好	沈線文	H-13No.11
170	縄文土器 浅鉢	—	—	〈6.8〉	胴部破片	橙	石英･角閃石･軽石･ 砂／良好	隆帯渦巻文・区画文　区画内沈線	H-13 掘
171	土師器 鉢 or 甑	(23.0)	—	〈9.2〉	口～胴部 破片	外 浅黄橙 内 にぶい黄橙	石英・角閃石・粗 砂／普通	外面：口縁ヨコナデ　体部ヘラケズリ 内面：ヘラナデ　マメツ	H-14 No.2
172	土師器 坏	10.8	丸底	3.8	完形	橙	砂 普通	外面：口縁ヨコナデ　底部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ　底部指ナデ？　火ぶくれ　鉄溶解痕	H-14 No.1
173	土師器 坏	(10.0)	丸底	3.5	口～底部 1/4	橙	雲母・砂 普通	外面：口縁ヨコナデ　底部ヘラケズリ	H-14
174	土師器 坏	(12.4)	丸底	〈4.1〉	口～底部 破片	にぶい黄橙	雲母・砂 普通	外面：口縁ヨコナデ　底部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ	H-14
175	須恵器 蓋	(7.0)	—	〈2.9〉	天～口辺 部	にぶい黄橙	石英・砂 良好	外面：天井部回転ヘラケズリ　ツマミ貼付　内面：ヨコナデ　右回転	H-15 近

No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
176	土師器 甕	(21.0)	—	〈7.0〉	口～胴部 破片	橙	石英・角閃石・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ　頸部ヘラナデ　体部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ　体部ヘラナデ	H-15 No.3
177	土師器 甕	(18.0)	—	〈5.1〉	口～肩部 破片	外 褐 内 にぶい褐	雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ　肩部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ　肩部ヘラナデ	H-15 No.2
178	土師器 坏	(11.3)	丸底	3.4	口～体部 破片	橙	雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ 内面：ヨコナデ　凍結剥離	H-15No.1
179	土師器 坏	(13.0)	—	〈2.5〉	口～体部 破片	褐	雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ　体部無調整　底部ヘラケズリ　内面：ヨコナデ	H-15
180	須恵器 耳皿	(10.0)	(5.0)	〈1.7〉	口～底部	灰オリーブ	結晶片岩・砂 良好・弱還元	回転糸切り　体部径5㎜程の孔　内から外へ焼成前突孔　右回転	H-16
181	須恵器 埦	—	7.0	〈4.2〉	体～底部	灰白	長石・粗砂 良好	回転糸切り　付高台	H-16 掘
182	須恵器 埦	—	6.8	4.0	体～底部	外 オリーブ黒 内 暗灰黄	雲母・細砂 普通	外面：回転糸切り　内面：底部回転ヘラナデ　いぶし　右回転　底部酸化	H-16 No.4
183	須恵器 坏	(12.2)	5.4	3.7	口～底部 1/2	灰白	結晶片岩・雲母・砂／普通	回転糸切り	H-16 No.6・ H-16
184	須恵器 坏	—	(7.4)	〈2.0〉	体～底部 破片	外 にぶい黄 内 灰黄褐	長石・雲母・砂 良好	外面：回転糸切り　付高台 内面：ヘラナデ	H-16 掘
185	須恵器 大甕	(24.0)	—	〈17.6〉	口～胴部	外 橙 内 浅黄	石英・結晶片岩・砂／普通	内外面：ヘラナデ　凍結剥離	H-16 No.2・3
	須恵器 大甕	—	16.0	〈21.0〉	胴～底部	外 橙 内 浅黄	石英・結晶片岩・砂／普通	外面：体部ヘラナデ　体部下端　回転ヘラケズリ　内面：ヘラナデ	H-16 No.10・ 11・掘・H-6
186	土師器 坏	(12.0)	(6.4)	3.2	口～底部 1/4	橙	石英・角閃石・粗砂／良好	外面：口縁ヨコナデ　体部ヘラナデ　体下位～底部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ　体～底部ヘラナデ	H-16

No.	種別	長さ	幅	厚さ	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
187	瓦 平瓦	〈15.9〉	〈11.3〉	1.7	破片	灰	石英・砂 良好	表面：布目　裏面：格子叩き後ヘラナデ 断面酸化	H-16 No.1
188	瓦 平瓦	〈10.5〉	〈6.6〉	2.0	破片	表 灰 裏 暗青灰	長石・砂 良好	表面：布目　裏面：ヘラナデ	H-16 No.13

No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
189	縄文土器 深鉢	—	—	〈6.9〉	口縁部 破片	外 褐 内 黄褐	砂 良好	隆帯渦巻文　沈線区画文　LR 充填　磨消	H-16 掘
190	縄文土器 深鉢	—	—	〈14.2〉	胴部破片	にぶい橙	雲母・軽石・砂 普通	蛇行隆線文　条線文	D-1No.1
191	縄文土器 深鉢	—	—	〈16.3〉	胴部破片	にぶい橙	軽石・砂 普通	沈線文　横位ＲＬ	D-1No.2・S-2
192	土製品 土製円盤	径 2.8　厚さ 1.1			完形	表　灰黄褐 裏　褐灰	雲母・軽石・砂 普通	沈線　単節　断面研磨	D-1 下層

No.	種別	器種	計測値	石材、備考	注記
193	石製品	打製石斧	長さ 63.82　幅 63.12　厚さ 23.53　重さ 99.28 g	頁岩　被熱　欠損品	D-1

No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
194	縄文土器 有孔鍔付 土器	—	—	〈2.7〉	肩部破片	外 灰黄褐 内 灰黄	雲母・砂 良好	外面：赤彩　鍔　孔 内面：赤彩	D-2
195	縄文土器 深鉢	—	—	〈3.5〉	口縁破片	にぶい黄橙	雲母・軽石・砂 良好	沈線文　刺突文　傾き不明	D-2
196	縄文土器 深鉢	—	—	〈4.4〉	口縁部 破片	にぶい黄橙	石英・雲母・砂 普通	隆帯文　横位 RL	D-2
197	縄文土器 深鉢	—	—	〈7.5〉	胴部破片	外 暗褐 内 にぶい橙	雲母・砂 良好	沈線文	D-2
198	縄文土器 深鉢	—	—	〈8.8〉	胴部破片	外 にぶい黄褐 内 にぶい黄橙	雲母・軽石・砂 良好	隆帯区画文　区画内 RL	D-2
199	縄文土器 深鉢	—	—	〈19.6〉	口～胴部 破片	外 灰オリーブ 内 灰	石英・軽石・粗砂 普通	隆帯渦巻文・区画文　区画内沈線　絡条体	D-3No.12・14
200	縄文土器 深鉢	—	—	〈11.6〉	胴部破片	外 褐 内 明黄褐	石英・結晶片岩・粗砂／普通	隆帯文　沈線文　絡条体？　マメツ	D-3No.3
201	縄文土器 浅鉢	—	—	〈23.2〉	口～胴部 破片	明褐	角閃石・軽石・粗砂／普通	隆帯渦　巻文・区画文　区画内沈線　LR	D-3No.1

No.	種別	器種		計測値				石材、備考	注記
202	石製品	打製石斧		長さ 120.65　幅 66.15　厚さ 23.63　重さ 130.0 g				黒色安山岩	D-3
203	石製品	打製石斧		長さ 62.84　幅 54.68　厚さ 25.62　重さ 90.65 g				黒色安山岩	D-3
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
204	土師器 甕	(18.0)	—	〈5.2〉	口～頸部 破片	外 黒褐 内 明赤褐	雲母・砂 良好	外面：口縁ヨコナデ　頸部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ　頸部ヘラナデ	D-4
205	縄文土器 深鉢	—	—	〈17.0〉	胴部破片	外 にぶい黄褐 内 にぶい黄橙	雲母・軽石・砂 普通	沈線文　単節	S-2 No.1・X-1
206	縄文土器 深鉢	—	—	〈9.9〉	口～胴部 破片	外 にぶい黄 内 赤褐	軽石・砂 良好	隆帯・沈線区画文　区画内 RL	S-2 No.3
207	縄文土器 深鉢	—	—	〈4.6〉	口縁部 破片	外 明褐 内 黒	雲母・砂 良好	隆帯区画文　沈線文　多条沈線	P-1
208	縄文土器 深鉢	—	—	〈43.2〉	頸～胴部	外 にぶい黄橙 内 灰黄	石英・雲母・軽石・ 砂／普通	隆帯文　沈線文	X-1
209	縄文土器 深鉢	—	—	〈8.6〉	口縁部 破片	外 にぶい褐 内 浅黄	軽石・砂 良好	隆帯渦巻文・区画文　RL ？	X-1
210	縄文土器 深鉢	—	—	〈8.2〉	胴部	外 橙 内 にぶい黄橙	雲母・軽石・砂 普通	沈線文　RL 横位	H-4 掘
211	縄文土器 深鉢	—	—	〈7.9〉	口縁部 破片	外 橙 内 にぶい黄橙	石英・雲母・砂 良好	隆帯区画文　区画内 RL　渦巻文	H-3
212	縄文土器 深鉢	—	—	〈8.9〉	口～胴部 破片	にぶい赤褐	雲母・軽石・砂 良好	隆帯渦巻文・区画文　区画内 LR	X-1
213	縄文土器 深鉢	—	—	〈9.7〉	口～胴部 破片	外 明黄褐 内 にぶい黄橙	石英・雲母・砂 良好	沈線文　烈点文　LR ？	X-1
214	縄文土器 深鉢	—	—	〈9.5〉	口～胴部 破片	外 にぶい黄褐 内 にぶい黄橙	角閃石・砂 普通	隆帯区画文　沈線文	X-1
215	縄文土器 深鉢	—	—	〈5.2〉	口縁部 破片	外 褐色 内 明赤褐	軽石・砂 良好	隆帯区画文　区画内 RL	X-1
216	縄文土器 深鉢	—	—	〈11.7〉	口縁部 破片	外 浅黄 内 にぶい黄褐	雲母・砂 良好	隆帯渦巻文・区画文　LR	X-1
217	縄文土器 有孔鍔付	—	—	〈6.5〉	口～胴部 破片	外 明赤褐 内 褐	雲母・砂 普通	肩部有孔鍔	X-1
218	縄文土器 深鉢	—	—	〈9.0〉	口縁部 破片	明黄褐	角閃石・軽石・砂 良好	隆帯渦巻文　沈線文	X-1
219	縄文土器 突起	—	—	〈4.7〉	飾部破片	褐灰	砂 普通	刺突文	X-1
220	縄文土器 深鉢	—	—	〈8.2〉	胴部破片	外 明赤褐 内 赤黒	雲母・軽石・砂 普通	隆帯区画文　区画内沈線文	X-1
221	縄文土器 深鉢	—	—	〈7.1〉	頸～胴部 破片	外 にぶい橙 内 にぶい黄橙	雲母・砂 良好	区画文　鋸歯状沈線　区画内条線	X-1
222	縄文土器 深鉢	—	—	〈11.6〉	胴部破片	外 明赤褐 内 赤褐	雲母・軽石・砂 普通	外面：渦巻浮き線文　ミガキ 内面：ミガキ	X-1
223	縄文土器 深鉢	—	—	〈5.5〉	胴部破片	外 オリーブ褐 内 黒褐	石英・軽石・砂 良好	浮き線　沈線　区画文　傾き不明	X-1
224	縄文土器 台	—	6.4	〈4.2〉	台部 1/2	橙	雲母・砂 良好	突起の可能性あり	X-1
225	土製品 土製円盤	—	—	2.2	完形	にぶい黄橙	石英・砂 普通	断面研磨	X-1
226	縄文土器 深鉢	—	—	〈12.3〉	口～胴部 破片	明黄褐	石英・結晶片岩・ 砂／普通	隆帯区画文　区画内沈線　LR	X-1
227	縄文土器 深鉢	—	—	〈10.0〉	胴部破片	外 灰黄褐 内 明赤褐	雲母・砂 良好	隆帯区画文　RL?　焼成後穿孔	D-2
228	縄文土器 深鉢	—	—	〈8.8〉	口縁部 破片	外 にぶい黄橙 内 にぶい黄褐	軽石・砂 良好	隆帯渦巻文・区画文　RL	X-1
229	縄文土器 深鉢	—	—	〈9.9〉	把手	外 橙 内 浅黄	石英・軽石・粗砂 普通	橋状把手　無文	X-1
No.	種別	器種		計測値				石材、備考	注記
230	石製品	凹石		長さ 121.0　幅 86.5　厚さ 52.4　重さ 446.0 g				粗粒輝石安山岩	X-1
231	石製品	打製石斧		長さ 60.5　幅 37.8　厚さ 12.6　重さ 36.54 g				黒色安山岩	X-1
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
232	灰釉陶器 埦	—	(8.4)	〈3.5〉	体～底部	地 灰白 釉 灰オリーブ	精製 良好	外面：体部上半浸け掛け　底部ヘラナデ 三日月高台貼付　内面：灰釉	北

No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
233	土師器 坏	12.0	—	5.0	口～底部 1/2	にぶい橙	結晶片岩・砂 普通	外面：口縁ヨコナデ　底部ヘラケズリ 内面：口縁ヨコナデ　体部ヘラナデ	北
No.	種別	長さ	幅	厚さ	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
234	瓦 平瓦	〈14.6〉	〈11.7〉	2.3	破片	黄灰	石英・粗砂 良好	表面：ヘラナデ　面取り　裏面：ヘラナデ	北
No.	種別	口径	底径	器高	残存	色調	胎／焼成	内・外面の特徴	注記
235	縄文土器 深鉢	—	9.2	〈24.1〉	胴～底部	外 黄褐 内 灰黄褐	石英・軽石・粗砂 普通	沈線区画文　区画内 RL	北東
236	縄文土器 深鉢	—	6.0	〈22.8〉	胴～底部	外 橙 内 にぶい褐	軽石・砂 普通	沈線区画文　区画内条線文	北東
237	縄文土器 深鉢	—	7.7	〈15.8〉	胴～底部	外 橙 内 黒褐	軽石・粗砂 普通	無文	北
238	縄文土器 深鉢	—	—	〈11.0〉	口～胴部 破片	外 明褐 内 黄褐	角閃石・軽石・砂 良好	隆帯文　沈線区画文　区画内沈線	北
No.	種別	器種	計測値					石材、備考	注記
239	石製品	打製石斧	長さ 115.62　幅 39.02　厚さ 15.93　重さ 35.33 g					黒色頁岩　240 と接合	北
240	石製品	打製石斧	長さ 104.02　幅 42.40　厚さ 16.73　重さ 70.38 g					黒色頁岩　239 と接合	北
239	石製品	打製石斧	長さ 121.77　幅 42.40　厚さ 21.32　重さ 105.77 g					黒色頁岩	北
241	石製品	打製石斧	長さ 117.67　幅 48.46　厚さ 21.99　重さ 152.0 g					黒色安山岩	北東
242	石製品	打製石斧	長さ 109.64　幅 50.73　厚さ 18.24　重さ 116.0 g					黒色安山岩	北東
243	石製品	剥片	長さ 24.8　幅 29.5　厚さ 95.0　重さ 6.59 g					黒曜石　二次加工のある剥片	北東
244	石製品	打製石斧	長さ 73.3　幅 42.5　厚さ 23.0　重さ 82.38 g					黒色頁岩	北東

第４章　まとめ

第１節　遺構の概観

本調査は限られた範囲の調査であり、当然ながら遺跡の全容を把握するには至っていない。調査成果については国府、国分寺・尼寺に隣接する地域にあり、これまでに蓄積されたデータを加えた分析が必要であるが、周辺地域での発掘調査が現在も継続中であること、遺跡範囲が広大であること、膨大な調査データを分析する条件が整っていないことから、遺構については隣接する「元総社小見Ⅱ遺跡」（前橋埋文調査団 2002）に則した時期別遺構配置図の掲載に止め、遺物については特殊な遺物と判断される H-6 出土の有鍔台付鉢の出土例紹介、H-11 出土の盤状坏について若干の考察を加えまとめとしたい。

遺構の配置、時期区分については図 1･2 に示すとおりであり、特に「元総社小見Ⅱ遺跡」との違いは見当たらない。

縄文時代の出土遺物には諸磯 C 式（前期）、加曾利 E 式（中期）などが見られるが、J-1 ～ 4・D-3 のいずれも中期後半と推定され、中央部に石囲い炉が配されている。しかし、J-3 については S-2 が炉の可能性があるものの不明瞭である。相対的に遺跡西寄りに南北帯状に分布している傾向が窺える。

古墳時代の住居は比較的大型ものが多く、特に前半は遺跡西側の台地上にまとまって分布し、後期には低地と接する縁辺部への広がりが窺える。

7 世紀後半～ 8 世紀の住居は小型化し、相対的に遺跡南西にまとまって分布している傾向が窺える。H-11 は 10 世紀前半と考えられる住居ではあるが、出土遺物である盤状坏（第 38 図 15）はこの時期に該当する貴重な遺物であり、南武蔵型盤状坏としては県内初の出土事例である可能性が高い。

9･10 世紀はさらに住居の小型化が進み、件数の急増、範囲拡大の傾向が窺え、10 世紀以降の住居からは瓦の出土が目立つようになり、隣接する国分寺・尼寺に使用された瓦の再利用が盛んに行われていたことが示唆される。また、土器類についても施釉陶器の比率が他地域より高い印象を受ける。

図 1. 元総社蒼海遺跡群 103・元総社小見Ⅱ遺跡全体図

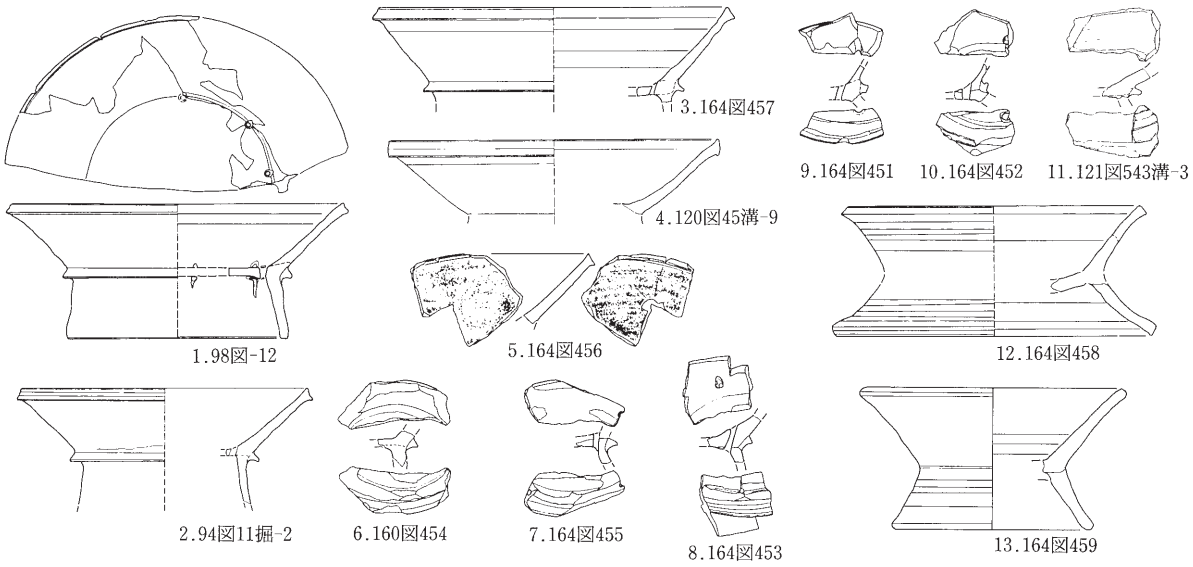
図 2. 時期別遺構全体図

第２節　H-6 出土の有鍔台付鉢について

『有鍔台付鉢』の名称については、今のところ出土例が見当たらず、“仮称”とするところであるが、類似する報告例として以下の資料があることを神谷佳明氏より御教示いただいた。

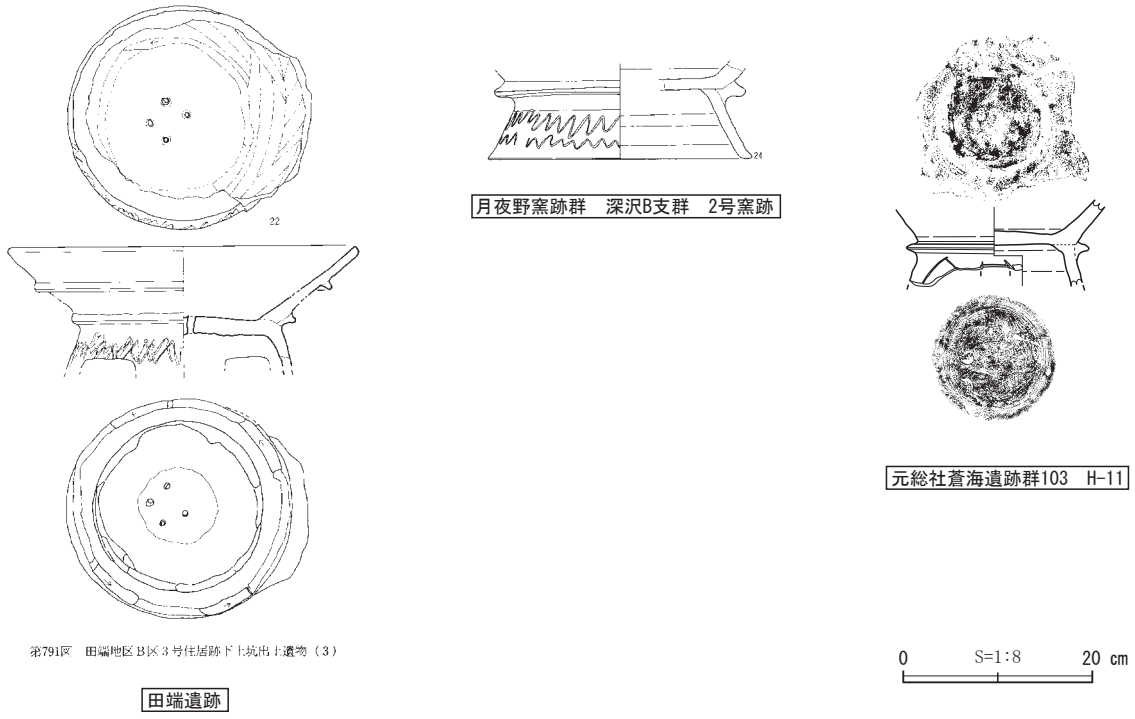
その類例は図 2 に示すとおりで、玉村町の「福島曲戸遺跡」（群埋文 2002）で『有孔鍔付鉢・台付鉢』の報告例が、高崎市の「田端遺跡」（群埋文 1988）で『器種不明須恵器』の報告例が、月夜野町の「月夜野窯跡群深沢 B 支群」（群埋文 2016）で『台付鉢』の報告例がある。いずれも用途・性格については明らかにされていないが、「福島曲戸遺跡」（群埋文 2002）の中で原雅信・石川雅俊氏は「田端遺跡」との比較において器形の類似性、鍔貼付、底部穿孔などの共通する特徴を指摘し、仮称『有孔鍔付鉢』として報告している。また、「田端遺跡」出土のものには二次的な被熱痕が認められることから鉢部内での火熱の使用を想定している。なお、「月夜野窯跡群深沢 B 支群」のものは底部中央部が欠損しており、底部に穿孔を有するかは不明瞭である。台部の櫛描波状文は「田端遺跡」のものに酷似してているが、透かしがないところは相違点である。

本遺跡 H-6 出土の台付鉢は、全体的な器形、鍔の貼付方法は深沢 B 支群に、方形の透かし、二次的な被熱の痕跡（煤付着）が認められることは田畑遺跡に似ているが、これら類例と最も大きな違いは底部に穿孔が無い点で、『有孔鍔付鉢』 と機能的な相違を思わせること、台部に方形透かしと線刻文が施されている点が挙げられる。また、出土遺構も「田端遺跡」では大型土坑、「福島曲戸遺跡」では堀・竪穴遺構、「深沢 B 支群」では須恵器窯、本遺跡では竪穴住居と共通性は見出せない。ただし、不確実ではあるが、これらの遺跡が 9 ～ 10 世紀代の寺院、公的施設との関連性が想像される遺構が遺跡内、あるいは隣接地域に存在することは本遺跡が国府・国分寺に隣接する点で共通性が窺える。



第254図　有孔鍔付鉢・台付鉢

福島曲戸遺跡



月夜野窯跡群　深沢B支群　2号窯跡

元総社蒼海遺跡群103　H-11

田端遺跡

図3. 有鍔台付鉢出土例

以上、今のところ類例が乏しく資料紹介程度のことしか記述できないが、今後の資料の蓄積に期待するところである。

※引用参考文献

原雅信・石川雅俊『福島曲戸遺跡・上福島遺跡』群埋文 2002
神保侑史・西田健彦・他『田端遺跡』群埋文 1988
神谷佳明『月夜野窯跡群深沢Ｂ支群』群埋文 2016

付編　元総社蒼海遺跡群（103）から出土した盤状坏について

はじめに

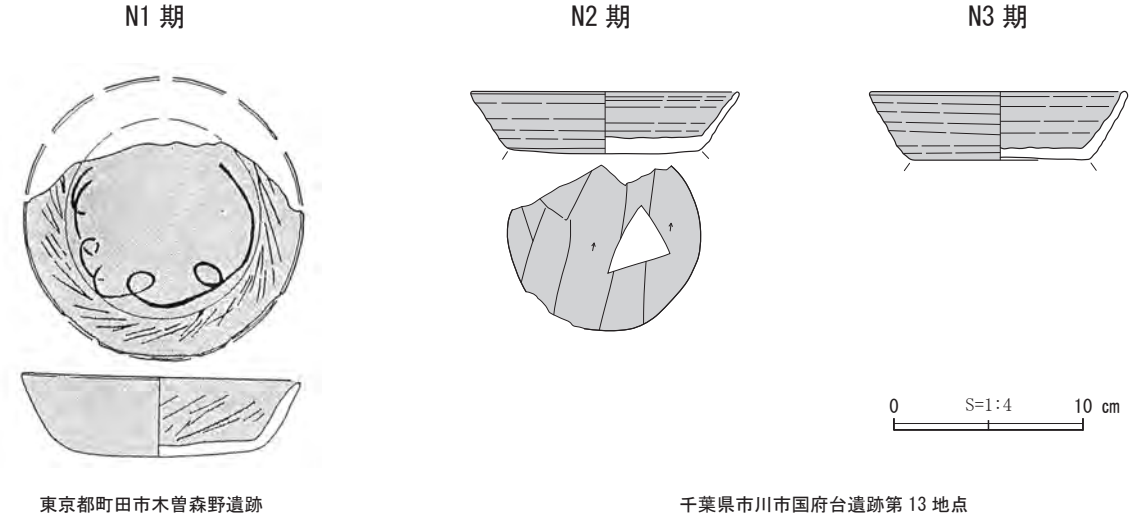
遺物選別作業中、違和感を覚える一際目を引く土器があった。その特徴から盤状坏の可能性が考えられたので、ここに取り上げて検討を加えておきたい。

盤状坏の概略

盤状坏とは、平底で底面積が広く口径が大きい割に器高が低い安定感のある土師器坏で、その多くは内外面に赤彩が施される特徴をもつ。その分布は南関東が中心であるが少量だが下野国、東北地方や東海地方においても確認されるという（小林 1986）。武蔵国府周辺においては武蔵国の律令的土器様式を代表する土師器とされている。（江口 2014）

その用途については現状で食膳具説（山口 1984・江口 2006・松本 2013）と食膳具以外の用途説（青木 2001・2003）がある。特に青木敬は、盤状坏が安定して平置きできる大きな底面を有することから液体を入れたと考え、内外面の赤彩は液漏れ防止の加工と考えている。使用方法としては工房等で用いる作業用のパレットのような役割と考えつつも、灯明皿や硯に転用された例もあることから、複数の用途で使用された可能性を指摘している。

時期的には山口辰一による武蔵国府編年（山口 1984）によるN1 期（7 世紀末～ 8 世紀初頭）に国府専用として出現し、N2 期（8 世紀前葉～第Ⅱ四半世紀中心）には一般集落に出回るようになる。そしてN3 期（8 世紀中葉）には衰退・消滅してしまう非常に短命な土器である。

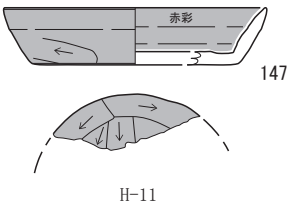


東京都町田市木曽森野遺跡　　千葉県市川市国府台遺跡第 13 地点

元総社蒼海遺跡群（103）出土の盤状坏

本資料は破片で、推定口径 14.0cm、推定底径 11.0cm、器高 3.0cm、ロクロ整形で、口縁部以下の外面は手持ちケズリによって調整されており、特に底面は周縁部分を意識したようである。内外面には赤彩が施され、口縁部を中心に手ずれと思われる摩耗が顕著である。胎土はきめ細かい砂質で赤色スコリアを含み、白みがかった色調であることから、県内産ではない。赤色スコリアを含むことから、武蔵国府周辺から搬入された可能性が非常に高い。また、本資料において顕著な手ずれ状の磨滅につい

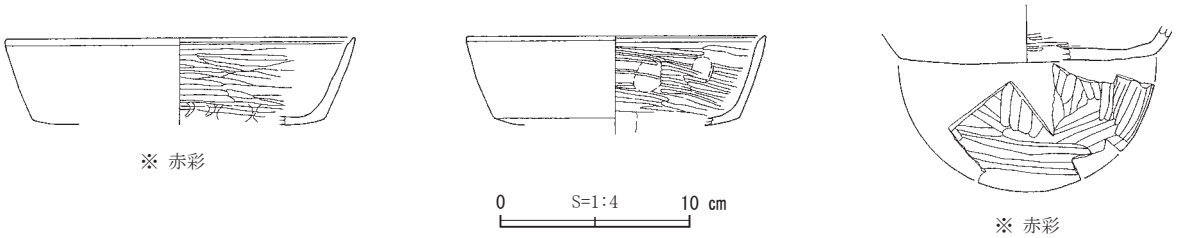
ては、本場の事例に多い特徴であると江口が指摘しており（江口 2014）、本資料が南武蔵と同様の使用方法を経た可能性と、南武蔵である程度使用されたものが持ち込まれた可能性の双方が考えられる。本資料は武蔵国府編年の N3 期（8 世紀中葉）の盤状坏に相当する。（註 1）出土した H-11 は 10 世紀代の竪穴建物であることから、混入と考えられる。本資料自体の示す 8 世紀中葉頃の遺構は、今回の調査区内では H-10 が近い時期である。さらに南に隣接する元総社小見Ⅱ遺跡（土生ほか 2002）を見ると、H-4・18 とされる竪穴建物が 8 世紀後半頃で近い時期である。従って本資料は本来これらの遺構に伴っていた可能性がある。



群馬県内における事例

県内における盤状坏の出土例は極めて少なく、今のところ渋川市の半田中原・南原遺跡 43・72・83 号住居跡で計 6 点の出土が知られているに過ぎない（註 2）。これらの特徴は口径 16cm ～ 19cm 前後、内外面に丁寧なヘラミガキが見られ、武蔵国府編年の N1 期（7 世紀末～ 8 世紀初頭中心）の盤状坏と一致する特徴をもっている。該期の盤状坏は内面に放射状暗文をもつ否ロクロ整形で、内外面にヘラミガキを加えるものも多い。大口径（口径 15 ～ 17cm 程度）が主体を占め、形態的には畿内産土師器の影響を受けるが、畿内にはない赤彩を施した土師器である。

半田中原・南原遺跡では盤状坏以外に高盤等も多く、明らかに一般集落ではない遺跡である。報告者の大塚昌彦は、南関東からの人達による計画村落である可能性と、「有牛」墨書土器を根拠に延喜式の「有馬島牧」である可能性を考えている。



半田中原・南原遺跡の盤状坏

まとめ

本資料は武蔵国府周辺から搬入されたもので、県内ではほとんど例のない特殊遺物である武蔵型盤状坏は当然、武蔵国府周辺での出土例が多いが、武蔵国と上野国の連絡路として機能した東山道武蔵路の駅家と考えられている埼玉県所沢市の東の上遺跡や、東海道駅路で結ばれた下総国府である千葉県市川市国府台遺跡からも出土している。上野国府周辺域出土である今回の例も、やはり武蔵路を通じてもたらされたものと思うが、その背景には国府間の流通・交流が控えている可能性が考えられる。ちなみに本資料は、武蔵型盤状坏の分布の北限となるようである（註 3）。上野国府域の発掘調査は近年前橋市教育委員会によって精力的に進められており、特殊遺物の分布から国府域を探る検討もなされている（阿久澤ほか 2013）。今回確認された盤状坏が、今後の上野国府研究の進展に資することを期待するものである。

筆者はまだまだ未熟で研究を始めたばかりであるが今後も研究を継続していきたいと考える。

ご教示いただいた永井智教氏、青木敬氏、江口桂氏、田尾誠敏氏、神谷佳明氏にここに記し、感謝の意を表させていただく。そして本報告書に拙稿の掲載を許可していただいた事にも感謝したい。

註

(1) 本資料は平成 28 年 3 月の第 32 回条里制・古代都市研究会大会において、永井智教氏を介して青木敬氏（独立行政法人奈良文化財研究所　現國学院大学准教授)、江口桂氏（府中市ふるさと文化財課長)、田尾誠敏氏（東海大非常勤講師）に実見していただき、形態特徴から 8 世紀中葉以降の武蔵型盤状坏であるとの鑑定を頂いた。

(2) 神谷佳明氏に県内における盤状坏の出土についてご教示いただいた。

(3) 註（1）に同じ。

〈引用・参考文献〉

青木敬 2001「盤状坏と古代の集落―多摩地域における検討―」『土壁　第 5 号』考古学を楽しむ会

青木敬 2003「盤状坏の史的意義」『和田西遺跡の研究』 考古学を楽しむ会

阿久澤智和・眞下晃 2013『推定　上野国府～平成 24 年度調査報告～』

江口桂・野田憲一郎 2006「武蔵国府跡出土土器群の再検討」『埼玉考古学会 50 周年記念シンポジウム　古代武蔵国の須恵器流通と地域社会』 埼玉考古別冊 9　埼玉考古学会

江口桂 2014『古代武蔵国府の成立と展開』同成社　古代史選書 13

江口桂 2014『古代官衙』考古学ハンドブック 11　ニューサイエンス社

江坂輝彌・前田光雄ほか 1989『東京都町田市木曽森野遺跡　歴史時代編』町田市木曽森野地区遺跡調査会

大塚昌彦 1994『半田中原・南原遺跡』渋川市発掘調査報告書第 41 集

河井英夫 1985『すぐじ山下遺跡発掘調査報告書（歴史時代)』 竹中工務店仮設道路用地内遺跡調査会

岡田茂弘ほか 1998『シンポジウム東国の国府 inWAYO －考古学からみた東国国府の成立と変遷―』シンポジウム東国の国府 inWAYO 実行委員会

小出義治・玉口時雄ほか 1981『シンポジウム盤状坏―奈良時代土器の様相―』 相武古代研究会・東洋大学未来考古学研究会

小林信一 1986「ロクロ手法土師器の出現」『國學院大學考古学資料館紀要』第 2 集　國學院大學考古学資料館

坂詰秀一・高林均・福田健司 1996『落川遺跡Ⅰ』 日野市落川調査会

坂詰秀一・高林均・福田健司 1997『落川遺跡Ⅱ』 日野市落川調査会

白﨑智隆・沼畑伸一『国府台遺跡　第 13 地点（6）～（11)』 株式会社コクドリサーチ

根本靖 2009「古代入間郡出土の盤状坏について」『論叢　古代武蔵國入間郡家Ⅱ－多角的視点からの考察―』古代の入間を考える会

根本靖 2010『東の上遺跡 - 飛鳥・奈良・平安時代編Ⅰ』 所沢市教育委員会

土生朗治・松川由之・齊木一敏 2003『元総社小見Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財調査団

松本太郎 2013『東国の土器と官衙遺跡』六一書房

山口辰一 1984「武蔵国府関連遺跡における土器編年試論」『武蔵国府関連遺跡調査報告Ⅴ』府中市埋蔵文化財調査報告第 5 集

山口辰一 1985「武蔵国府と奈良時代の土器様相」『東京考古』3　東京考古談話会

写　真　図　版

H-1 完掘　南から

H-1 カマド　南から

H-1 遺物出土状況

H-1 遺物出土状況

H-2 完掘　西から

H-2 掘り方　西から

H-2 カマド　西から

H-2 カマド　北から

図版 2

H-3 完掘　東から

H-3 掘り方　東から

H-3 遺物出土状況

H-3 P1

H-3 P2

H-3 P3

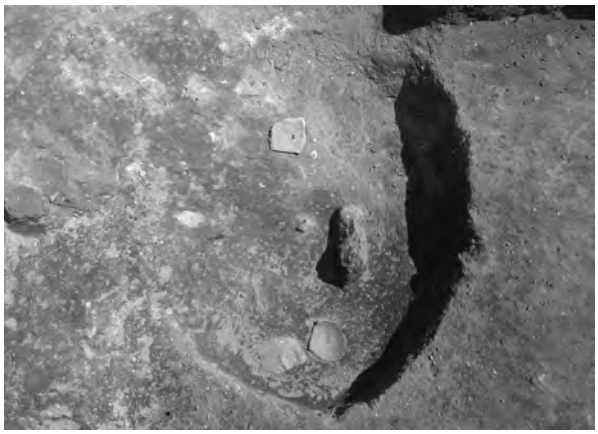
H-3 P3 遺物出土状況

H-4 完掘　西から

H-3 カマド　西から

H-4 カマド遺物出土状況　西から

H-4 カマド袖内遺物出土状況



H-4 貯蔵穴　西から

H-4 掘り方　西から

H-5 完掘　南から

H-5 カマド　西から

H-5 炉　西から

図版 4

H-6 完掘　西から

H-6･16･17 掘り方　南から

H-7 完掘　西から

H-7 掘り方　西から

H-8 掘り方　南東から

H-9 遺物出土状況

H-10 完掘　西から

H-10 カマド　西から

H-11 完掘　西から

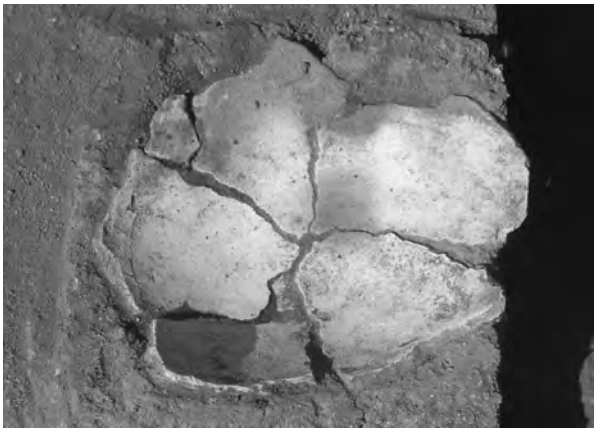
H-11 カマド　西から

H-11 掘り方　西から

H-12 掘り方　南西から

H-13 完掘　西から

H-13 遺物出土状況



H-13 遺物出土状況

H-13 遺物出土状況

図版 6

H-13 遺物出土状況

H-13 遺物出土状況

H-13 遺物出土状況

H-13 P1

H-14 完掘　北西から

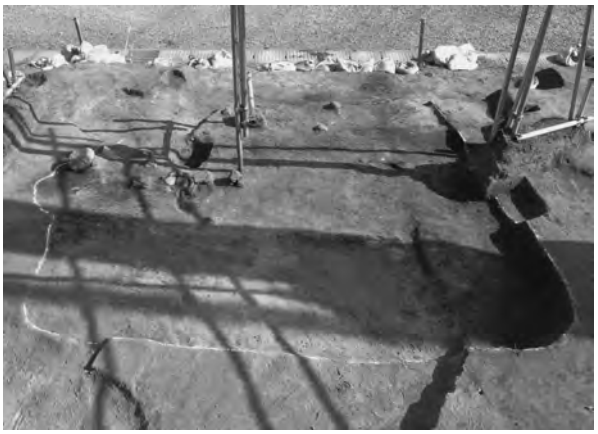
H-14 遺物出土状況

H-14 掘り方　北西から

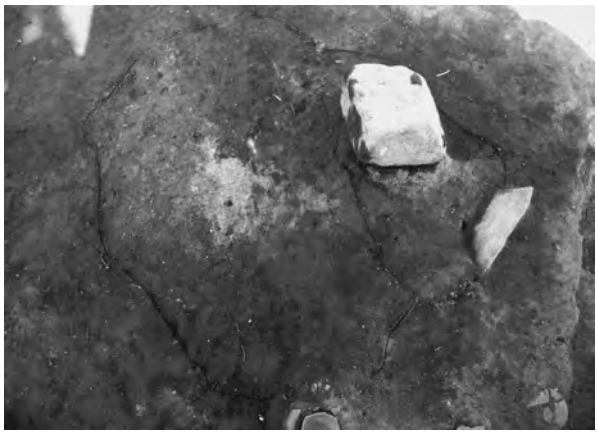
H-15 完掘　西から

H-15 カマド　西から

H-15 遺物出土状況



H-16 完掘　北から



H-16 カマド　南から

H-16 遺物出土状況

H-16 遺物出土状況

H-16 遺物出土状況

H-17 完掘　南から

J-1 完掘　南から

J-1 炉　東から

J-1 炉　北から

J-1 炉埋甕　北から

J-2 完掘　東から

J-2 炉　南から

J-3 完掘　北東から

J-3 埋甕　東から

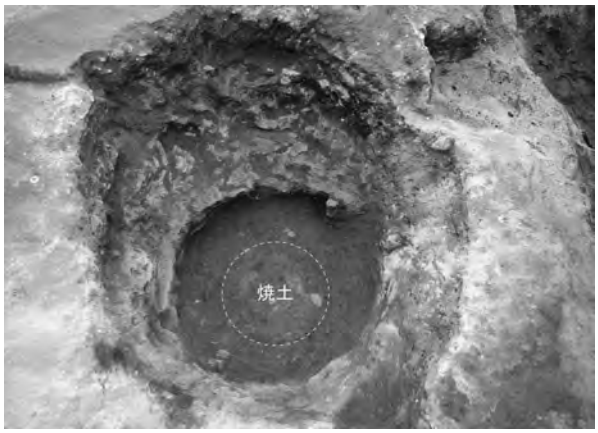
J-4 完掘　南東から

J-4 炉　南から

J-3 上遺物集中　北から

J-3 上遺物集中　北から

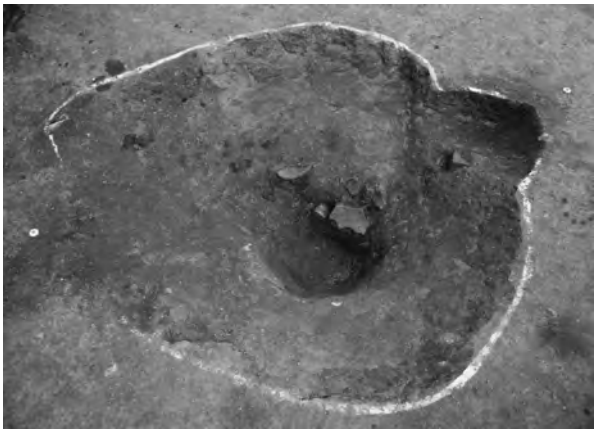
D-1　北東から



D-1 焼土　北から

D-2　北から

D-2 遺物出土状況　北から

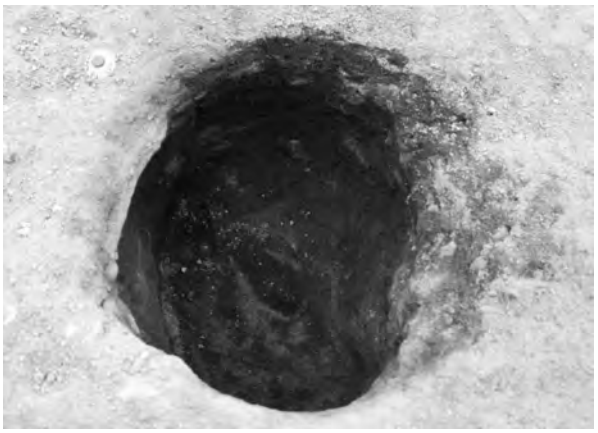


D-3　西から

D-3 遺物出土状況　北西から

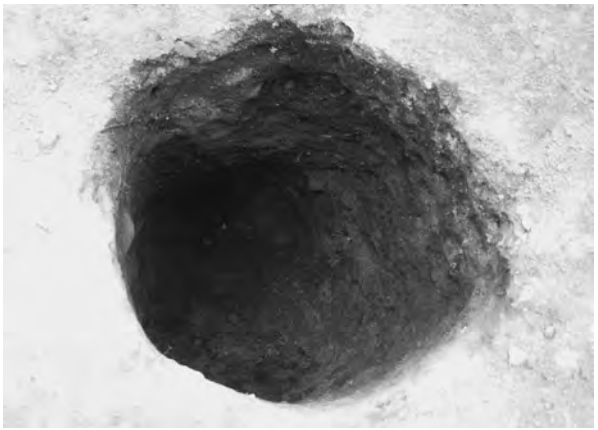
P-1　北から

P-2　東から



P-3　南から

P-4　北から



P-5　北東から

S-1　西から

S-2　北から

S-2　北から

S-2　北から

作業風景

作業風景（J-1 上遺物集中）

作業風景（H-9）

作業風景（断面計測）

表土掘削

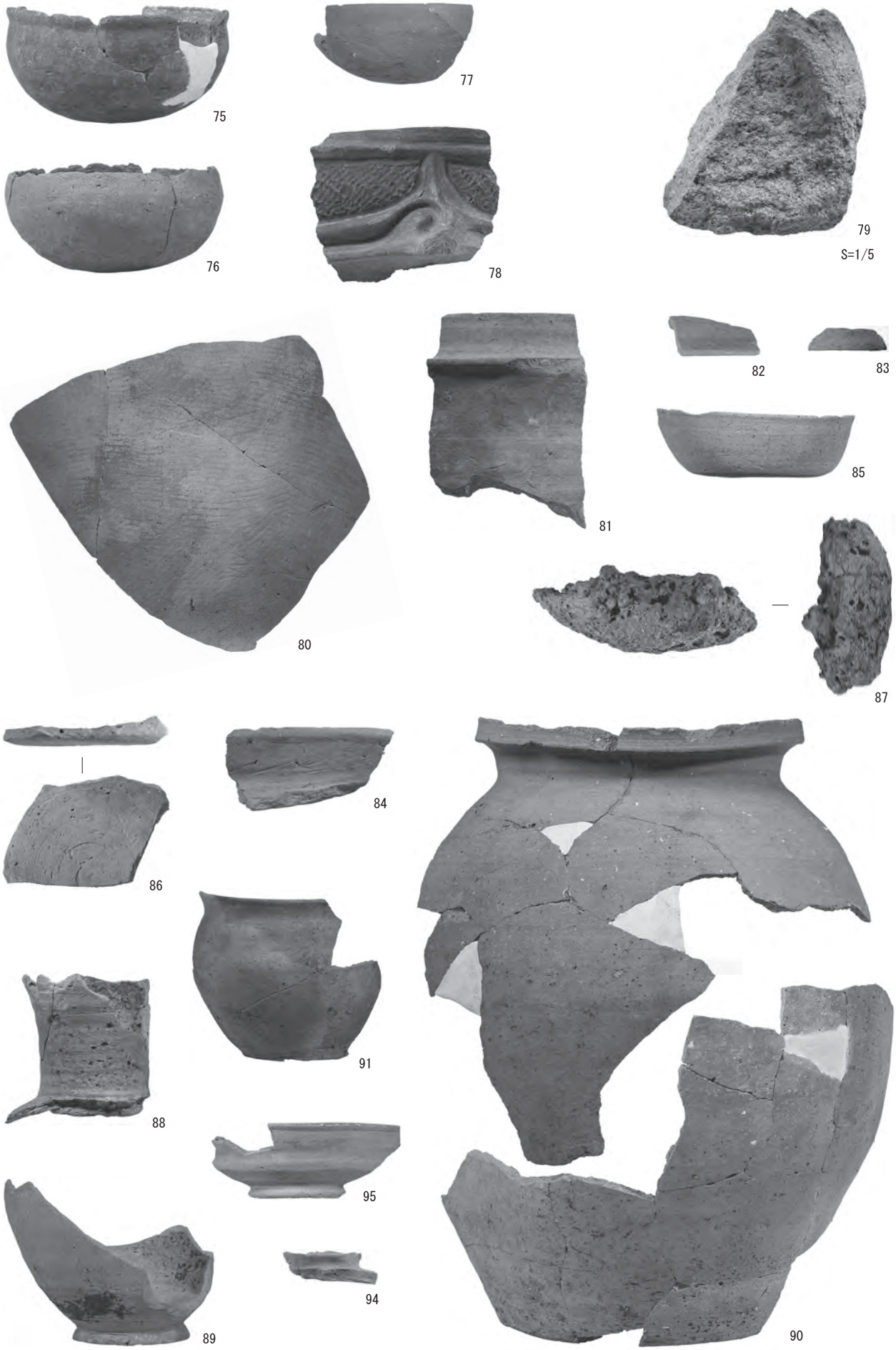
S=1/4

J-1・2・3　出土遺物

J-4、H-1　出土遺物

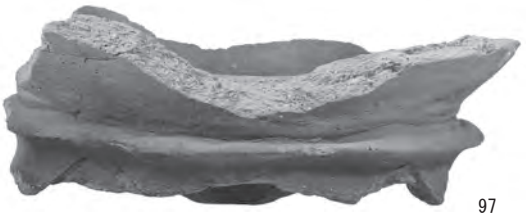
H-2　出土遺物

H-3･4　出土遺物



H-4・5・6　出土遺物

92


97

93

96

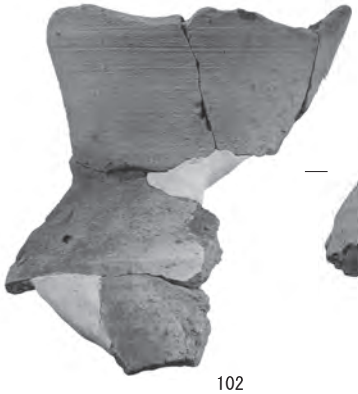
98

99

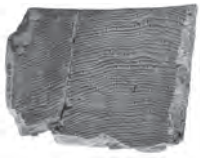
100

103

101

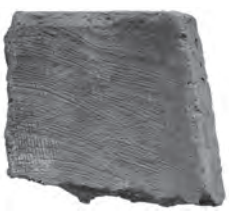

102

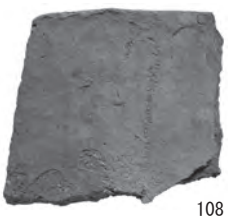
102


104

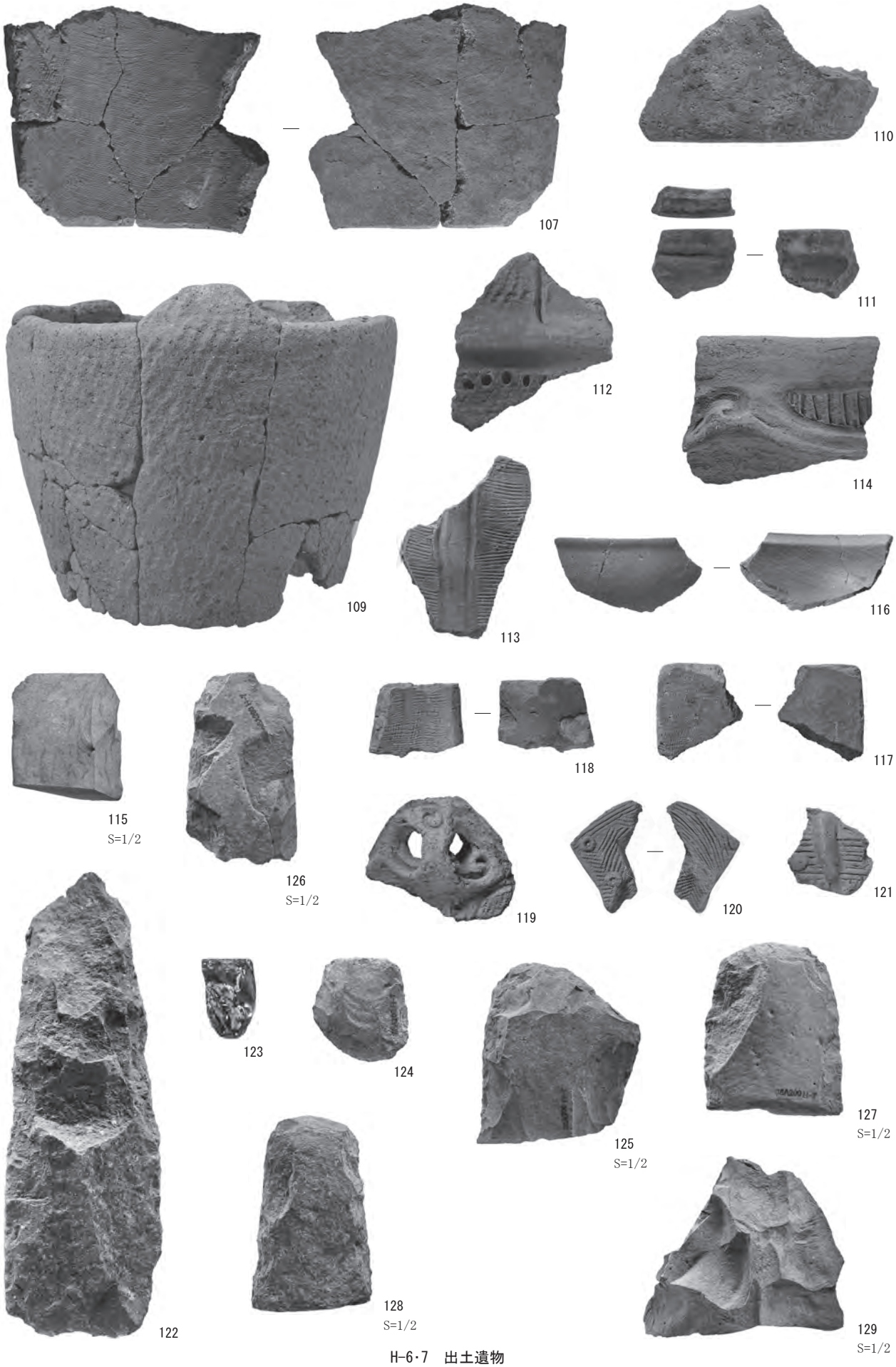
105

106

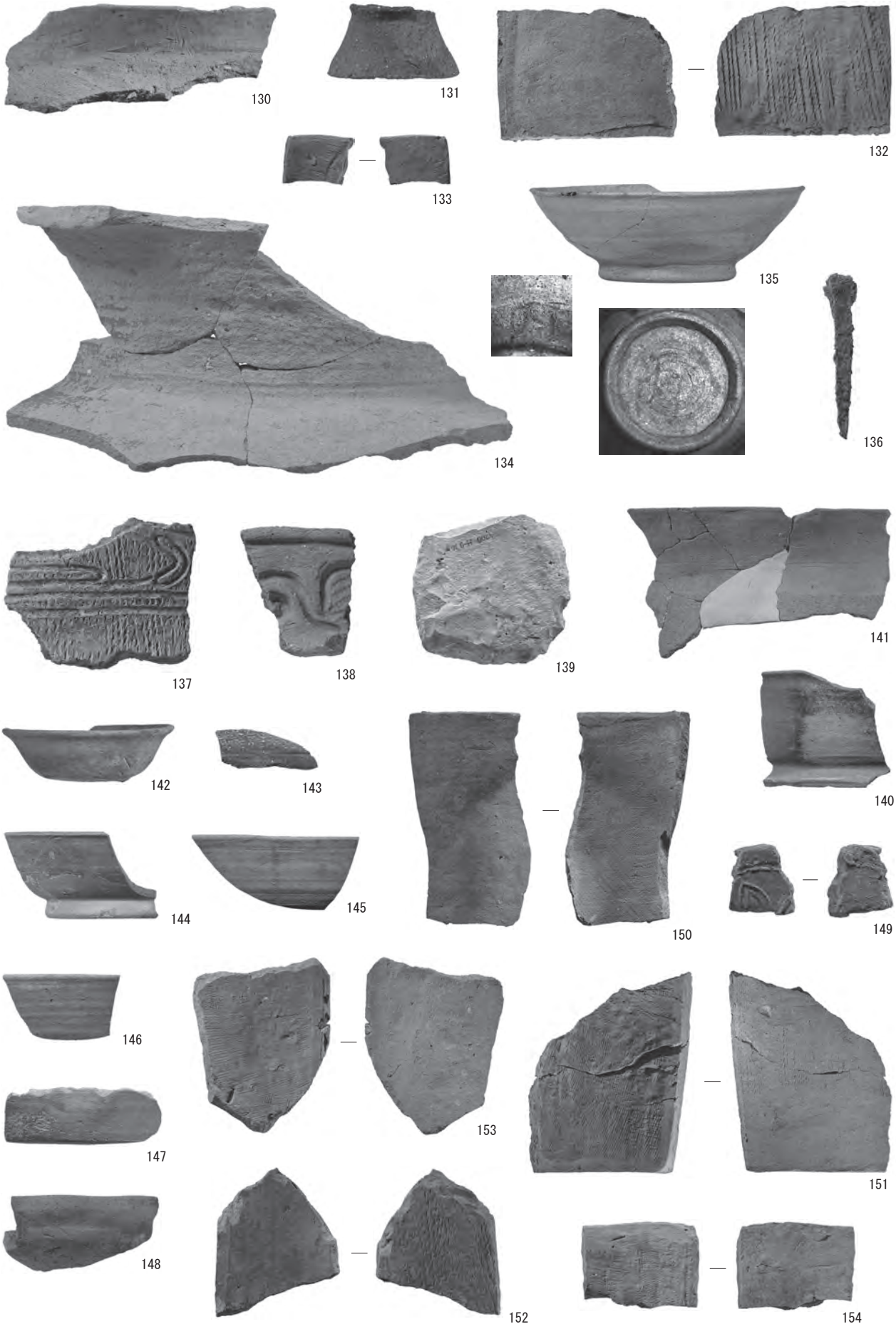



108

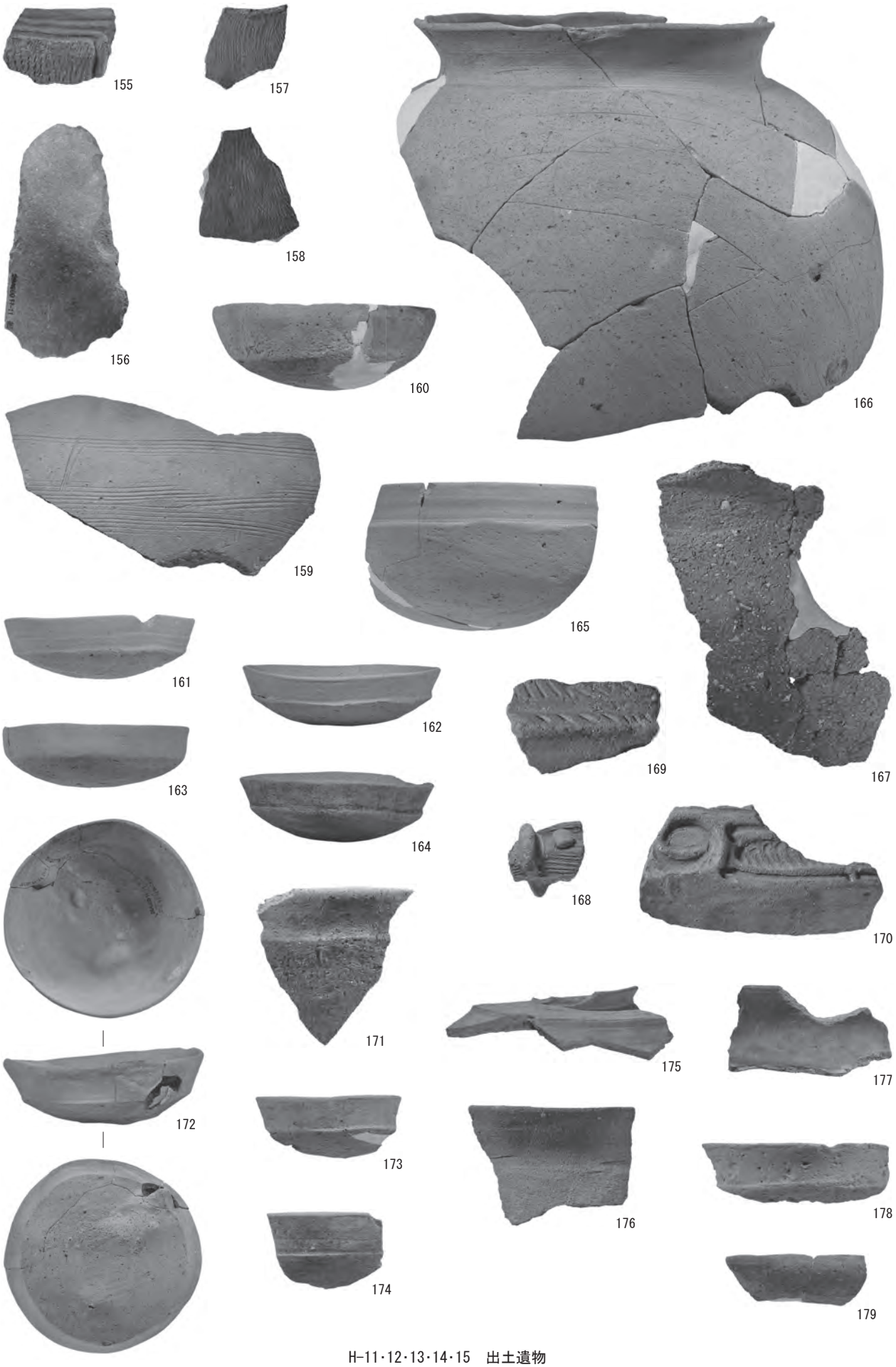
H-6　出土遺物


107
110
111
112
114
109
113
116
115
S=1/2
126
S=1/2
118
117
119
120
121
123
124
125
S=1/2
127
S=1/2
122
128
S=1/2
129
S=1/2

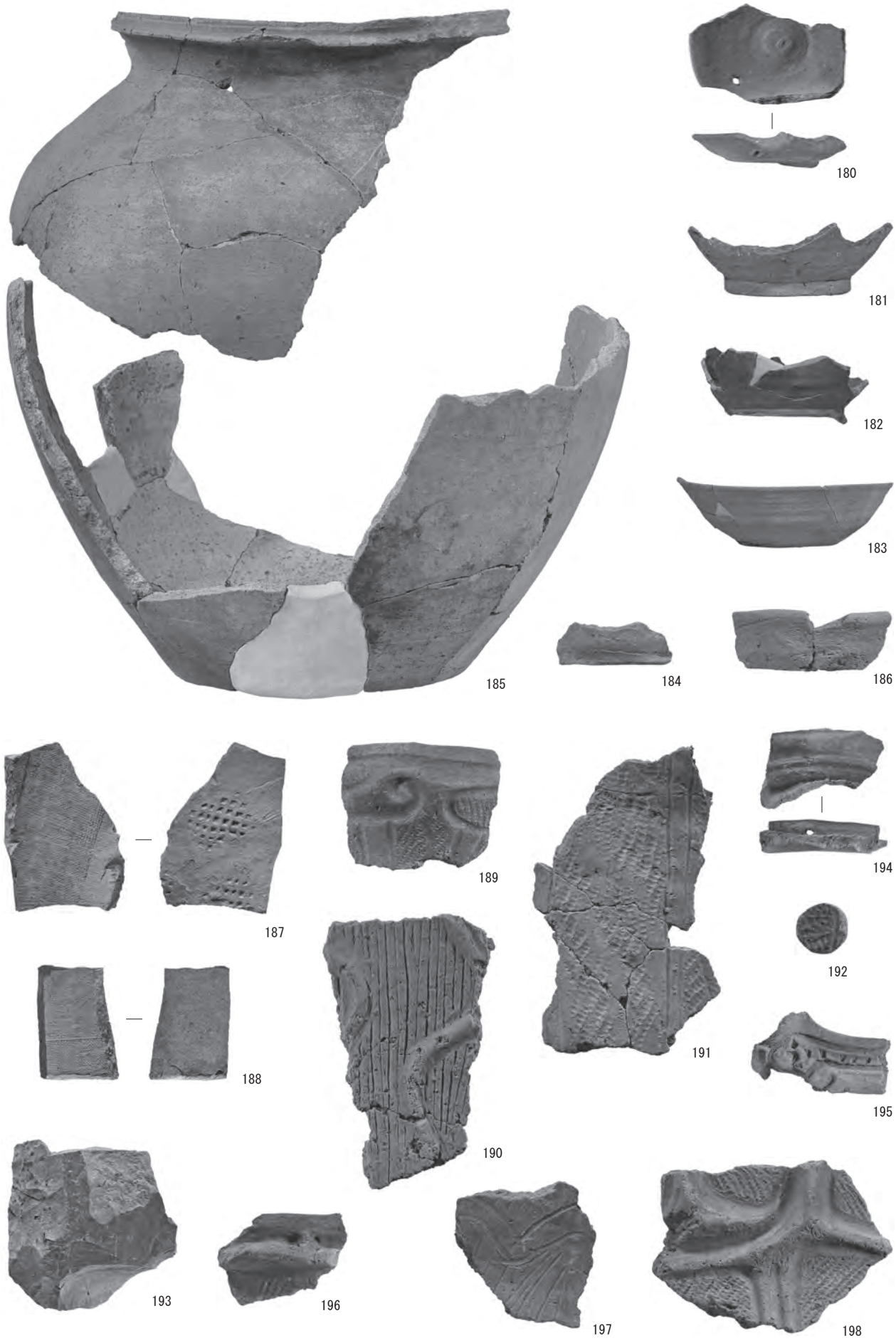
H-6·7　出土遺物



H-8·9·10·11　出土遺物



H-11・12・13・14・15　出土遺物


180
181
182
183
185
184
186
187
189
194
192
191
188
190
195
193
196
197
198

H-16、D-1·2　出土遺物

199

200

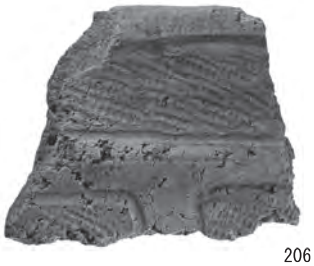
204

202

203

201

207


206

209

205

210

215

212

211

D-3·4、S-2、P-4　出土遺物

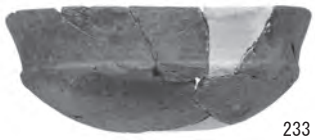
S-2、X-1　出土遺物

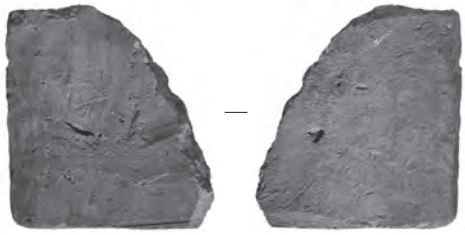
228

219

231
S=1/2

232


233


234

230
S=1/3

235

237

239
240

238

236

242

241

243
S=1/2

244
S=1/2

X-1、遺構外　出土遺物

抄　　録

フ　リ　ガ　ナ	モトソウジャオウミイセキグン 103
書　　名	元総社蒼海遺跡群（103）
副　書　名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻　　次	—
シ　リ　ー　ズ　名	—
シ　リ　ー　ズ　番　号	—
編　著　者　名	笠原仁史・藤坂和延
編　集　機　関	有限会社　歴史考房まほら
編　集　機　関　所　在　地	〒３７２－０８１５　群馬県伊勢崎市東上之宮町１２４８－３
発　行　機　関	前橋市教育委員会
発　行　機　関　所　在　地	〒３７１－０８５３　群馬県前橋市総社町３－１１－４
発　　行　　日	２０１６年　３月２５日

ふりがな 所収遺跡名	フ リ ガ ナ 所 在 地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
元総社蒼海遺跡群（103）	群馬県前橋市 元総社町 1693-1、1712、1613-1･2･3、1614-1	10201	26 A 200	36° 23′ 33″	139° 01′ 34″	2015. 3. 2 ～ 2015. 4.22	470 ㎡	土地区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群（103）	集　落	縄文時代	竪穴建物	4 軒	縄文土器・石器	中期後半
			土坑	1 基		
		古墳時代	竪穴建物	6 軒	古式土師器	
		平安時代	竪穴建物	11 軒	土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦・石製品・鉄滓	有鍔台付鉢 盤状坏
		時期不明	土坑	2 基		
			集石	2 基		
			ピット	5 基		

元総社蒼海遺跡群（103）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画
整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

平成 28 年 3 月 22 日　印刷
平成 28 年 3 月 25 日　発行

発行　前橋市教育委員会事務局
文化財保護課
前橋市総社町 3-11-4
電話　027-280-6511
印刷　朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元総社町 67 番地
電話　027-251-1212